

# オフィス・ステーション Pro ユーザーズ マニュアル

「OS Pro」**「4」**  
「OS Pro」**「8」**  
「OS Pro」**「12」**

改版履歴

版数	日付	改定内容
初版	2021.02.09	初版

## 本マニュアルについて

- 本マニュアルの内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたら代理店、または販売店までご連絡ください。
- マニュアルの内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。
- ファームウェアやインストールされているアプリ等のバージョンは、マニュアルと実機で異なる場合があります。
- 画面イメージは、バージョンにより異なる場合があります。

製品名：NTTPC コミュニケーションズ オフィス・ステーション Pro「OS Pro」(以下「本製品」)

マニュアル・バージョン：1.0

発行日：2021年2月

## 保証範囲

本製品は、保証書記載の内容にて保証いたします。

ただし、どのような場合においても、データの損失及び、データ損失により発生した損害を補償するものではありません。

必要なデータにつきましては、お客様にてバックアップを行うことを強くお勧めいたします。

# 取扱説明書(安全にお使いいただくために)

## 取扱説明書

### 安全にお使いいただくために BizBox Server 「OS Pro」[4]「8」[12]

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
この取扱説明書には、BizBox Server OS Pro シリーズの使用方法や安全にお取り扱いいただくための注意事項などを記載しています。  
本誌の内容を十分にご理解いただいた上で本製品をお使いください。  
また、本誌はいつでも読むことができる場所に大切に保管してください。

#### ■表示について

本誌では以下のような表示を使用して警告・注意事項を説明しています。

	禁止事項を示す記号です。
	本製品の分解を禁止することを示す記号です。
	水がかかる場所での使用を禁止することを示す記号です。
	濡れた手で本製品に触れるのを禁止することを示す記号です。
	必ず実施すべきことを示す記号です。
	電源プラグをコンセントから抜くことを示す記号です。
	アース接続して使用することを示す記号です。

#### ⚠警告

誤った取り扱いをした場合に、死亡または重傷を負う危険性がある項目です。

	本製品を温度の高い場所に置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
	本製品を火気の近くに置かないでください。火災、故障の原因となることがあります。
	本製品の通風口や開口部から、内部に異物を入れないでください。故障、感電、火災の原因となることがあります。
	本製品の上に物を載せないでください。火災や故障の原因となることがあります。
	本製品の通風口をふさがないでください。通風口をふさぐと内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
	本製品の分解、改造は行わないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。
	本製品をぬらさないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。
	ぬれた手で本体や電源プラグや電源ケーブルに触らないでください。感電、故障の原因となることがあります。
	電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。差し込みが不十分のまま使用すると火災、感電、故障の原因となることがあります。

	電源プラグのほこりやゴミは定期的に取り除いてください。電源プラグにほこりやゴミがたまると火災の原因となることがあります。
	落雷の恐れのあるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用をお控えください。火災、感電の原因となることがあります。
	故障や異常が発生した場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、故障の原因となることがあります。
	アース線を必ず接続して使用してください。接続しないで使用すると、万一漏電した場合に火災や感電の原因となることがあります。

#### ⚠注意

誤った取り扱いをした場合に、軽傷または物的損害に結び付く危険性がある項目です。

	付属の電源ケーブル以外は、使用しないでください。故障の原因となります。
	本製品は振動や衝撃の少ない水平で安定した場所に設置し、装置の落下、転倒、窓からの飛び出しなどを防ぐため、地震、落下対策を実施してください。
	本体は、足が下になるように置いてください。横置きなど誤った置き方をすると倒れたり落下したりして故障の原因となることがあります。

#### ■データのバックアップについて

万一に備え、本製品内に保存をおこなう重要なデータについては必ず定期的にバックアップを実施してください。  
本製品の保存データの毀損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いかねます。

#### ■UPSの導入について

本製品をUPS（無停電電源装置）に接続することにより、予期せぬ停電等による障害を回避できる可能性が高くなります。UPSの導入をお勧めいたします。

#### ■使用上のご注意

- ・本製品の誤った使用により発生するあらゆる損失につきまして弊社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本製品では、CADやデータベース(SQLサーバー等)等、頻繁にリアルタイムで高速なアクセスを必要とするアプリケーションのファイルを直接保存して利用することは想定しておりません。  
高負荷がかかりトラブルの原因となることがありますので、バックアップ以外でそのようなアプリケーションのファイルの保存は行わないでください。
- ・周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音がある場合があります。この場合は本製品の設置場所、向きを変えてみてください。
- ・電源が入った状態で本体に衝撃を加えたり、電源ケーブルをコンセントから抜かないでください。故障の原因となります。
- ・本製品に搭載されているハードディスクドライブを電源が入った状態で抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- ・動作中、不用意なシャットダウンや電源断をおこなわないでください。故障の原因となります。また、予期せぬ電源断が行われる可能性がありますので、製品動作中に必要なく電源ボタンに触らないようご注意ください。

本製品の設置環境と保管温度は、次の内容にご確認ください。

- ①左右は少なくとも5cm以上、背面は10cm以上の隙間を確保すること
  - ②熱を発する機器のそばには置かない。
- ・動作温度：0℃～40℃ 湿度：5～90%（結露しないこと）
  - ・保管温度：-10℃～50℃ 湿度：5～90%（結露しないこと）
  - ・本製品を廃棄する場合はお住いの自治体の指示に従ってください。

# 目次

本マニュアルについて .....	3
保証範囲 .....	3
取扱説明書(安全にお使いいただくために) .....	4
目次 .....	5
<b>第 1 章 : はじめに .....</b>	<b>8</b>
概略 .....	8
製品の主な特徴 .....	8
梱包内容 .....	9
オフィス・ステーション Pro 「OS Pro」 .....	10
前面パネル .....	10
背面パネル .....	11
<b>第 2 章 : ハードウェアの取付け設定 .....</b>	<b>12</b>
概略 .....	12
始める前に .....	12
ケーブル接続 .....	12
<b>第 3 章 : 最初の設定 .....</b>	<b>14</b>
概略 .....	14
本体前面操作パネル (LCM) .....	14
<b>第 4 章: システム管理 .....</b>	<b>16</b>
概要 .....	16
Web 管理インターフェース .....	16
メニューツリー .....	18
システムログ情報のクイック表示 .....	19
システムのリソースモニターのクイック表示 .....	19
システムのシャットダウンとリポート .....	20
パスワードの変更 .....	20
ディスプレイモジュール(LCM ディスプレイ)のパスワード .....	21
ログアウト .....	21
アプリセンター .....	22
コントロールパネル .....	25
ログと通知 .....	27
電源とハードウェア .....	44
システム情報 .....	49
ネットワーク .....	52
地域オプション .....	55
外付けデバイス .....	56
モニター .....	59
ファームウェア設定 .....	62

アクセス権 .....	69
共有フォルダー .....	69
ローカルアカウント .....	81
ストレージ .....	94
ディスクと RAID .....	94
SSD キャッシュ .....	97
サービス .....	98
ファイルサービス .....	98
<b>Samba サービス</b> .....	98
FTP .....	103
VPN サービス .....	105
バックアップ .....	106
外付け HDD バックアップ .....	106
クラウドバックアップ .....	113
システムフェイルオーバー .....	122
<b>第 5 章: 一般ユーザーログイン</b> .....	<b>129</b>
概要 .....	129
ログインインターフェース .....	129
メニューツリー .....	132
システムのリソースモニターのクイック表示 .....	132
一般的な設定 .....	133
言語の変更 .....	134
お好み設定 .....	134
パスワードの変更 .....	134
ディスプレイモジュール(LCM)のパスワードの変更 .....	135
ログアウト .....	135
アプリセンター .....	137
ClamAV® .....	140
スキャン .....	140
更新 .....	142
隔離 .....	143
削除 .....	143
Orbweb.me® .....	145
Orbweb 設定 .....	146
「WindowsPC」でのリモートアクセス .....	148
「Mac」でのリモートアクセス .....	155
「スマートフォン」でのリモートアクセス .....	161
ファイルセンター .....	166
<b>第 6 章: お困りの時は</b> .....	<b>171</b>
Windows から 本機 にアクセスしたい .....	171
関連するログインユーザーアカウントを用いる共有フォルダーへアクセスしたい .....	171

アクセスできない場合には .....	172
ファイル編集できない場合は .....	173
損傷したハードディスクドライブを交換したい .....	174
ハードディスクドライブの損傷 .....	174
ハードディスクドライブの交換 .....	174
RAID の自動リビルド .....	174
LCM RAID ビルド/リビルド進捗状況表示 .....	174
時間と日付の設定がずれている .....	175
Web 管理インターフェースの WebAdmin パスワードを忘れてしまった .....	175
LCM から IP アドレスの設定を変更したい .....	175
<b>第 7 章：トラブルシューティング .....</b>	<b>176</b>
ネットワーク IP アドレスを忘れた場合 .....	176
アクセス権限設定後もアクセスできない .....	176
本製品にアクセスできない .....	176
以上でも解決しない場合 .....	177
<b>補足 A: ブザー・リスト .....</b>	<b>177</b>
<b>補足 B: RAID の基本 .....</b>	<b>177</b>
概 略 .....	177
利 点 .....	177
性能の向上 .....	177
データ・セキュリティ .....	177
RAID レベル .....	177
RAID 1 (オフィス・ステーション Pro 「OS Pro」[4]) .....	177
RAID 5 (オフィス・ステーション Pro 「OS Pro」[8]/[12]) .....	177
<b>補足 C: システムフェイルオーバー Q&amp;A .....</b>	<b>179</b>
<b>補足 D: システム LED 表示リスト .....</b>	<b>180</b>

# 第 1 章 : はじめに

## 概 略

オフィス・ステーション Pro をお選びいただきまして、ありがとうございます。オフィス・ステーション Pro はストレージサーバーであり、データの信頼性は、RAID 機能、外付け HDD へのローカルバックアップ機能により保証されます。本製品があれば、Windows(SMB)、MacOS(SMB)環境間でのデータ整合性と共有が可能になります。また、本製品の GUI は、日本語対応です。

## 製品の主な特徴

### ファイル・サーバー

本製品は、IP ネットワーク上でのファイルの保存と共有を可能にします。ファイル・サーバー(ファイル共有)機能により、ネットワーク上でのファイルの集中管理が簡単に行えます。また、Web ベースのインターフェースを提供しています。

### 電源管理

本製品は管理者により、システムの電源の On 、 Off を設定することができます。

### ディスク容量

ユーザーが利用可能なディスク容量は、モデル容量の 95%程度となります。

## 梱包内容

本製品に同梱されている付属品は次の通りです。

すべて同梱されているか確認の上、不足しているものがあれば、販売店にお問い合わせください。

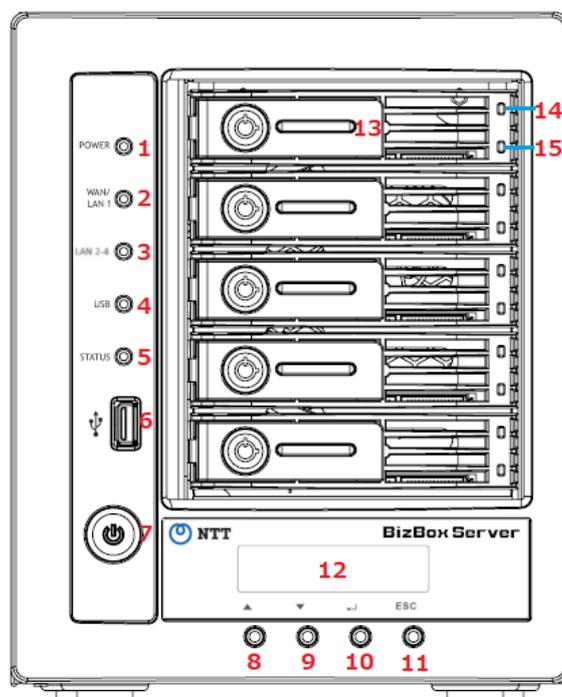
- システム 本体 x1 (「OS Pro」「4」「8」「12」のいずれか)
- USB メモリ x1 (本体前面に接続されています。  
HDD の暗号化キーが保存されています。紛失した場合には、購入していただくこととなりますので紛失しないよう実装した状態をご利用ください(裏面の Kensington ロックの穴を利用して紛失防止いただくことも可能です)
- USB ケーブル x1
- HDD トレー鍵 x 2  
HDD トレー鍵を紛失した場合には、購入していただくこととなりますので紛失しないよう保管してください。
- 電源ケーブル x1
- クイックガイド x1
- ソフトウェア使用許諾契約書 x1
- 保証書 x 1

# オフィス・ステーション Pro「OS Pro」

## 前面パネル

本製品の前面パネルにはデバイスのコントロール、インジケータ、およびハードディスクトレイが付いています。

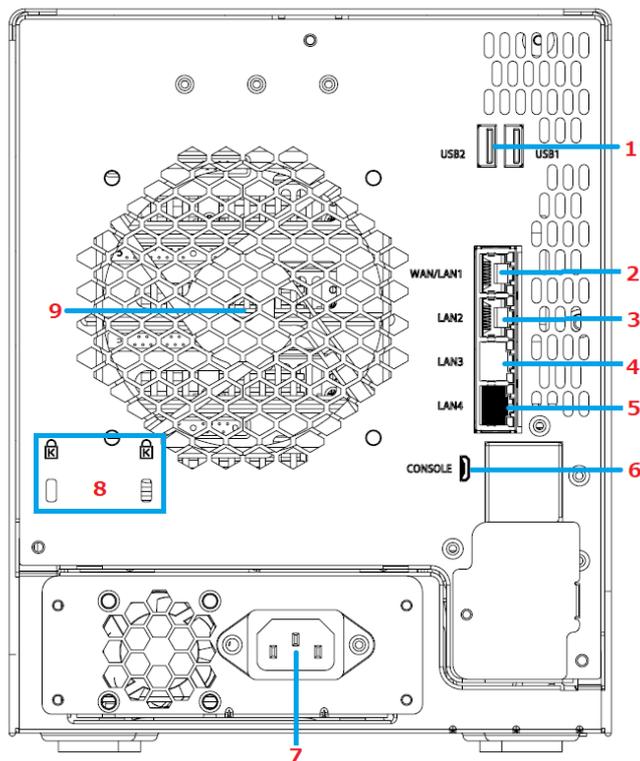
※LED ランプは各項目の状態を点灯、点滅または色の変化により示します。各 LED ランプの状態、意味については下の表を確認してください。



前面パネル	
項目	説明
1.電源 LED	・白色に点灯：システム電源が On。
2.WAN/LAN1 LED	・白色に点滅：ネットワークにリンク、データ送受信中
3.LAN2-4 LED	・白色に点滅：ネットワークにリンク、データ送受信中
4.USB LED	・白色に点灯：USB メモリ接続中、データ送受信中
5.システム LED	・白色に点灯：システム起動中またはアップグレード中。(※) ・赤色に点灯：システム・エラー。
6. USB ポート (USB2.0x1)	・付属の USB メモリを実装して出荷しています。(暗号化キー保存用)
7. 電源ボタン	・電源オン：ボタンを押します。 ・電源オフ：ボタンを 1 秒程度押した後、一度離し再度押します。(二度押し) ・強制電源オフ：ボタンを 4 秒以上長押しします。
8.Up ボタン ▲	・LCD ディスプレイの使用時に押すと、スクロール・アップします。
9.Down ボタン ▼	・LCD ディスプレイの使用時に押すと、スクロール・ダウンします。
10.入力ボタン (エンター)	・パスワード入力画面を表示します。スクロールで選んだものを入力したり決定をします。
11.エスケープ・ボタン ESC	・現在の LCM メニューを終了します。
12.LCD ディスプレイ	・システムの現在の状態と警告メッセージを表示します。
13.HDD トレイ	・3.5" SATA HDD トレイ x 5・セキュリティ用にロック機構あり。
14.トレイ上段ランプ	・白色に点灯：HDD の電源オン
15.トレイ下段ランプ	・緑色に点滅：HDD にアクセス中 ・赤色に点滅：HDD Fail (エラー)

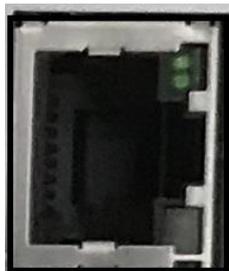
※システム LED：ステータスにより白色点滅します。詳細は、補足 D を参照ください。

## 背面パネル



背面パネル	
項目	説明
1.USB ポート (USB3.0 x2)	USB メモリや外付け HDD、および UPS 接続用に利用します。
2.WAN/LAN1 ポート	通常使用するときはこのポートに LAN ケーブルを接続します。
3.LAN2 ポート	別のサブネットワークに接続する時に使用します。
4.LAN3 ポート(白)	システムフェイルオーバー使用時の対向機器の死活監視の時に使います。白いキャップで保護しています。
5.LAN4 ポート(黒)	保守用ポートのため使用しません。黒いキャップで保護しています。
6.MicroUSB ポート	保守用のポートのため使用しません。
7.電源コネクタ	付属の電源ケーブルをこのコネクタに接続します。
8.ケンジントロック スロット	防犯用のワイヤーを設置することができます。(スロットサイズ 3x7mm、2つのスロット間隔 30mm スロットを2つ共使用する場合はお互い干渉する場合がありますのでサイズにお気をつけください。)
9.システムファン	装置から熱を排出するシステムファンです。

## 各 LAN ポートの LED 点灯



LANポート	場所	カラー	ステータス
WAN/LAN1 LAN2 LAN3 LAN4	上段:データ送受信/リンク	緑色	1.リンク:緑点灯
			2.データ送受信:緑点滅
			3.LANケーブル未接続:消灯
LAN2 LAN3 LAN4	下段:SPEED	緑色/橙色	1.1G:緑点灯
			2.100M:橙色点灯
			3.100M以下:消灯

## 第 2 章：ハードウェアの取付け設定

### 概略

ハードウェア取付け設定時に、機器が損傷するのを防止するため、設定の前に必ずお読みください。

### 始める前に

作業を始める前に、次の予防策を講じてください。

1. マニュアルの最初に概説した**安全にお使いいただくために**を読み、理解すること。
2. 取り付けの間、静電防止用リスト・ストラップを身につけて、静電気放電による破壊（静電破壊）を防ぐこと。
3. 本製品の電子構成部品の周辺にマグネット・ドライバを使わないように注意すること。

### ケーブル接続

本製品にネットワークを接続するには、以下のステップに従ってください。

1. 本製品の背面パネルの WAN/LAN1 ポートにイーサネットケーブルを接続します。



▲ OS Pro  
LAN ポート

各ポートについて

WAN/LAN1 通常使用するポートです。

LAN2 異なるサブネットを使用する際使います。

LAN3 システムフェイルオーバーを使用する際に使います。

LAN4 メンテナンス用ポートです。

2. 付属の電源コードを背面パネルの電源ソケットに接続します。着脱防止機構付きコードのため、両端のスイッチを押しながらソケットに差し込みます。コードのもう一方の端をサージ保護されたソケットに差し込みます。



▲ OS Pro  
電源ソケット

3. 電源ボタンを押して本製品の電源を入れます。  
電源を切るときは、1 秒程度押し、一度離して再度押します。（二度押し）



▲ OS Pro 電源ボタン

## 第 3 章：最初の設定

### 概略

本製品は、ハードウェアを取り付け後、ネットワークに接続して電源を入れたら直ぐに、ネットワーク・ユーザーが利用できるようにすることが可能です。本製品の設定は液晶モニター（以下、「LCD」）を利用し、次の手順でソフトウェアの初期設定を行います。

### 本体前面操作パネル（LCM）

本体前面の LCM で、様々な情報の表示、設定が可能です。

LCD 画面と下の 4 つのボタンをセットで LCM と言います。

ボタンを操作することで色々な情報を表示させたり、設定を行ったりすることができます。



### LCM 画面で表示/設定できること

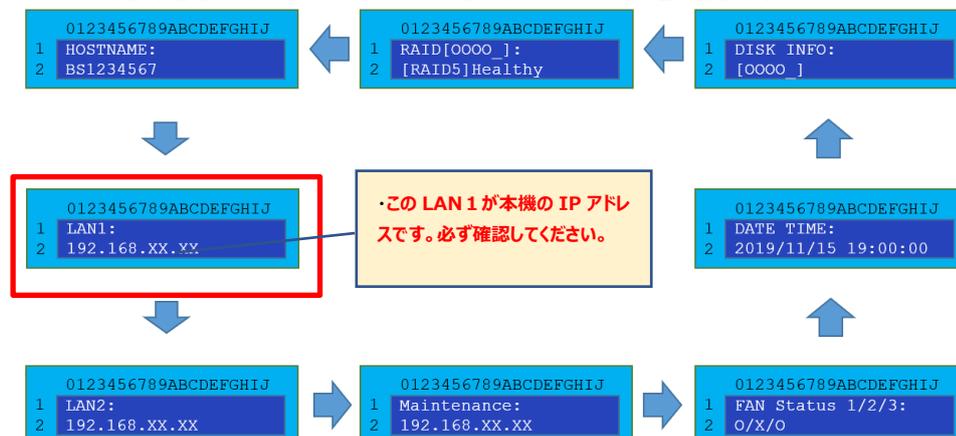
#### ① 起動の状態

電源が入り本機の OS が起動して利用可能になるまでのステータス変化を表示します。NAS Start Monitor と表示されると起動シーケンスが終了した合図です。

#### ② ローテーション

本機が起動すると下図のように 3 秒毎に画面を更新して様々な情報を表示します。

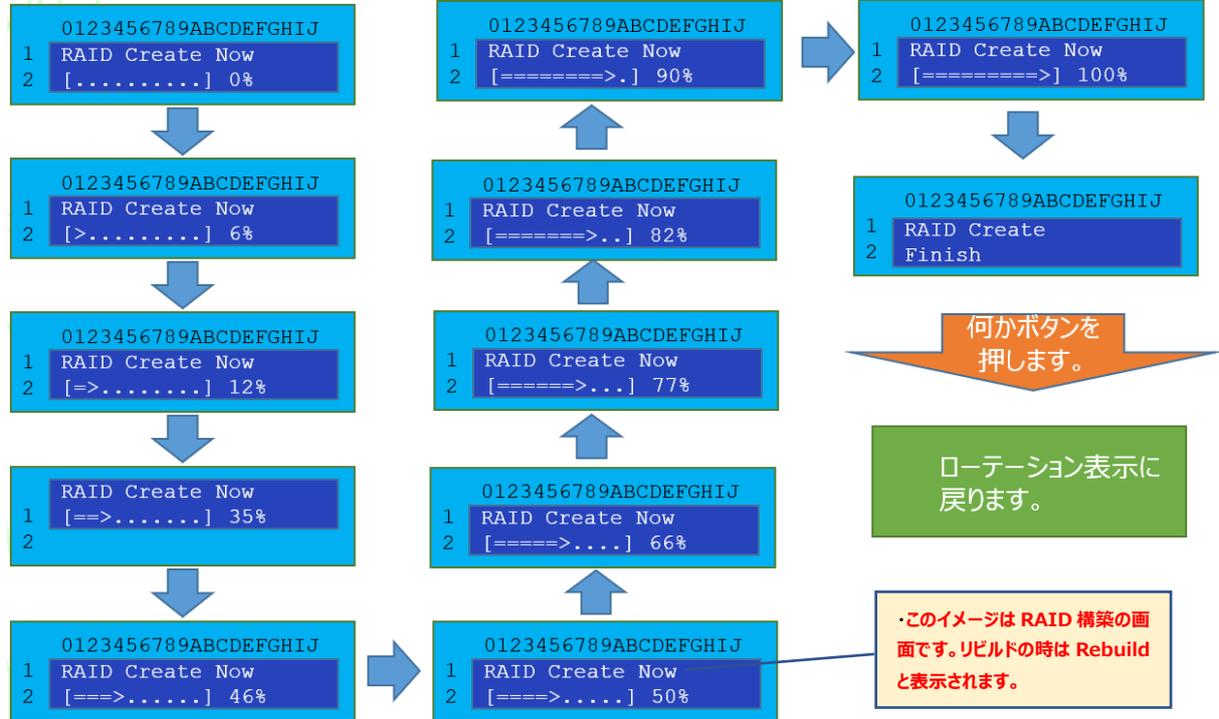
DHCP で割り振られた本機の IP アドレスは、この LAN 1 で確認します。



### ③ RAID 構築/リビルドの表示

WebUI で RAID の構築/リビルドが開始されると連動して LCD 画面でもその進捗状況が表示されます。本作業は非常に時間を要し、サーバーの負荷が高くなります。この最中に電源が切断されるとデータの損失につながりますのでご注意ください。

本製品ではこの RAID 構築/リビルドについて WebUI に限らず、LCD の画面のみで、進捗状況の閲覧が可能で



### ④ 設定

ローテーション表示中に【↵キー】(Enter キー)を押すとパスワード入力画面になります。



Enter キーを 4 回押すと「0000」が入力されます。これでパスワードが解除できます。

初期パスワードは[0000]です。

- ▲/▼ 押した回数分、「<」(バックスペース)と数字が降順/昇順で変化します。
- ↵(Enter)キー 入力が決定します。表示されている数字またはバックスペースを入力します。  
「<」のバックスペースが表示されている時に Enter を押すと一文字削除されます。
- ESC キー キャンセルします。

## 第 4 章: システム管理

### 概要

本製品の **Web 管理インターフェース**を用いることで、ネットワーク上のどこからでも、サーバーの管理、監視を行うことができます。利用するブラウザ、PC によって画面が表示枠に収まらない場合があります。その際には、ブラウザのズーム機能を利用して表示範囲を広げてご利用ください。推奨するブラウザについては、以下を推奨しております。

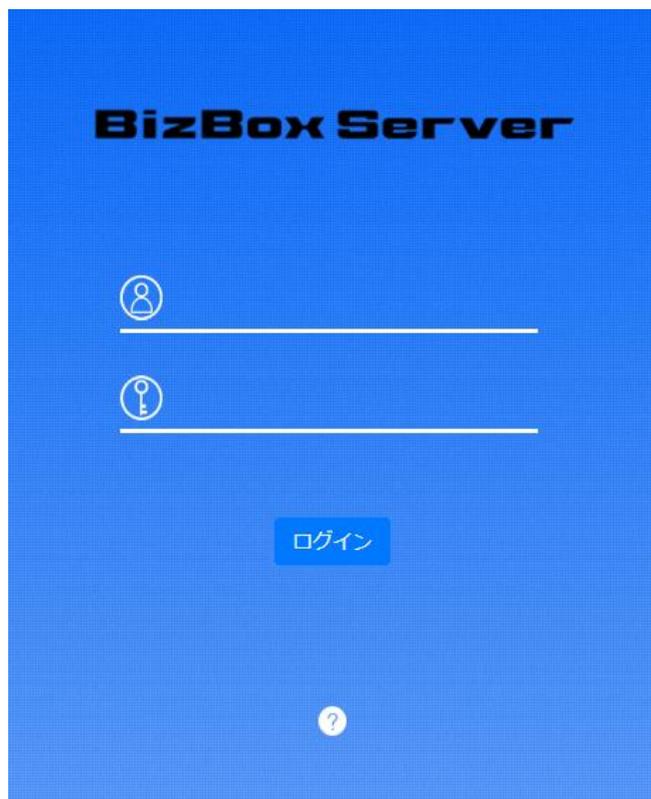
OS	Windows10/8.1	MacOS(Catalina)
ブラウザ	GoogleChrome52 以上、Microsoft Edge(Chromium 版)	Safari (プライベートブラウズ※機能を使用すること)

※Safari 起動後、「メニューバー」の「ファイル」から「新規プライベートウィンドウ」を開くとプライベートブラウズになります。

### Web 管理インターフェース

ご利用のネットワークがインターネットに接続されていることを確認してください。本製品にアクセスするために、**Web 管理インターフェース**で以下の作業を行います：

1. オフィス・ステーション Pro「OS Pro」の IP アドレスをブラウザに入力します。初期状態では DHCP による自動設定となります。IP アドレスは、LCM ディスプレイで確認してください。



## 注

ご利用のコンピュータのネットワーク IP アドレスが、BizBoxServer「OS Pro」と同じサブネット上に存在する必要があります。例として BizBoxServer「OS Pro」の IP アドレスが、192.168.1.110 である場合、管理 PC の IP アドレスは、192.168.1.x である必要があります。ここで、x は、1 から 254 の 110 を除く数字です。IP アドレスは、4 つのオクテットにより構成されており 1 オクテットは、0-255=0xFF が利用できます。サブネットマスクでは、このオクテットで利用する範囲をオクテットごとにマスクするかを指定します。ここでは、1 から 3 オクテットはマスクしないため 0xFF=255 を指定します。4 オクテットは、すべて利用を許可するために 0x00=0 を指定します。つまりサブネットマスクは 255.255.255.0 となります。

2. 管理者ユーザー名とパスワードを使って、システムにログインします。工場出荷時デフォルト設定は、次の通りです：

**ユーザー名 : WebAdmin**

**パスワード : customeradmin**

※パスワードは変更可能です。オンサイト設置スタッフに、任意のパスワードに変更してもらうこともできます。

※電源起動後、再起動後は約 3 分経過後のピープ音(ピーピピピ)が鳴った後にログインするようお願いいたします。起動後のログインが早すぎる場合は、暗号復号失敗のメッセージがポップアップされることがあります。その際には NAS を再起動し再度ログインしなおすようお願い致します。

管理者としてログインすると、次図のように免責事項ウィンドウが表示されます。

画面は、[ OK ] を押下することで閉じることができます。

次回ログイン時にこのウィンドウを表示したくない場合は、チェックボックスにチェックを入れて[ OK ] を押下してください。なお、本ウィンドウについては、オンサイトスタッフが設定を行う場合、お客様が直接目にする可能性もありません。

**免責事項** ×

当社は本製品の故意による破損及び自然災害による破損に対する一切の責任を負いません。また、本製品内のデータ破損、データ損失、データ復旧、修理検査及び本製品の修理検査のための本製品の取り外し・設置工事など一切の責任並びに費用を負いません。必要なデータは、お客様自身にてバックアップを作成してください。お客様が当社の注意事項に違反、またはバックアップの作成を怠ったためにデータを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその一切の責任を負いません。本製品は日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、当社は本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

同意します。次回表示しない。

OK

## メニューツリー

メニューツリーには、本製品のすべての情報画面およびシステム設定が表示されます。メニューバー上の次のグループに各種設定が配置されます。



	項目	説明
①	コントロールパネル	システムおよび機能設定に入ります
②	アプリセンター	アプリセンターに入ります。
③	ファイルセンター	ファイルセンターに入ります。

これらの項目をクリックすると、各項目の関連画面が表示されます。

## ショートカットの追加/削除

ユーザーインターフェースを用いて、ユーザーは、ショートカットの追加により、良く使用する項目を指定してメイン画面領域に表示することができます。



管理者は、各機能画面で、マウスを右クリックし、「ショートカットの追加」アイコンを選択することで、ショートカットを追加または削除することができます。上図の赤丸で囲まれたアイコンを参照してください。

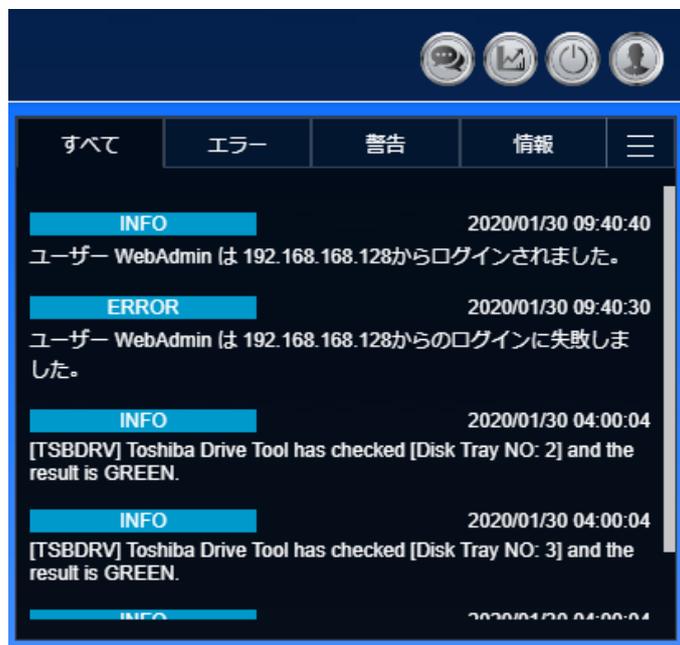
メイン画面から「ショートカット」を削除するには、マウスの右ボタンをクリックして「ショートカットの削除」を選択します。



以下のセクションでは、各機能の詳細な説明、および、本製品を設定する方法を紹介します。

## システムログ情報のクイック表示

メニューバーの右上隅で、 をクリックします。システムログ情報が表示されます。表示タブから各情報を選択すると、該当情報のみ表示されます。



## システムのリソースモニターのクイック表示

メニューバーの右上隅で、 をクリックすると、システムリソースモニター情報 (CPU、メモリーおよびストレージの使用状況) が表示されます。



## システムのシャットダウンとリブート

メニューバーの右上隅で、をクリックします。これは、システムをシャットダウンまたは再起動するためのショートカットです。※システムフェイルオーバーを構築している場合はこのボタンは表示されなくなりシャットダウン、再起動を任意に行うことが出来なくなります。

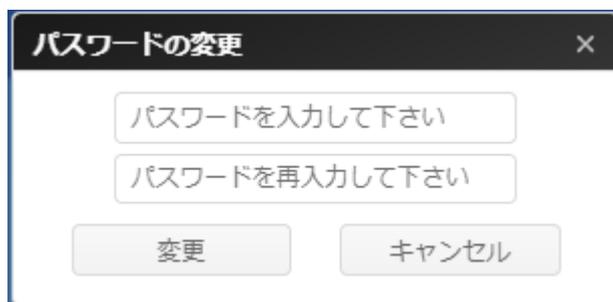


## パスワードの変更

① メニューバーの右上隅で、をクリックします。これは、パスワードの変更、ディスプレイモジュールのパスワードを変更とログアウトのためのショートカットです。

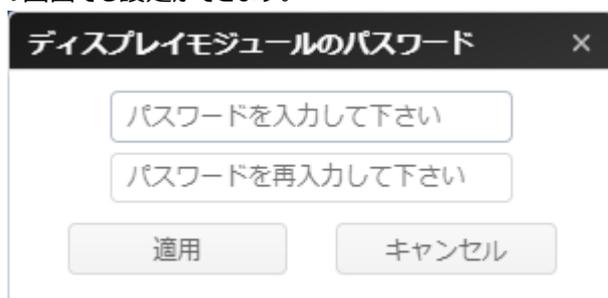


- ② **パスワード**項目を選択すると、**[パスワードの変更]**画面が表示されます。
- ③ **新しいパスワード**ボックスに新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。**[変更]**を押下して、パスワードを確定します。



## ディスプレイモジュール(LCM ディスプレイ)のパスワード

- ① メニューバーの右上隅で、**ディスプレイモジュール (LCM ディスプレイ) のパスワード**項目を選択します。
- ② 上段のテキストボックスに新しいパスワードを入力し、下段のテキストボックスに確認のため再入力します。
- ③ **[ 変更 ]**を押下して、パスワードを確定します。
  - \* なお、ディスプレイモジュールのパスワード初期値は"0000"です。
  - \* この設定は LCD の画面でも設定ができます。



ディスプレイモジュールのパスワード

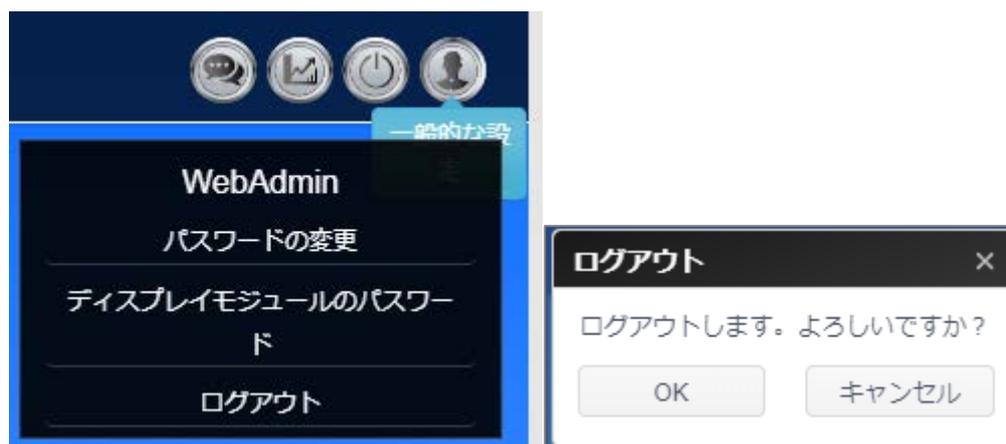
パスワードを入力して下さい

パスワードを再入力して下さい

適用 キャンセル

## ログアウト

[ ログアウト ] を押下して、Web 管理インターフェースを終了します。



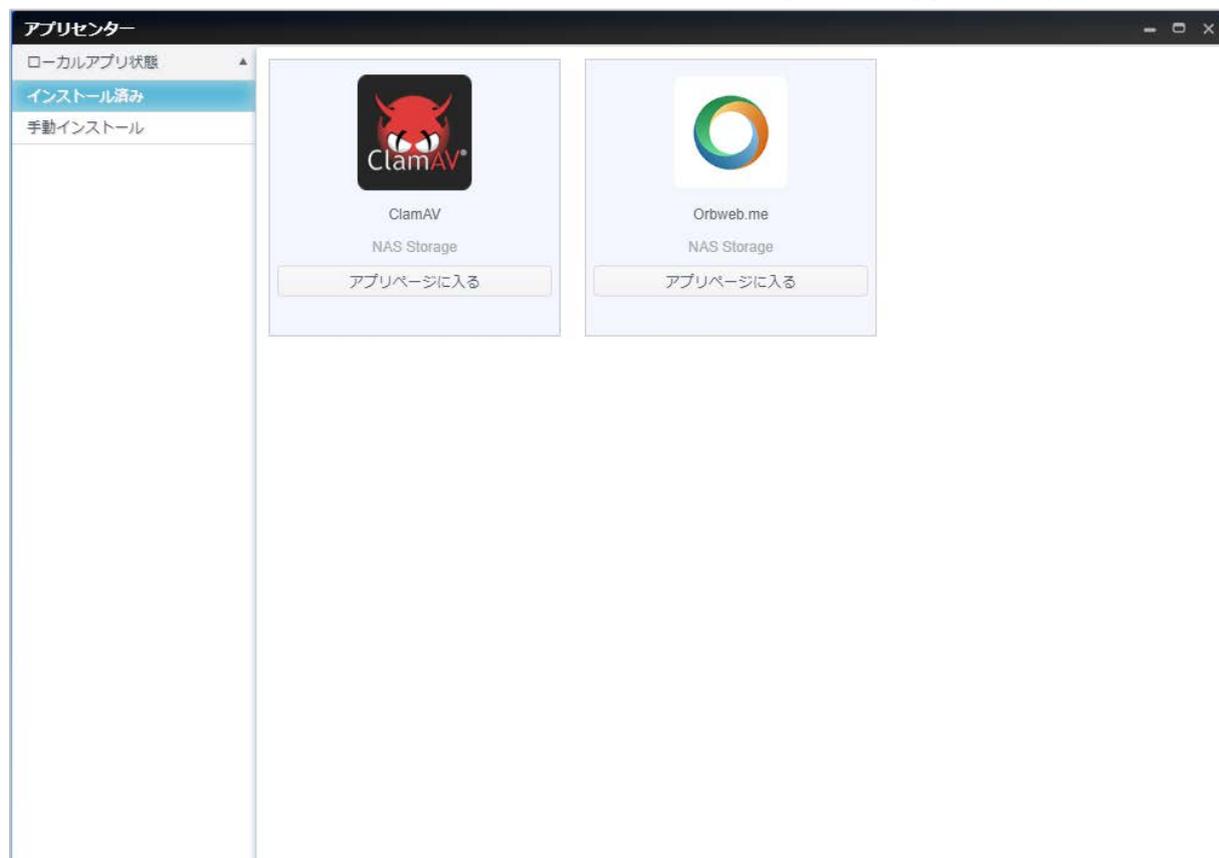
## アプリセンター

※一般ユーザーには、アプリセンターは表示されません。



**アプリセンター**では、本製品に対応したアプリケーションを使用する事ができます。アプリセンターアイコンを押下します。下のように画面が表示されます。最初からインストールされた「インストール済みアプリケーション」が一覧表示されます。

※アプリセンターの各アプリのインターフェイス、デザインなどはバージョンアップ等で予告なく変更になる場合もあります。



関連するアプリの詳細を表示するには、アプリアイコンを押下して、ウィンドウを開きます。関連するアプリを実行するには、「Enter App Page (アプリページに入る)」を押下します。



### ClamAV

- ユーザーにこのモジュールの使用を許可する。
- デスクトップへのショートカットの表示

アプリページに入る

選択 ▼

#### 現在のバージョン

1.00.30.[0.101.5]\_x64\_ja

#### モジュールサイズ

23MB

#### 更新日

2020-09-08

#### 説明:

ClamAV® は、トロイの木馬、ウイルス、マルウェア等の悪質な脅威を検出するためのオープンソース(GPL)のウイルス検出エンジンです。

#### スタンダード

ClamAV® は、メールゲートウェイスキャン用のオープンソース(GPL)ソフトウェアです。

#### ハイパフォーマンス

ClamAV® には、マルチスレッドスキャンデーモン、オンデマンドスキャン用コマンドラインユーティリティ、自動シグネチャアップデートが含まれています。

#### 多用途性

ClamAV® は、複数のファイル形式、ファイルとアーカイブの解凍、複数署名の言語をサポートしています。

## アプリのモジュールリスト更新機能

標準インストールアプリ(【ClamAV】【orbweb.me】)のアップデートがあった場合に、自動的にアプリのモジュールリストの更新を行います。このリストの更新後に標準インストールアプリを手動でアップデートすることが可能になります。標準インストールアプリのリストの更新を行うためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。アップデートのスケジュールは、下記の画面にて設定を行います。

	毎週	日曜日	5時	35分
--	----	-----	----	-----

※上記時刻にてアップデート有無の確認を開始し、ある場合はダウンロード完了後にインストールとなります。インストールの処理中はアプリの使用不可となりますのでご注意ください。

アプリセンター

ローカルアプリ状態  
インストール済み  
手動インストール

アップロードモジュール

選択 ここにファイルをドロップ

デフォルトアプリのダウンロード

デフォルトアプリのインストール

アップデートモジュールリスト

更新

アップデートモジュールリストのスケジュール設定 **期間が毎日の場合**

期間 毎日

スケジュール 00 : 00

適用

アップデートモジュールリストのスケジュール設定 **期間が毎週の場合**

期間 毎週

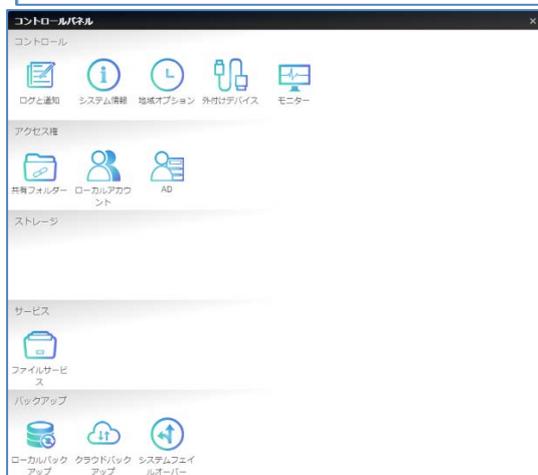
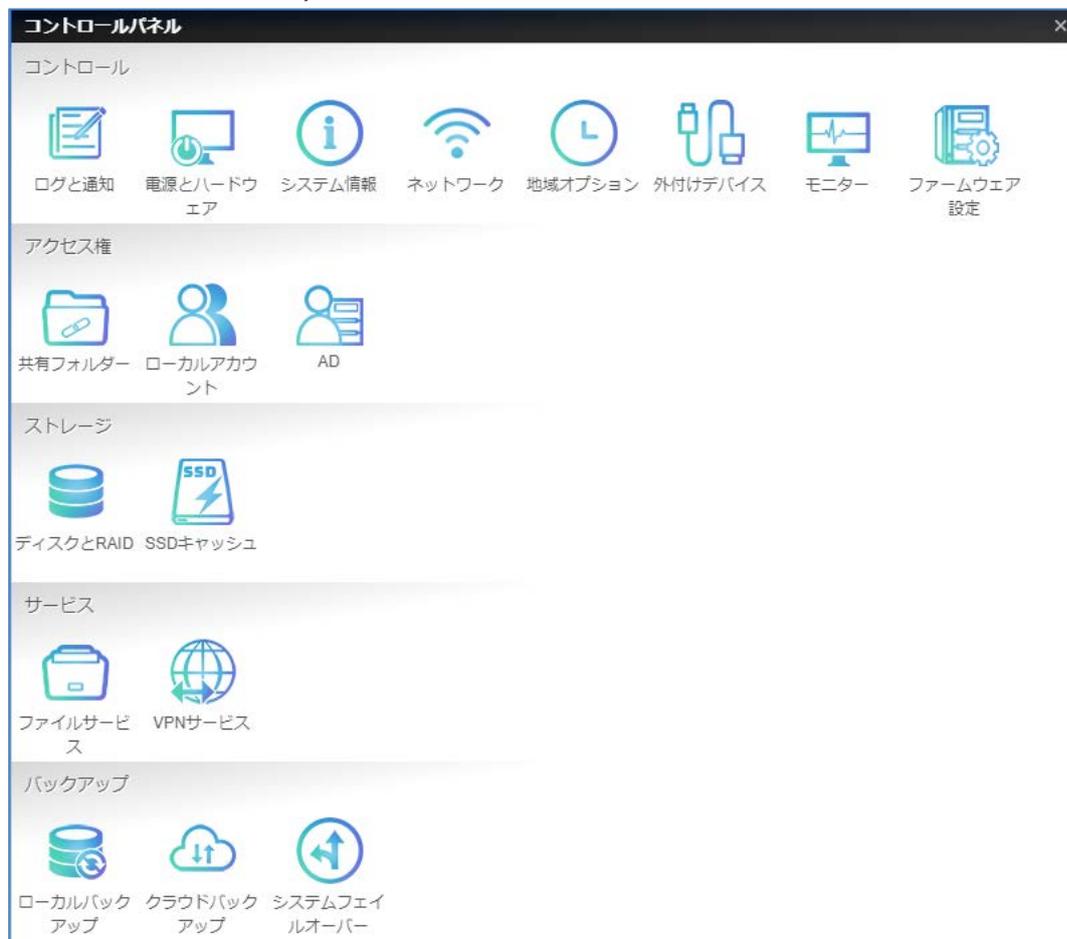
スケジュール 月曜日 00 : 00

適用

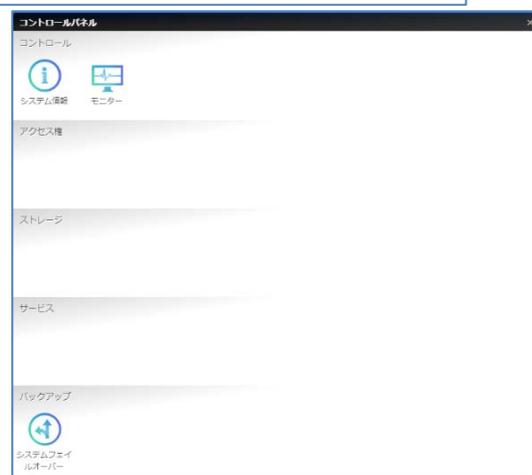
## コントロールパネル

コントロールパネルは、5つのメインカテゴリ（コントロール、アクセス権、ストレージ、サービスおよびバックアップ）で構成されます。説明については、以下を参照してください。

※システムフェイルオーバーを構築する場合、機能が制限されるため表示されなくなるアイコンがあります。アクティブ機であるかスタンバイ機であるかによっても表示されるアイコンが変わります。（全表示とアクティブ機（バーチャル IP）、スタンバイ機の表示を以下に記します）



アクティブ機、バーチャル IP



スタンバイ機

## コントロール



## ログと通知

### システムログ

ログと通知メニューから、システムログオプションを選択すると、システムログ画面が表示されます。この画面には、システム使用履歴およびディスク状態、ネットワーク情報、システム起動といった重要なイベントの履歴が表示されます。

システムログのレベルを表示: エラー ダウンロード

日付/時間	レベル	イベント
-------	-----	------

1 2 3 4 5 6 50 ページあたりの項目

項目	説明
タブ	赤: システムログが無効の状態を指します。 緑: システムログが有効の状態を指します。
ログレベル	すべて: システム、警告、およびエラーメッセージを含むすべてのログ情報を提供します。 警告: 警告メッセージのみを表示します。 エラー: エラーメッセージのみを表示します。 ログレベルの詳細は、ログ情報サマリの表の Event Level に記載しております。どのレベルでメールを受信するかは、リスト内容を確認し選択してください。
ダウンロード	ログを CSV データとしてダウンロードします。UTF 対応のメモ帳で開いて参照をお願いします。※EXCEL がインストールされている場合には参照可能ですが文字化けする恐れがあります。
フィルタ	不要な項目をフィルタリングするための値を入力します。
ページあたりの項目 <input type="checkbox"/>	ページごとに表示する行数を指定します。
<< < > >>	早送り (> >> ) および巻戻し ( << <) ボタンを使って、ログページを切り替えます。

#### 注 1

標準ではシステムログは有効(緑)となっております。システムログの確認を行わない場合は、ログ設定からシステムログ機能を無効(赤)に設定してください。

## 注 2

ログの再読み込みを行う場合、設定パネル左タブから「ログと通知」を再度選択してください。

ログ情報のサマリを下記に記します。（この内容はアップデートなどでも変更される可能性があります。）

2021年1月現在

(対応必要項目の凡例 ○：オフィスサポートセンターへお問い合わせ下さい、□：お客様のご対応が必要になります。)

ID	Event Level	対応必要項目	日本語
plugusb_info_1	INFO	□	サポートされている USB デバイスの数を超えました：{maximun_usb_count} [{usb_device}]。□：お客様にて USB デバイスを拡張して利用している場合は抜去をお願いします。
system_info_1	INFO		システム [{hostname}] はブートに成功しました。
system_info_2	INFO		システム [{hostname}] を再起動します。
system_info_3	INFO		システム [{hostname}] をシャットダウンします。
system_info_4	INFO		システム [{hostname}] はスケジュールによりシャットダウンしています。
system_info_5	INFO		システム [{hostname}] はスケジュールにより起動開始しました。
system_info_6	INFO		システムは、電源ボタンによりシャットダウンします。
system_info_7	INFO		システム [{hostname}] は起動しました。
system_info_8	INFO		システム [{hostname}] は正常にシャットダウンしました。
system_warning_1	WARN		システムは [{action}] を行なっています。電源を切ったり再起動しないでください。
system_warning_2	INFO		システム [{0}] はスケジュールにより起動開始しました。
system_warning_3	WARN		システム [{hostname}] の前回シャットダウンは正常に行なわれませんでした。
system_warning_4	WARN		システム[{hostname}]は回復サービスを受けています。
disk_info_1	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャン開始。
disk_info_2	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャン完了。不良ブロックは見つかりませんでした。

disk_info_3	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャン 完了。{3}個の不良ブロックが見つかりました。
disk_info_4	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 自己診断開始。
disk_info_5	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 自己診断停止。
disk_info_6	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 自己診断完了。
disk_info_7	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) がグローバルホットス ペアに追加されました。
disk_info_8	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) がグローバルホットス ペアから削除されました。
disk_info_9	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] が追加 されました。
disk_info_10	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] が削除 されました。
disk_info_11	INFO		[手動削除] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) がグローバルホットス ペアから削除されました。
disk_warning_1	WARN		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] {disk_model} (シリアル番号: {disk_serial_number}) 不良ブロックスキャン が中止されました。
disk_error_1	<b>ERRO R</b>	○	[ディスクトレイ番号: {tray_number}] が故障 しました。HDD を交換してください。
disk_error_2	<b>ERRO R</b>	○	故障状態: 故障中、対応: 交換必要あり、交 換部位: HDD
raid_info_1	INFO		状態: RAID [{raid_id}] は正常です。
raid_info_2	INFO		RAID [{raid_id}] を拡張しました。
raid_info_3	INFO		RAID [{raid_id}] を削除しました。
raid_warning_1	WARN	□	RAID [{raid_id}] は RAID を回復中で、再構 築が進行中です。 □ : 回復するまでアクセスをお 控え下さい。

raid_error_1	<b>ERROR</b>	□	RAID [{raid_id}] が縮退状態となりました。 □ : 回復するまでアクセスをお控え下さい。LCD をご確認下さい。
raid_error_2	<b>ERROR</b>	□	RAID [{raid_id}] に重大なディスク故障が発生しています。 □ : 回復するまでアクセスをお控え下さい。
raid_error_3	<b>ERROR</b>	□	RAID [{raid_id}] 構成に失敗しました。 □ : 回復するまでアクセスをお控え下さい。
raid_error_4	<b>ERROR</b>	○	RAID[{raid_id}]を復号化ができませんでした
linkaggregation_warning_1	WARN		インターフェイスが存在しない為、リンク [{bond_number}] は削除されました。
firmwareupgrade_info_1	INFO		システムはファームウェアを [{current_version}] から [{upgrade_version}] へ更新を開始しました。
firmwareupgrade_info_2	INFO		システムは[{upgrade_version}]に正常にアップグレードされました。
firmwareupgrade_info_3	INFO		システムは自動アップグレードを開始しました。
firmwareupgrade_info_4	INFO		再起動後、システムは工場出荷時設定になります。
firmwareupgrade_info_5	INFO		新しいファームウェア[{upgrade_version}]の更新が完了しました。システムを再起動します。
firmwareupgrade_info_6	INFO		新しいファームウェアはありませんでした。システムは最新の状態です。
firmwareupgrade_warning_1	WARN		システムは [{upgrade_version}] へ更新できませんでした。
firmwareupgrade_info_7	INFO		システムは新しいファームウェア[xxxxxx]を見つけました。ファームウェアのダウンロードを開始します。
monitor_error_1	<b>ERROR</b>	□	システム {raid_id} の使用量が 90%を超えました。 □:使用量を 90%未満となるよう整理して下さい
monitor_error_2	<b>ERROR</b>	○	CPU ファンが故障しました。(RPM : {0} 温度 : {temperature}) オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンしてください。機器の電源を OFF にして、交換してください。
monitor_error_3	<b>ERROR</b>	○	システムファン No.{fan_number} が故障しました。(RPM : {1} 温度 : {temperature}) オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンしてください。機器の電源を OFF にして、交換してください。

monitor_error_4	ERROR	○	システムファン D16000- <code>{enc_number}</code> # <code>{index}</code> が故障しました。(RPM : <code>{rpm}</code> ) オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンしてください。機器の電源を OFF にして、交換してください。
monitor_error_5	ERROR		温度異常です。オーバーヒートさせない為に、システムをシャットダウンします。
monitor_error_6	ERROR	○	故障状態：故障中、対応：交換必要あり、交換部位：筐体
diskcheck_info_1	INFO		S.M.A.R.T.によると、ディスクトレイ <code>{tray_number}</code> [ <code>{disk_id}</code> ] の <code>{attribute_name}</code> 値 [ <code>{value}</code> ] は前回の値 [ <code>{value}</code> ] から変わっています。
diskcheck_info_2	INFO		ディスクトレイ <code>{tray_number}</code> [ <code>{disk_id}</code> ] の累積稼働時間が <code>{hour}</code> 時間に達しました。
diskcheck_warning_1	WARN	○	S.M.A.R.T.によると、ディスクトレイ <code>{tray_number}</code> [ <code>{disk_id}</code> ] の <code>{attribute_name}</code> は [ <code>{value}</code> ] に達しました。このディスクの状態を確認してください。
diskcheck_warning_2	WARN	○	ディスクトレイ <code>{tray_number}</code> [ <code>{disk_id}</code> ] で致命的なエラーが発見されました。このディスクの状態を確認してください。
dispatcher_error_1	ERROR	○	電源が故障しました。機器の電源を OFF にして、交換してください。
dispatcher_info_1	INFO		電源は正常です。
dispatcher_warning_1	WARN	□	AC 電源供給が途絶えました。 □AC 電源ケーブルの抜けをご確認下さい。
dispatcher_info_2	INFO		AC 電源供給が復帰しました。
ups_info_1	INFO		システム [ <code>{0}</code> ] への AC 電源が復帰しました。
ups_warning_1	WARN		システム [ <code>{hostname}</code> ] はバッテリーで稼働しています。UPS モデル : <code>{status}</code> バッテリー状態 : <code>{status}</code> % 電源 : バッテリー
ups_warning_2	WARN		システム [ <code>{hostname}</code> ] の UPS 電力が落ちています。
ups_warning_3	WARN		システム [ <code>{hostname}</code> ] の UPS はマスターによりシャットダウンされました。
ups_warning_4	WARN		システム [ <code>{hostname}</code> ] は UPS との接続を確立しました。
ups_warning_5	WARN		システム [ <code>{hostname}</code> ] と UPS との接続が切断されました。再起動などが原因で切断された可能性があります。USB コネクタを抜き差しして、もう一度接続を確立してください。

ups_warning_6	WARN		システム [{hostname}] は UPS によりシャットダウンされました。
ups_warning_7	WARN		システム [{hostname}] は {3} 分後に自動的にシャットダウンされます。
ups_error_1	ERROR	○	システム [{hostname}] の UPS バッテリーに不具合があります。
ups_error_2	ERROR	○	システム [{hostname}] の UPS は利用できません。
ups_error_3	ERROR	□	システム [{hostname}] の UPS のバッテリー電力が落ちています。システムは自動的にシャットダウンされます。 □UPS の電源供給をご確認ください。
ups_error_4	INFO		システム [{hostname}] は UPS との接続を確立しました。
ssdcache_info_1	INFO		SSD キャッシュ [{cache_name}] の構築が完了しました。
ssdcache_info_2	INFO		SSD キャッシュ [{cache_name}] を削除しました。
ssdcache_info_3	INFO		SSD キャッシュ [{cache_name}] を編集しました。
ssdcache_error_1	ERROR	○	SSD キャッシュ [{cache_name}] を構築できませんでした。SSD キャッシュが故障した可能性があります。機器の電源を OFF にして、交換してください。
ssdcache_error_2	ERROR	○	SSD キャッシュ [{cache_name}] を削除できませんでした。SSD キャッシュが故障した可能性があります。機器の電源を OFF にして、交換してください。
ssdcache_error_3	ERROR	○	SSD キャッシュ [{cache_name}] を編集できませんでした。SSD キャッシュが故障した可能性があります。機器の電源を OFF にして、交換してください。
ssdcache_error_4	ERROR	○	デバイス (md{device_name}) の対象の RAID または SSD RAID が削除された為、SSD キャッシュ [{cache_name}] は削除されました。
diskclonewipe_info_1	INFO		ディスククローン開始。動作 : {action} モード : {mode} 元ディスク : {source_disk} クローン先ディスク : {target_disk}
diskclonewipe_info_2	INFO		ディスククリア開始。動作 : {action} モード : {mode} 対象ディスク : target_disk
diskclonewipe_info_3	INFO		ディスククローンを中止しました。

diskclonewipe_info_4	INFO		ディスククリアを中止しました。
diskclonewipe_info_5	INFO		ディスククローンが完了しました。
diskclonewipe_info_6	INFO		ディスククリアが完了しました。
diskclonewipe_error_1	<b>ERROR</b>	○	クローン・クリアタスクのうちのいくつかのディスクが喪失しました。
network_info_1	INFO		システム [{hostname}] {lan_display_name} はネットワークに接続されました。 Get IP : {lan_ip_address}
network_warning_2	WARN	□	システム [{hostname}] {lan_display_name} はネットワークから切断されました。 □ : ネットワークケーブルの接続をご確認ください。
failover_info_1	INFO		[システムフェイルオーバー] アクティブ機の実環境設定が開始しました。
failover_info_2	INFO		[システムフェイルオーバー] 環境設定が完了しました。
failover_info_3	INFO		[システムフェイルオーバー] アクティブ機の実環境設定が開始しました。
failover_info_4	INFO		[システムフェイルオーバー] スタンバイ機 ({standby_ip}) へのバックアップを開始しました。
failover_info_5	INFO		[システムフェイルオーバー] バックアップが完了しました。
failover_error_1	<b>ERROR</b>	○	[システムフェイルオーバー] スタンバイ機 ({failover_error_1}) へのバックアップに失敗しました。システムフェイルオーバーは解除されます。
failover_info_6	INFO		[システムフェイルオーバー] 復元を開始しました。 バックアップ元は({pair_ip})にあるメイン機 ({time}) です。
failover_info_7	INFO		[システムフェイルオーバー] 復元を完了しました。
failover_info_8	INFO		[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーの削除を開始しました。
failover_info_9	INFO		[システムフェイルオーバー] 前回のバックアッププロセスが完了しなかった為、このバックアッププロセスは延期されます。
failover_info_10	INFO		[システムフェイルオーバー] NAS は前回の起動時にフェールオーバーモードになりました。今回の起動では、NAS はフェールオーバーモードから通常モードに移行します。
failover_info_11	INFO		[システムフェイルオーバー] NAS はフェールオーバーモードを停止するようにピアからのコマンドを受け取り、通常モードに移行します。

failover_info_12	INFO		[システムフェイルオーバー] 最新のファームウェアへの更新準備中です。スタンバイ機へのレプリケーションを停止します。
failover_error_2	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーを設定できませんでした。
failover_error_3	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーの相手側と通信できません。システムフェイルオーバーは解除されました。
failover_error_4	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] システムフェイルオーバーの相手側と通信できません。システムフェイルオーバーは解除されました。
failover_error_5	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] フェイルオーバー構成下のスタンバイ機が故障しました。
failover_error_6	ERROR	○	[システムフェイルオーバー] フェイルオーバー構成下のアクティブ機が故障しました。スタンバイ機がアクティブ機に昇格しました。
login_info_1	INFO		ユーザー {username} は {user_ip} からログインされました。
login_error_1	ERROR		ユーザー {username} は {user_ip} からのログインに失敗しました。
login_error_2	ERROR		あなたのアカウントは有効ではありません。管理者に連絡してください。
localbackup_info_1	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップを開始しました。
localbackup_info_2	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] 復元を開始しました。
localbackup_info_3	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに成功しました。
localbackup_info_4	INFO		[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に成功しました。
localbackup_error_1	ERROR	○	[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに失敗しました。
localbackup_error_2	ERROR	○	[ローカルバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に失敗しました。
remotebackup_info_1	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップを開始しました。
remotebackup_info_2	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] 復元を開始しました。
remotebackup_info_3	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに成功しました。
remotebackup_info_4	INFO		[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に成功しました。

remotebackup_error_1	<b>ERROR</b>	○	[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに失敗しました。
remotebackup_error_2	<b>ERROR</b>	○	[リモートバックアップ] タスク [{task_id}] 復元に失敗しました。
localiscsibackup_info_1	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップを開始しました。
localiscsibackup_info_2	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元を開始しました。
localiscsibackup_info_3	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに成功しました。
localiscsibackup_info_4	INFO		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元に成功しました。
localiscsibackup_error_1	<b>ERROR</b>		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに失敗しました。
localiscsibackup_error_2	<b>ERROR</b>		[ローカル iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元に失敗しました。
remoteiscsibackup_info_1	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップを開始しました。
remoteiscsibackup_info_2	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元を開始しました。
remoteiscsibackup_info_3	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに成功しました。
remoteiscsibackup_info_4	INFO		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元に成功しました。
remoteiscsibackup_error_1	<b>ERROR</b>		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] バックアップに失敗しました。
remoteiscsibackup_error_2	<b>ERROR</b>		[リモート iSCSI バックアップ] タスク [{task_id}] 復元に失敗しました。
cloudbackup_info_1			[クラウドバックアップ] タスク [{0}] バックアップを開始しました。
cloudbackup_info_2			[クラウドバックアップ] タスク [{0}] バックアップに成功しました。
cloudbackup_info_3			[クラウドバックアップ] タスク [{0}] 復元を開始しました。
cloudbackup_info_4			[クラウドバックアップ] タスク [{0}] 復元に成功しました。
cloudbackup_info_5			[クラウドバックアップ] タスク [{0}] バックアップを停止しました。
cloudbackup_info_6			[クラウドバックアップ] タスク [{0}] 復元を停止しました。
cloudbackup_error_1	<b>ERROR</b>		[クラウドバックアップ] タスク [{0}] バックアップに失敗しました。

cloudbackup_error_2	ERROR		[クラウドバックアップ] タスク [{0}] 復元に失敗しました。
cloudbackup_error_3	ERROR	○	[クラウドバックアップ]この NSS ID [{task_id}] は、NSS サーバーから情報を取得できません。
cloudbackup_error_4	ERROR	□	[クラウドバックアップ] NAS ローカルフォルダー [{folder_name}]が契約サイズの 100% に達しました。 □ : クラウドバックアップの契約サイズ未 満となるようにローカルフォルダのファイル類を整理して下さい。
cloudbackup_error_5	ERROR	□	[クラウドバックアップ] NAS ローカルフォルダー [{0}]が契約サイズの 80% を超えました。 [{bucket_size}]。 □ : クラウドバックアップの 契約サイズの 80%未満となるようにローカルフォルダのファイル類を整理して下さい。注 1)。
cloudbackup_error_6	ERROR	○	[クラウドバックアップ]サーバーの接続に失敗しました。システムは{second}秒ごとに{index} / {total_retry_count}を再試行します。
cloudbackup_error_9	ERROR	□	[クラウドバックアップ] NAS のローカルフォルダ [{share_folder}]のバックアップ開始時、クラウドバックアップサービス契約容量の 100%を超えました (バックアップが開始できません) 。[{1}] □ : クラウドバックアップの契約サイズ未満となるようにローカルフォルダのファイル類を整理して下さい。
cloudbackup_warning_10	ERROR	□	[クラウドバックアップ] NAS のローカルフォルダ [{share_folder}]のバックアップ時、クラウドバックアップサービス契約容量の 80%を超えました (バックアップは、実施します) 。[{1}] □ : クラウドバックアップの契約サイズの 80%未満となるようにローカルフォルダのファイル類を整理して下さい。注 1)。
cloudbackup_error_11	ERROR	□	[クラウドバックアップ]フォルダー [{share_folder}]の[{fiel_name}]のクラウドバックアップはスキップされます。理由 : サイズ 5GB 超過 □ : クラウドバックアップの対象ファイルを 4GB 未満となるように整理して下さい。
cloudbackup_warning_12	WARN		[クラウドバックアップ] クラウドバックアップの前のタスクが未完了の為、次のタスクをスキップしました。
cloudbackup_warning_13	WARN		[クラウドバックアップ] [{tesk_id}] クラウドバックアップに失敗したファイルがあります。
cloudbackup_warning_14	WARN		[クラウドバックアップ] [{tesk_id}] 復旧に失敗したファイルがあります。

cloudbackup_warning_15	WARN		[{task_id}]クラウドバックアップに失敗したファイルがあります。
cloudbackup_warning_16	WARN		[{task_id}]復旧に失敗したファイルがあります。
cloudbackup_warning_17	WARN		タスクを削除できません。NAS をインターネットに接続してください。
cloudbackup_warning_18	WARN		クラウドバックアップのシステムのアップロード制限値超過によりアップロードできなかったファイルは以下となります。ファイル名：[{file_name}]
cloudbackup_warning_19	<b>WARN</b>	□	タスク合計容量が契約容量を超えたため、すべてのタスクのバックアップを停止しました。□：クラウドバックアップの契約サイズ未満となるようにローカルフォルダのファイル類を整理して下さい。
cloudbackup_info_20	<b>INFO</b>		クラウドバックアップ [{task_id}] を削除しました。
openvpn_error_1	<b>ERROR</b>	○	OpenVPN の設定ファイル有効化に失敗しました。※複数回出力される場合はお問い合わせ下さい。
buzzer_warning_1	WARN		ブザーは LCM によってミュートされ、{0}時間後にビーブ音が鳴ります。NAS が安全であることと NAS ログを確認してください。
snapshot_info_1	INFO		[Snapshot] [{share_folder}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_2	INFO		[Snapshot] [{share_foler}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_3	INFO		[Snapshot] [{share_folder}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_4	INFO		[Snapshot] [{sharefolder}]のスナップショットは、[{time}]に正常に保存されました。
snapshot_info_5	INFO		[Snapshot] [{share_folder}] の [{snapshot}]のスナップショットが削除されました。
snapshot_info_6	INFO		[Snapshot] [{share_folder}] は [{snapshot}]の状態に復元されました。
snapshot_warning_1	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンが進行中の場合、手動スナップショットを取ることができません。このスナップショットは再スケジュールされます。
snapshot_warning_2	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]手動スナップショットタスクが再スケジュールされました。
snapshot_warning_3	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、最大スナップショットに達したときに手動スナップショットを取得できません。

snapshot_warning_4	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンの実行中にスケジュールスナップショットを取ることができません。このスナップショットは再スケジュールされます。
snapshot_warning_5	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]スケジュールスナップショットタスクが再スケジュールされました。
snapshot_warning_6	WARN		[スナップショット] すでに最大スナップショット数に達しているため、[{share_folder}]のスナップショットを保存できません。
snapshot_warning_7	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンが進行中の場合、[{snapshot}]を削除できません。
snapshot_warning_8	WARN		[スナップショット] [{share_folder}]は、BTRFS クォータ再スキャンが進行中の場合、[{snapshot}]を復元できません。
tsbdrv_info_1	INFO		[ディスクトレイ番号: {tray_number}] のチェックが終了しました。異常は見つかりませんでした。
tsbdrv_error_1	ERROR	○	[ディスクトレイ番号: {tray_number}] のチェックを実行できませんでした。
tsbdrv_error_2	ERROR	○	[ディスクトレイ番号: {tray_number}] のチェックが終了しました。異常が見つかりました。故障予兆を検知しました。HDD を交換してください。
tsbdrv_error_3	ERROR	○	故障状態：故障予兆、対応：交換必要あり、交換部位：HDD
nvme_error_1	ERROR	○	[NVME] Warning. [{life_percentage}]
nvme_error_2	ERROR	○	[NVME] Error. [{life_percentage}]
nvme_error_3	ERROR	○	[NVME] Critical. [{life_percentage}]
restore_error_1	ERROR	○	USB メモリ(USB キー)に故障が発生しました。USB メモリ(USB キー)を交換をしてください。
restore_error_2	ERROR	○	コンフィグ復元に失敗しました。
restore_error_3	ERROR	○	故障状態：故障中、対応：交換必要あり、交換部位：USB メモリ(USB キー)
restore_error_4	ERROR	○	故障状態：故障中、対応：交換必要あり、交換部位：筐体交換
restore_info_1	ERROR		コンフィグ設定が完了しました。
adserver_error_1	ERROR	□	AD サーバーとの接続が切れました。AD サーバーの状態を確認してください。 □：AD サーバへの

			疎通確認、IP アドレス正誤のご確認をお願いします。
--	--	--	----------------------------

注 1) 上限を変える場合は、工事者による設定変更が必要です。サポートセンターへ工事の手配をお願いします。

## アクセスログ

アクセスログタブを用いることで、管理者は、関連するプロトコルの選択、ユーザーアクティビティ情報を表示することができます。

日付時刻	ユー...	IP	イベ...	ファイル名	ファ...
2021-01-20 06:37:22	nakahara	192.168.16...	logout	--	--
2021-01-20 05:54:00	nakahara	192.168.16...	uploaded	/NAS_Public/SSS_X64FRE_JA-JP_DV9.iso	5514788864
2021-01-20 05:44:24	nakahara	192.168.16...	login	--	--
2021-01-20 05:05:32	nakahara	192.168.16...	logout	--	--
2021-01-20 05:05:31	nakahara	192.168.16...	uploaded	/NAS_Public/SSS_X64FRE_JA-JP_DV9.iso	77119488
2021-01-20 05:02:44	nakahara	192.168.16...	login	--	--
2021-01-18 09:43:37	nakahara	192.168.16...	login	--	--
2021-01-18 09:43:31	nakahara	192.168.16...	uploaded	/NAS_Public/SFST_X64FREO_JA-JP_DV9.ISO	356724
2021-01-18 09:43:28	nakahara	192.168.16...	logout	--	--
2021-01-18 09:43:28	nakahara	192.168.16...	uploaded	/NAS_Public/SFST_X64FREO_JA-JP_DV9.ISO	5786797
2021-01-18 09:43:28	nakahara	192.168.16...	uploaded	/NAS_Public/SFST_X64FREO_JA-JP_DV9.ISO	3529860
2021-01-18 09:43:21	nakahara	192.168.16...	login	--	--
2021-01-18 09:42:58	nakahara	192.168.16...	login	--	--
2021-01-18 09:42:33	nakahara	192.168.16...	logout	--	--
2021-01-18 09:42:33	nakahara	192.168.16...	uploaded	/NAS_Public/SFST_X64FREO_JA-JP_DV9.ISO	4724865
2021-01-18 09:42:33	nakahara	192.168.16...	logout	--	--
2021-01-18 09:42:33	nakahara	192.168.16...	uploaded	/NAS_Public/SFST_X64FREO_JA-JP_DV9.ISO	5941228
2021-01-18 09:42:22	nakahara	192.168.16...	login	--	--
2021-01-18 09:42:00	nakahara	192.168.16...	login	--	--

アクセスログ	
項目	説明
タブ	【FTP】【Windows ファイルサービス】【Mac ファイルサービス】【ログイン ユーザ】からクリックして閲覧したい項目を切り替えます。
ログをエクスポート	CSV 形式でログをエクスポートします。Excel がインストールされている場合開いて表示します。
リフレッシュ	情報をリロードして画面を更新します。
フィルタ	不要な項目をフィルタリングするための値を入力します。
ページあたりの項目 <input type="checkbox"/>	ページごとに表示する行数を指定します。
<< < > >>	早送り (> >> ) および巻戻し ( << <) ボタンを使って、ログ ページを切り替えます。

## 通知

ログと通知から、**通知項目**を選択すると、**通知構成**画面が表示されます。この画面では、システム誤動作の場合の通知設定を行います。

- ① **【 設定を保存する 】**を押下し、すべての設定を確定します。
- ② **【 メール通知を有効にする 】**にチェックをした後、**【 Eメールテスト 】**を押下することで送信テストを行います。
- ③ 設定したメールアドレスにテストメールを受信していることを確認します。

各項目の詳細な説明については、次の表を参照してください。

### 通知

メール通知を有効にする

認証方法：

セキュリティタイプ：

SMTPサーバー：

ポート：

SMTPアカウントID：

アカウントのパスワード：

ログレベル：

送信者メールアドレス：

HELO / EHLOドメイン名：

受取人のEメールアドレス 1：

受取人のEメールアドレス 2：

受取人のEメールアドレス 3：

受取人のEメールアドレス 4：

通知構成	
項目	説明
メール通知	メール通知を有効または無効にします。
認証方法	ド롭ダウンリストから、SMTP サーバーアカウントの認証方法を選択します。

セキュリティタイプ	メール送信時のセキュリティタイプを選択します
SMTP サーバー	SMTP サーバーのホスト名/IP アドレスを指定します。
ポート	発信通知電子メールを送信するポートを指定します。
SMTP アカウント ID	SMTP サーバーの電子メールアカウント ID を設定します。
アカウントのパスワード	新しいパスワードを入力します。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

OCN メールの設定をする場合は以下を参照してください。	
項目	説明
電子メール通知	システム問題の電子メール通知を有効または無効にします。
認証方法	On
セキュリティタイプ	SSL
SMTP サーバ	smtp.ocn.ne.jp
ポート	465
SMTP アカウント ID	(*****)@???.ocn.ne.jp の@以前(*の部分)
アカウントパスワード	アカウントのパスワードを入力します。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

※：本設定は、一例で実施しています。

アカウントごとに異なる設定があるため、詳細は以下の URL に従って確認し設定してください。

<https://support.ntt.com/ocn/support/pid2990021006>

Yahoo メールの設定をする場合は以下を参照してください。	
項目	説明
電子メール通知	システム問題の電子メール通知を有効または無効にします。
認証方法	LOGIN
セキュリティタイプ	SSL
SMTP サーバー	Smtplib.mail.yahoo.co.jp
ポート	465
SMTP アカウント ID	(*****)@yahoo.co.jp の@以前
アカウントパスワード	アカウントのパスワードを入力します。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。

HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

Gmail の設定をする場合は以下を参照してください。	
項目	説明
電子メール通知	システム問題の電子メール通知を有効または無効にします。
認証方法	Gmail
セキュリティタイプ	StartTLS
SMTP サーバー	Smtp.gmail.com
ポート	587
SMTP アカウント ID	(*****)@gmail.com の@以前
アカウントパスワード	アカウントのパスワードを入力します。
ログレベル	電子メールを送信するログレベルを選択します。
送信者メールアドレス	電子メール通知を送信する送信者の電子メールアドレスを設定します。
HELO/EHLO ドメイン名	有効な HELO/EHLO ドメイン名を選択します
受取人の E メールアドレス (1、2、3、4)	電子メール通知を受信する 1 つまたは複数の受信者の電子メールアドレスを追加します。

上記設定で実施しても Gmail のテストが正常に行えない場合は、Google のセキュリティによりアクセス無効となっている可能性が高いです。

その際は、Google アカウントにアクセスして**安全性の低いアプリのアクセスがオフになっていないか**を確認し、アプリのアクセスを許可することでメールが送信できるようになります。



## ← 安全性の低いアプリのアクセス

一部のアプリやデバイスでは安全性の低いログイン技術が使用されており、アカウントが脆弱になる恐れがあります。こうしたアプリについてはアクセスを無効にすることをおすすめします。有効にする場合は、そのようなリスクをご理解のうえでお使いください。この設定が使用されていない場合は自動的に無効になります。 [詳細](#)

安全性の低いアプリの許可: 有効



### 注 1

設定の変更(メールアドレスの追加や削除等)を行う場合には、メール通知を無効(メール通知有効のチェックボックスを外して)にしてから設定内容を変更し設定を保存して再度メール通知を有効にしてください。

### 注 2

電子メールサーバー情報については、メールサーバー管理者にお問合せください。

## 電源とハードウェア

設定パネル

電源管理 UPS ハードウェア制御

一般設定

シャットダウン 再起動

ミニUPS設定

ミニUPS状態クリア

電源スケジュール

電源スケジュールを有効にする ⓘ

+ 追加

状態	アクション	時間	期間
----	-------	----	----

自動再開

電源復帰時に自動的に電源をオンにします。

オフ  オン  前の状態

- ※システムフェイルオーバーを設定する場合、コントロールパネルに「電源とハードウェア」は表示されなくなります。
- ※電源管理ではアカウントによって表示/設定できる項目が異なります。

## 電源管理

### 一般設定

[再起動] を押下してシステムを再起動する、または、[シャットダウン] を押下してシステムをシャットダウンします。



### 電源スケジュール

本製品の電源管理を使って、一日の特定の時刻にオンおよびオフにするよう本製品をスケジュール設定することで、消費電力とコストを節約することができます。

本製品のオンおよびオフのスケジュールを指定するには、最初に「電源スケジュールを有効にする」チェックボックスにチェックを入れて、機能を有効にします。

次に、[追加] を押下して、システム電源をオンまたはオフにする時刻を追加します。



#### 例 - 月曜日: オン: 8:00、オフ: 16:00

システムは、月曜日の午前 8:00 にオンになり、月曜日の 16:00 にオフになります。システムは、週の残りの曜日はオフになります。

時刻を指定せずオン時刻を選択した場合、システムは、スケジュール設定されたオフ時刻に達するか、または、手動でシャットダウンしない限り、システムはオンになります。

### 例 - 月曜日: オン: 8:00

システムは、月曜日の午前 8:00 にオンになり、電源オフが手動で押されない限り、シャットダウンしません。

### 例 - 月曜日: オフ: 8:00、オフ: 16:00

システムは、月曜日の午前 8:00 にオフになります。システムは、オンになっていた場合、月曜日の 16:00 にオフになります。システムが、月曜日の 16:00 に既にオフになっている場合、システムはオフのままです。

電源スケジュールの推奨登録数は 32 件、最大 120 件までとなります。

### 自動再開

本製品では、停電再開時に 3 つの異なるモードを設定することができます。

**自動再開**

電源復帰時に自動的に電源をオンにします。

オフ                       オン                       前の状態

自動再開	
項目	説明
オフ	<b>オフ</b> を選択します。電源が復旧しても、電源は自動的にオンになりません。
オン	<b>オン</b> を選択します。通電状態に変化があった場合、電源がオンになります。 ※電源を切っていた場合でもオンになります。
前の状態	停電再開中の前のシステム状態を維持します。 停電前の通電時オンであった場合オンに、オフだった場合オフのままです。

## UPS

本製品は、USB インターフェースを介して、**無停電電源（以下 UPS）** をサポートします。**UPS サービスおよびリモート UPS の監視**設定から USB 接続された UPS の設定を変更し、**適用**を押して、変更を確定します。

APC 製とオムロン製 2 社の指定 UPS をサポートしております。

電源管理
UPS
ハードウェア制御

### UPSサービス

UPSサービスを有効にする

製造者 APC ▼

モデル SMT750J/SMT1500J ▼

電源 切断されました

バッテリー状態 (%) 切断されました

最初の通知 (秒) ⓘ 5 ▲▼

次の通知までの間隔 (秒) ⓘ 20 ▲▼

シャットダウン率 (%) ⓘ 5 ▲▼

適用

各項目の詳細な説明については、次の表を参照してください。

UPS サービス	
項目	説明
UPS サービスを有効にする	UPS 監視を有効または無効にします。
製造者	ドロップダウンから UPS のメーカーを選択します。
モデル	ドロップダウンから UPS のモデル番号を選択します。
現在の供給電源	UPS に供給されている電源の現在のステータスです
バッテリーステータス	UPS バッテリーの現在のステータスです
初回通知 (秒)	電源障害と初回通知の間の秒単位での遅延時間です。
次の通知までの間隔 (秒)	次の通知の間の秒単位での遅延時間です。
シャットダウンするパーセント (%)	システムを自動シャットダウンする前の残存 UPS バッテリー量です。

設定が完了したら[ 適用 ]ボタンを押下することで反映されます。

## 注 2

フェイルオーバーを構成する際には、UPS の設定をフェイルオーバー設定よりも先に行う必要があります。フェイルオーバー設定を先に実施した場合は、一度フェイルオーバー設定の解除を行い、フェイルオーバー設定を無効にしてから UPS 設定を行ってください。

## ハードウェア制御

システムブザーの鳴動設定を行うことができます。鳴っているブザーを止めたい場合チェックを外します。チェックを外した場合には、再度有効にするまでブザーはなりません。一時的に止めたい場合には、LCM 操作によるミュート機能をご利用ください。



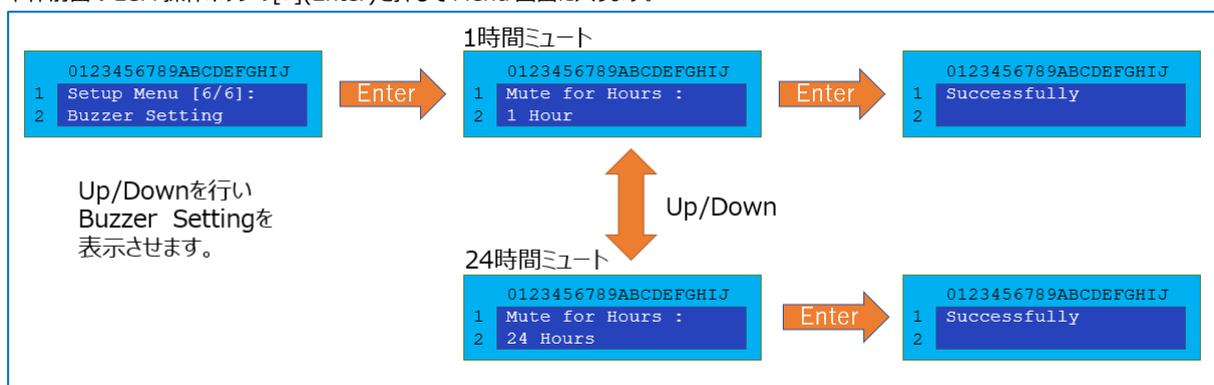
### ハードウェア制御

チェックボックスをクリックすることで、システムブザーを**有効/無効**にすることができます。チェックを入れて、エラー発生時のシステムブザーを有効にします。または、無効にして、システムをミュートします。

本体前面の操作パネルでも一定時間ミュートにすることができます。

#### LCM 設定

本体前面の LCM 操作ボタンの[↵](Enter)を押して Menu 画面に入ります。



## システム情報

### システムステータス

この画面は、基本的なシステムステータス情報を提供します。設定変更ができる項目はありません。

オフィス・ステーション Pro「OS Pro」

システム   ネットワーク   ハードウェア情報

#### システムステータス



モデル名	N5820BAT
バージョン	3.02.09.7
シリアル番号	1953BA0702
CPU負荷率	0.0 %
メモリー稼働率	7.1 %
連続動作時間	2日, 2時間, 48分
CPU温度	30°C / 86.0°F
CPUファン速度	3061 rpm
システム温度1	20°C / 68.0°F
システム温度2	25°C / 77.0°F
システムファン速度1	1162 rpm
システムファン速度2	2842 rpm
ミニUPS/バッテリー	接続されていません
充電状態	充電していません
ミニUPS状態	ミニUPSがインストールされていないため、バッテリーの状態チェックは実行されません。
AC電源	接続済み

システムステータス	
項目	説明
モデル名	このモデル名とはベースモデル名で、オフィス・ステーション Pro「OS Pro 4/8/12」とは異なります。
バージョン	現在のファームウェアバージョンです。
シリアル番号	シリアル番号が表示されます。
CPU 負荷率	オフィス・ステーション Pro「OS Pro」の現在の CPU 負荷状態を表示します。
メモリー稼働率	オフィス・ステーション Pro「OS Pro」の現在のメモリー負荷状態を表示します。
連続動作時間	システムの稼働時間を表示します。
CPU 温度	現在の CPU 温度を表示します。

システム温度 1	現在のシステム温度を表示します
システム温度 2	現在のシステム温度を表示します。
システムファン速度 1	システムファンの現在のステータスを表示します。
システムファン速度 2	システムファンの現在のステータスを表示します。
ミニ UPS バッテリー	ミニ UPS は接続されていません。
充電状態	ミニ UPS が接続されていないので充電していません。
ミニ UPS 状態	ミニ UPS が接続されていないのでチェックは実行されません。
AC 電源	AC 電源の接続状態を表示します。

## ネットワークステータス

この画面は、基本的なネットワークステータスおよび情報を提供します。設定変更ができる項目はありません。

システム	ネットワーク	ハードウェア情報			
<p>ネットワークステータス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホスト名: BS390013</li> <li>ドメイン名: WORKGROUP</li> </ul>					
名前	IP アドレス	MACアドレス	ステータス	速度 (Mb/秒)	IPv6アドレス
WAN/LAN1	192.168.168.117	08:35:71:12:15:78	接続	1000	
LAN2		08:35:71:12:15:79	切断	N/A	
LAN3	10.254.253.2	08:35:71:12:15:7a	接続	1000	
LAN4		08:35:71:12:15:7b	切断	N/A	

ネットワーク情報 (グローバルパラメータ)	
項目	説明
ホスト名	ネットワーク上の オフィス・ステーション Pro「OS Pro」を識別するホスト名です。
ドメイン名	オフィス・ステーション Pro「OS Pro」のドメイン名を指定します。
名前	ネットワークインターフェース名を表示します。
IP アドレス	ネットワークインターフェースの IPv4 アドレスを表示します。
MAC アドレス	ネットワークインターフェースの MAC アドレスを表示します。
ステータス	ネットワークインターフェースのリンクステータスを表示します。
速度(Mb/秒)	ネットワークインターフェースのリンク速度を表示します。
IPv6 アドレス	ネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを表示します。

## ハードウェア情報

ハードウェア情報をクリックすると、対象モデルの関連ハードウェアの詳細が表示されます。

### ハードウェア情報

#### CPU

-  CPU1: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz
-  CPU2: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz
-  CPU3: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz
-  CPU4: Intel(R) Atom(TM) CPU C3558 @ 2.20GHz

#### メモリー

-  Memory Size: 16023MB

#### ネットワークインタフェースカード (NIC)

-  WAN/LAN1: Intel Corporation Device 15e4 (rev 11)
-  LAN2: Intel Corporation Device 15e4 (rev 11)
-  LAN3: Intel Corporation Device 15e5 (rev 11)
-  LAN4: Intel Corporation Device 15e5 (rev 11)

#### ユニバーサルシリアルバス (USB)

-  USB2.0-1: Intel Corporation Device 19d0 (rev 11)
-  USB3.0-1: Intel Corporation Device 19d0 (rev 11)

#### ディスクコントローラー

-  SATA1: Intel Corporation Device 19c2 (rev 11)
-  SATA2: Device 1b4b:9215 (rev 11)
-  SATA3: Intel Corporation Device f1a6 (rev 03)

## ネットワーク

コントロールメニューから、**ネットワーク**を選択して、**ネットワーク設定**画面を表示させます。この画面には、グローバル設定と使用可能なネットワーク接続のネットワークパラメータが表示されます。

設定を変更する際は、適用を押下して、設定を確定してください。

各項目の説明は、次の表を参照してください。

※システムフェイルオーバーを構築する場合、コントロールパネルに「ネットワーク」は表示されなくなります。

ポート	IPv4	デバイス速度	操作
WAN/LAN1	192.168.168.132	1000 Mb/s	編集
LAN2		0 Mb/s	編集
LAN3		0 Mb/s	編集
LAN4		0 Mb/s	編集

**ホスト設定**

ホスト名: BS390009

ドメイン名: WORKGROUP

WINSサーバー 1: WINSサーバーを入力してください。

WINSサーバー 2: WINSサーバーを入力してください。

DNS設定

手動設定  DHCP

8.8.8.8 DNSサーバーを入力してください。 DNSサーバーを入力してください。

適用

## ネットワーク設定

### **WAN/LAN 設定:**

LAN ポートは4つありますが、LAN 3とLAN 4についてはシステムフェイルオーバーの対向機のハートビート用、メンテナンス用と用途を制限しているためユーザーが設定、使用可能なポートは WAN/LAN1 と LAN2 だけになります。

ポート設定を変更するには、対応するネットワークポートの**編集**をクリックしてください。設定画面が表示されます。

DHCP、手動設定を設定することができます。

### **基本設定:**

基本設定	
MAC アドレス	ネットワークインターフェースの MAC アドレス。
現在の IP	関連する NIC インターフェースの IP アドレス。
速度設定	関連する NIC ポートのリンク速度設定を表示します。
リンクステータス	関連する NIC ポートのリンクステータスを表示します。
備考	対応するネットワークポートの説明を入力することも可能です
IPv4/IPv6	手動入力または DHCP サーバーから IP アドレスを設定します。
モード	手動入力による静的 IP または DHCP サーバーから動的 IP を選択することができます。
IP アドレス	手動入力を選択されている場合は IP アドレスを入力します。または、DHCP サーバーから付与された IP アドレスを表示します
ネットマスク	手動入力を選択されている場合はネットマスクを入力します。または、DHCP サーバーから付与されたネットマスクアドレスを表示します
ゲートウェイ	手動入力を選択されている場合はゲートウェイを入力します。または、DHCP サーバーから付与されたゲートウェイを表示します

**注**

- SMTP および NTP などのネットワークサービスにおいて適切な DNS 設定を行うことが必要です。

## ホスト設定:

ホストやドメイン名など、ホストのグローバル設定を変更します。

### ホスト設定

ホスト名 :	<input type="text" value="BS390009"/>
ドメイン名	<input type="text" value="WORKGROUP"/>
WINSサーバー 1	<input type="text" value="WINSサーバーを入力してください。"/>
WINSサーバー 2	<input type="text" value="WINSサーバーを入力してください。"/>
DNS設定	
<input type="radio"/> 手動設定	<input checked="" type="radio"/> DHCP
<input type="text" value="8.8.8.8"/>	<input type="text" value="DNSサーバーを入力してください。"/> <input type="text" value="DNSサーバーを入力してください。"/>
<input type="button" value="適用"/>	

ホスト 設定	
項目	説明
ホスト名 :	本製品を識別する固有の名前です。サポートを受ける際に必要となる情報です。 <b>※ホスト名は変更できません。</b>
ドメイン名	ドメイン名を指定します。
WINS サーバー-1	1 番目の WINS サーバーを指定します。
WINS サーバー-2	2 番目の WINS サーバーを指定します。
DNS 設定	DNS サーバーを指定します。手動設定を選択した場合は直下のフォームに 3 台まで設定可能です。DHCP を選択した場合は自動取得されるためフォームへの入力不要です。

設定が完了したら[ 適用 ] を押下することで再起動を促すウィンドウが表示されます。[ OK ] を押下して再起動することで設定が反映されます。また、[ キャンセル ] を押して保留することも可能です。



## 地域オプション

### 日付/時間

地域オプションメニューを選択しますと日付/時間設定画面が表示されます。日付、時間およびタイムゾーンを設定します。また、本製品のシステム時間を NTP (ネットワークタイムプロトコル) サーバーと同期させることができます。

日付/時間

2020/01/30 15:18

タイムゾーンの設定

タイムゾーンモード  UTCモード  都市モード

都市 Asia ▼ 東京 ▼

適用

システム時刻設定

システム時刻設定  NTPサーバーと同期する  手動設定

NTPサーバー ⓘ ntp.nict.jp ▼

適用

#### タイムゾーンの設定

都市モードで Asia Tokyo に設定されています。※変更できません。

タイムゾーンモード  UTCモード  都市モード

都市 Asia ▼ Tokyo ▼

#### システム時刻設定

本製品の時刻を設定します。NTP サーバーと同期して設定することも可能です。

「NTP サーバーと同期する」を選択している場合は「NTP サーバー」ドロップダウンリストが表示されますので、同期したい NTP サーバーを選択してください。また同期したい NTP サーバーを直接入力することも可能です。

初期値は、以下の NTP サーバーへ同期する設定にしております。

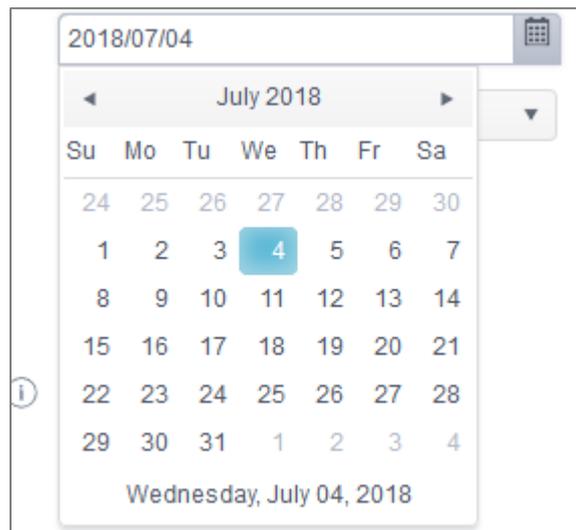
システム時刻設定  NTPサーバーと同期する  手動設定

NTPサーバー ⓘ ntp.nict.jp ▼

手動設定を選択した場合は日付を入力し、時間をドロップダウンメニューから選択してください。

システム時刻設定	<input type="radio"/> NTPサーバーと同期する	<input checked="" type="radio"/> 手動設定
日付	2018/07/04 	
時間	11	: 44

日付については入力欄の右側にあるカレンダーアイコンを押下することで表示されるカレンダーから選択することも可能です。



設定が完了したら[ 適用 ]を押下して反映してください。

## 外付けデバイス

### 外付けハードディスク

外部デバイスメニューから、外付けハードディスクを選択します。外付けハードディスク画面が表示されます。この画面は、システムに接続された外付けハードディスクに関する情報を提供します。

Device Status	デバイスタイプ	モデル	ファイル名	デバイス容量	ファームウェアバージョン
 Mounted	USB	DataTraveler 3.0	sdv	14.4 GB	PMAP
 Unmounted	USB	LHD USB Device	sdz	3.6 TB	0103

※外付け USB ハードディスクは上記赤枠のモデル「LHD USB Device」が対象となります。

**モデル「DataTraveler 3.0」は暗号用 USB メモリとなりますので、こちらをフォーマットしないようご注意ください。本機で暗号用 USB メモリをフォーマットしようとすると以下のような表示となりフォーマットできません。**



外付け HDD	
項目	説明
リフレッシュ	USB の接続状況を再取得します。
フォーマット	選択した USB 機器のフォーマットを実施します。
取り出す	選択した USB 機器を安全に取り外します。

### 注

- 暗号化キーが含まれる外付け USB デバイスはフォーマットが出来ません。
- 暗号化キーは YYYYMMDD\_hhmmss.key という命名規則で作成時に名前が付けられ  
YYYY = 西暦 (0001~9999)、MM = 月 (01~12)、DD = 日 (01~31)、hh = 時間 (0~23)、  
mm = 分 (00~59)、ss = 秒 (0~59) が入ります。うるう年対応でカレンダー上存在する日であるかを判定しています。
- 上記法則に従ったファイルがあると暗号化キーであると判断し、フォーマットが出来なくなります。

### フォーマット

外付 HDD バックアップやシステムファイルオーバーの External USB Backup を行う場合、必ずこの USBHDD フォーマットでフォーマットを実施してください。

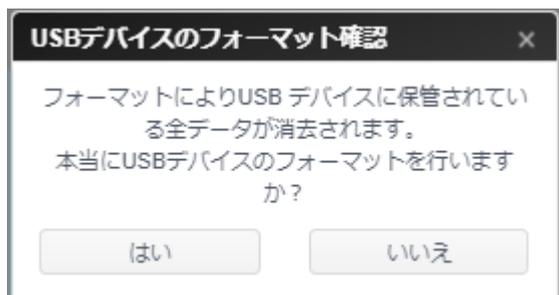
※システムファイルオーバーの External USB Backup は、外付け HDD のバックアップを含めてファイルオーバーする機能です。(同容量の外付け HDD をアクティブ側、スタンバイ側に接続してください)



## デバイス情報

USBHDD フォーマット	
項目	説明
デバイスタイプ	USB と表示されます
デバイスモデル	USB のモデル名が表示されます。
パーティション	パーティションの状態が表示されます。パーティションの制限は単一パーティションです。この設定は変更できません。
デバイス容量	デバイスの容量が表示されます。パーティションの容量はデバイスの最大容量と同じです。
GPT/MBR	GBT か MBR のどちらかを選択します。MBR を選択した場合のサポートする最大容量は 2 TB です。
ファイルシステム	NTFS か EXFAT を選択します。
AES_NI Support	AES_NI (ハードウェア暗号化複合化高速化機能) を使用します。変更できません。
暗号化	パスワードを入力します。確認のため、同じパスワードを下段に入力します。
暗号化キー保存 USB デバイス	暗号化キーを保存する USB メモリを選択します。(RAID ボリューム暗号化キーを保存している USB メモリ(付属の USB)を選択します。)
適用	設定した内容でデバイスのフォーマットを実施します。

適用を押下するとフォーマットの確認が表示されます。フォーマットを行う場合は「はい」を押下してください。

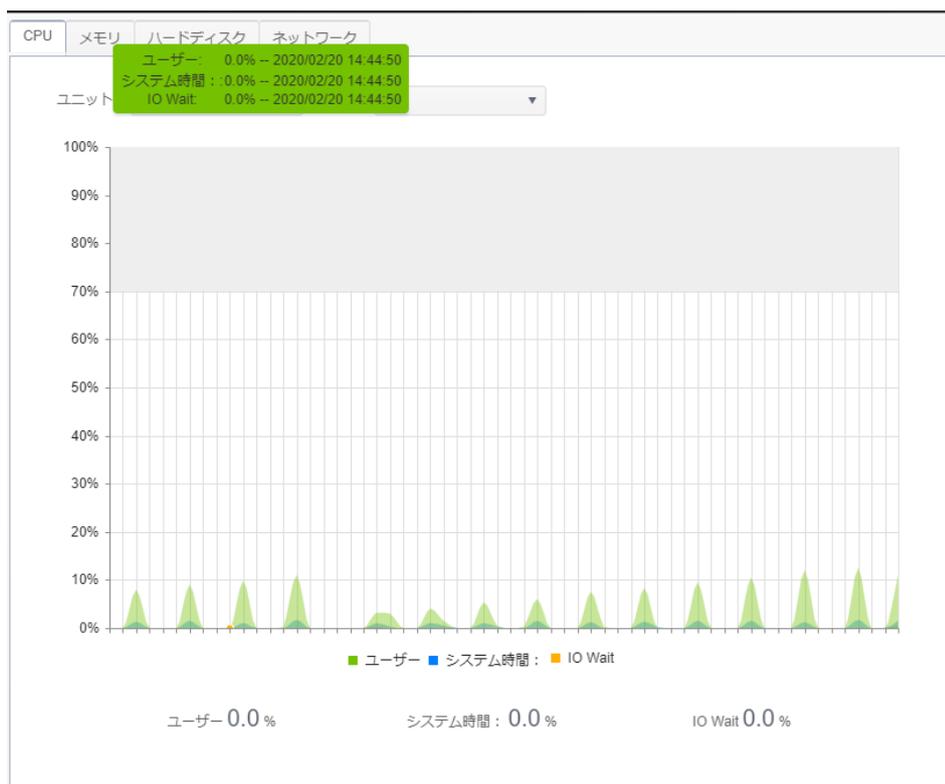


## モニター

システムモニターは、CPU、メモリー、ハードディスクおよびネットワークを含むシステムステータスを監視することができます。

システムステータスを監視するには、関連する項目のタブをクリックします。それに応じた画面が表示されます。

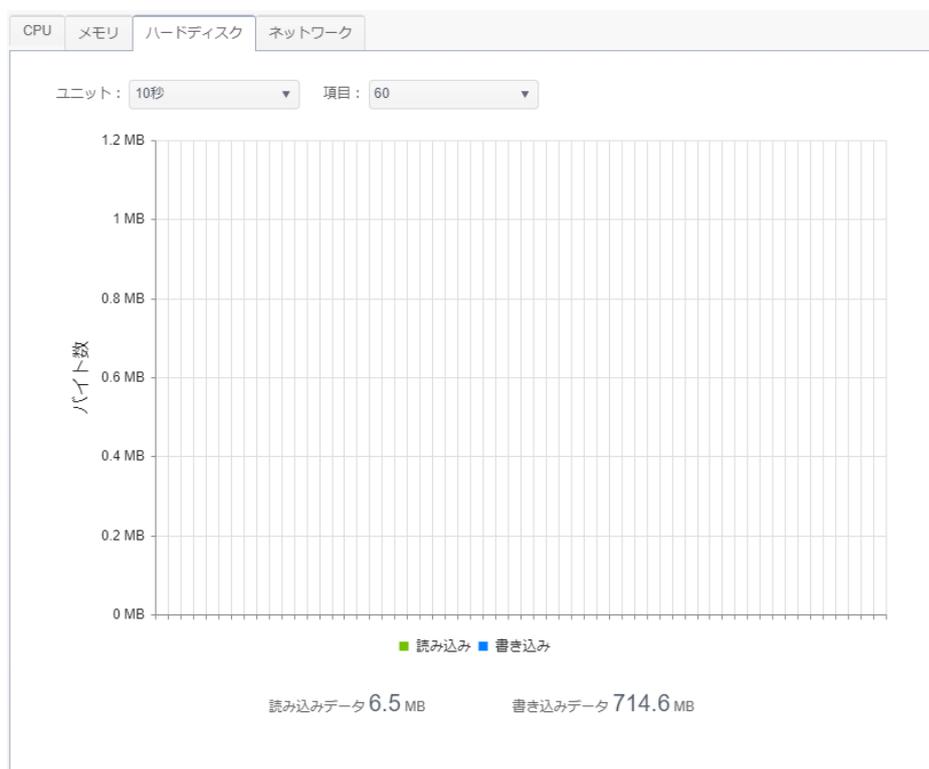
### CPU



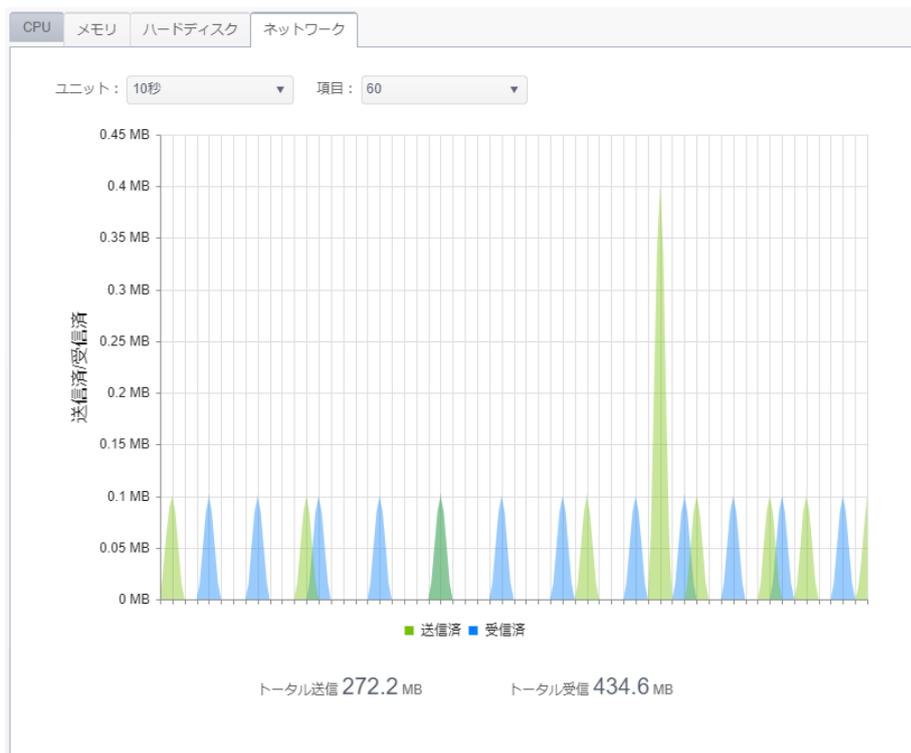
## メモリー



## ハードディスク



# ネットワーク



## ファームウェア設定

※システムフェイルオーバーを実施した場合、「ファームウェア設定」はコントロールパネルに表示されなくなります。システムフェイルオーバーの構成要件として2台のマシンが同一のファームウェアバージョンであることが必要なため事前に更新の確認を行ってください。

## 自動更新

**今すぐ更新をチェック**をクリックして、最新のファームウェアバージョンにアップデートすることができます。

**スケジュール**で月や週、時間を指定しての更新チェックが行えます。

更新があり実施した場合再起動を行う表示が出ますので OK を押し必ず再起動を行ってください。

スケジュールで更新がありアップデートした場合は自動で再起動が行われますのでスケジュールは深夜など使わない時間帯に設定するようにしてください。(エンドユーザ様が、利用している PC のデータのバックアップ等を夜間に行う場合には、この設定した時間をさけるようにご利用ください)

※ファームウェア更新初期日時設定：毎週土曜日 01:45

※設定した時間に FW ダウンロードを開始するためダウンロード完了後の再起動となります。設定時間には余裕を持たせてください。(60 分程度)

### 自動更新

期間

時間  :

自動更新	
項目	説明
今すぐ更新をチェック	今すぐファームウェアの最新バージョンがあるか確認します。
スケジュール	自動更新のスケジュールを設定します。
期間	【毎週】:【月-日曜日】曜日を選択します。 【毎月】:【1-28】から選択します。
時間	時間を【00-23】【00-59】で設定します。
適用	設定したスケジュールを保存します。



### 自動更新

NASをインターネットに接続してください。現在すでに接続している場合、サーバーがビジー状態の可能性あります

インターネットに接続しているのにこのような表示がされる場合、自動更新サーバーがメンテナンス中または公開を停止している場合があります。

## 設定管理

設定管理を用いて、システム設定情報のバックアップまたはアップロードをすることができます。システム設定の対象は設定パネルにて設定できる情報のうち、共有フォルダーを除いたものとなります。

設定をバックアップ

設定をシステムに保存

設定をPCに保存

設定を復旧

RAID ⓘ       Dom ⓘ       Server ⓘ       PC upload ⓘ

USB Selected    DataTraveler 3.0 / sdx ▼

Restore

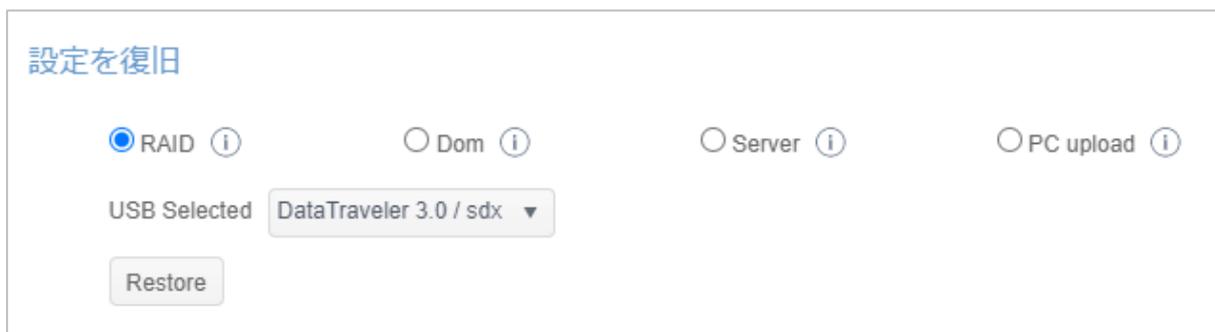
各項目の詳細な説明については、次の表を参照してください。

システム設定管理	
項目	説明
設定をシステムに保存	現在のシステム設定をシステム[RAID]（10世代まで）、[Dom]（最新のみ）、[Server]（最新のみ）に保存します。
設定をPCに保存	現在のシステム設定を手動で今利用しているPCにダウンロードします。
設定を復旧	[RAID]HDD、[Dom]システム、[Server]クラウド、[PC upload]PCのいずれかからバックアップしてある設定を読み込んでリストアします。
USB Selected	バックアップしたHDD暗号化キーをどのUSBメモリに復元するかを選択します。USBメモリが故障した場合、新しいUSBメモリに交換して実施する必要があります。

### 注

初回の「設定をシステムに保存」ボタンを押下し、設定のバックアップを行ってください。  
また**設定ファイルは毎日のAM00:05~01:35の間に自動保存されます。**  
RAID、Dom、Serverに自動保存されず  
FW3.02.09.7以降でバックアップしたシステム構成は、バージョンアップ3回後までのシステムで復元することができます。  
USBメモリ故障時には、サポートサービスを契約している場合は、サポートセンターへ連絡ください。サポート契約未加入には、修理依頼書を記入し修理依頼を実施してください。

## 設定を復旧



設定を復旧

RAID ⓘ       Dom ⓘ       Server ⓘ       PC upload ⓘ

USB Selected DataTraveler 3.0 / sdx ▼

Restore

バックアップ先をクリックして選択します。選択した場所より復旧が行われます。暗号化キーを復旧する USB メモリが選択されていることを確認します。

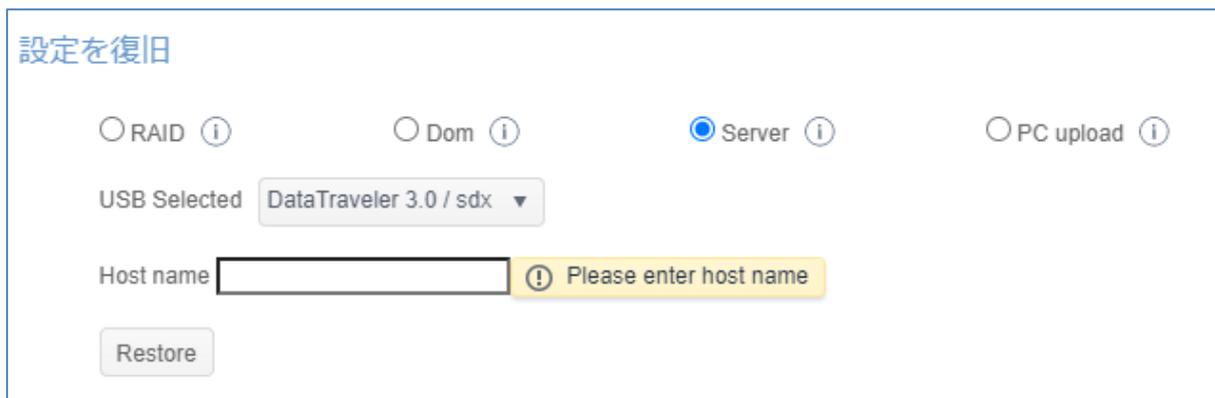
### 【RAID/Dom】

※RAID からの復旧は HDD 故障時には使用できません。他の場所からの復旧を使用してください。

※DOM は NASOS が格納されている専用領域です。

Restore を押下します。

### 【Server】



設定を復旧

RAID ⓘ       Dom ⓘ       Server ⓘ       PC upload ⓘ

USB Selected DataTraveler 3.0 / sdx ▼

Host name  ⓘ Please enter host name

Restore

Host name にホスト名を入力します。

[コントロールパネル]⇒[ネットワーク]⇒[ネットワーク設定]⇒[ホスト設定]ホスト名を確認してください。

ホスト名を入力後に Restore を押下します。

### 【PC upload】

設定を復旧

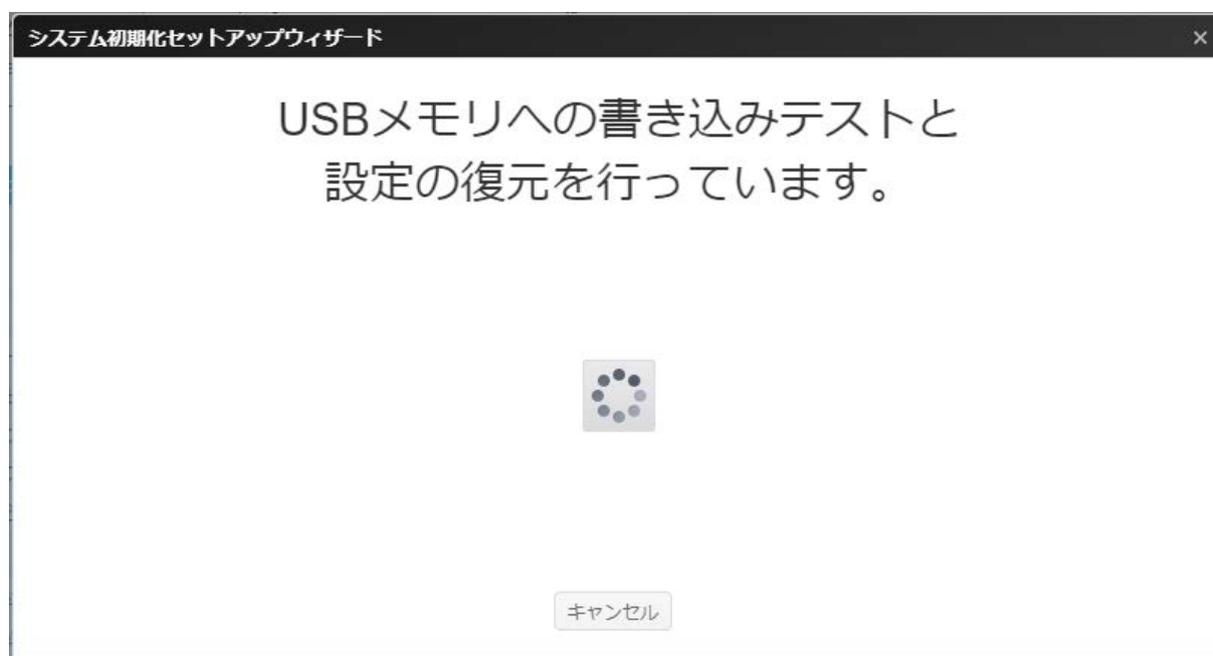
RAID ⓘ     
 Dom ⓘ     
 Server ⓘ     
 PC upload ⓘ

USB Selected DataTraveler 3.0 / sdx ▼

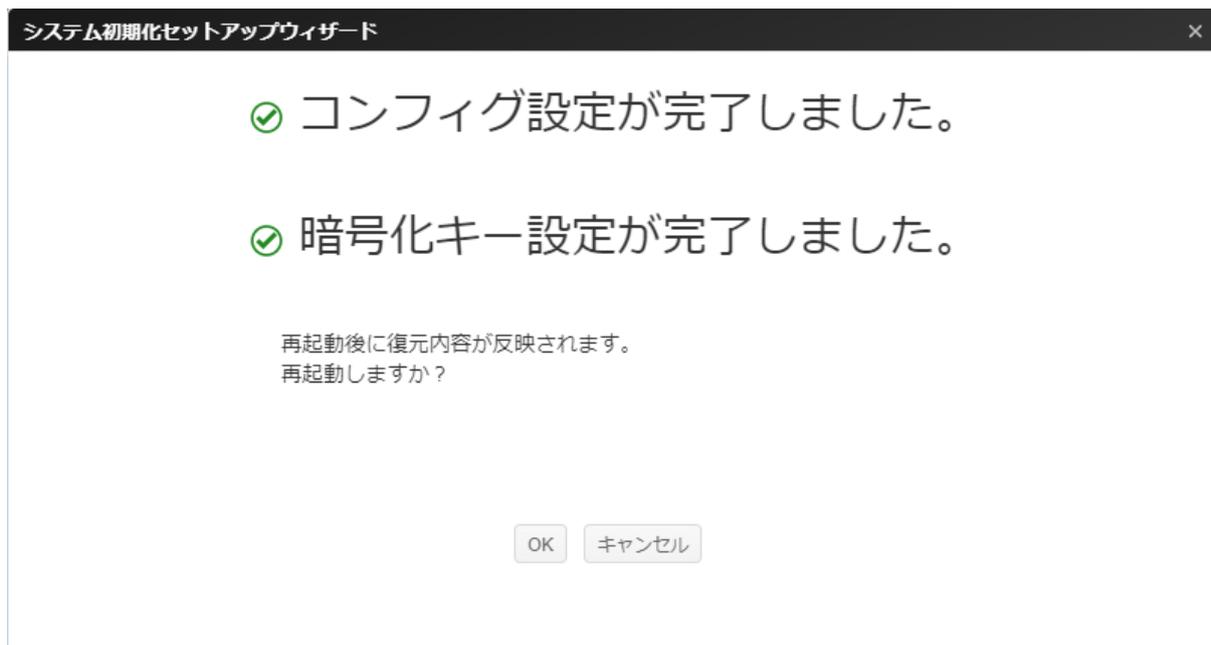
設定復元に使う設定ファイルを選択してください。

ここにファイルをドロップ

設定をバックアップで【設定を PC に保存】している場合、選択から conf.bin を選択するかファイルをドロップします。設定ファイルを登録したら Restore を押下します。



USBメモリへの書き込みテストが実施され、その後暗号化キー、コンフィグ設定が復元されます。



「暗号化キーを USB メモリへ復元できませんでした」と表示された場合、他のバックアップ先からの復旧も再度実施します。それでも復旧が行えない場合は、USB メモリまたは本体の故障の可能性があります。故障と判断される場合には、故障アラートが出ている可能性があります。メールを確認していただき、サポート契約の有無により以下の対応をお願いします。

- ・サポート契約あり：オフサポへご連絡ください。オフサポセンターより、先出センドバック依頼を行います。
- ・サポート契約無し：修理対応を行います。修理品を修理依頼書

(URL(<https://www.nttpc.co.jp/support/term/securityboss.html>))をダウンロードし、保証書もしくは、リース証明書のコピーとともに送付してください。修理後、修理品をお送りします。



再起動すると復旧が完了します。OK を押下し、再起動を行ってください。

以上の手順を実施しても再度同じ画面が表示される場合、故障の可能性がありますのでコールセンターまでご連絡ください。

## 注

- 一度復号化されると次回起動時まで有効です。暗号化キーによる復号化は起動シークエンスの最中に行われます。この時に USB メモリが挿入されていない、不正なシャットダウン、ディスクが正しく挿入されていないなどのトラブルがあると復号化に失敗するおそれがあります。使用中の USB メモリの不用意な挿抜、強制シャットダウンなどは行わないよう注意してください。
- USB メモリの故障時は新しい USB メモリを実装し第 4 章：システム管理「ファームウェア設定」の「設定管理」の「設定を復旧」の手順に基づいてリストアを行ってください。
-

## アクセス権



### 共有フォルダー

アクセス権メニューから、**共有フォルダー**を選択します。**共有フォルダー**画面が表示されます。この画面では、本製品ボリューム上にフォルダーを作成かつ構成することができます。



#### ■NAS\_Public

初期状態で作成されているフォルダーです。

ネットワーク接続しているすべてのユーザが、読み書き可能なフォルダーになります。(アクセス制限をしておりません)

#### ■USBHDD

初期状態で作成されているフォルダーですが USBHDD を共有フォルダーにすることはできません。外付けの **USBHDD** や **USB メモリ** はバックアップ先としてのみ使用できます。

## フォルダーの追加

共有フォルダー画面で[新規作成] を押下すると、フォルダー作成画面が表示されます。

フォルダー作成設定には 4 つのサブ項目があります。必要な情報を入力し、[適用] を押下して、フォルダー作成を完了します。

### 一般設定:

必要な情報を入力し、フォルダー作成の一般設定を完了してください。

The screenshot shows a dialog box titled "新規作成" (New Creation) with a close button (X) in the top right corner. It has three tabs: "一般設定" (General Settings), "ユーザーACL" (User ACL), and "グループACL" (Group ACL). The "一般設定" tab is selected. The form contains the following elements:

- RAID ID: A dropdown menu showing "FileServer".
- フォルダー名 (Folder Name): A text input field with the placeholder text "ここにフォルダー名を入力してください。" (Please enter the folder name here).
- 説明 (Description): A text input field with the placeholder text "ここに説明を入力してください。" (Please enter the description here).
- 最大スナップショット数 (Maximum Snapshots): A spinner control set to "15".
- パブリック (Public): An unchecked checkbox.
- 読み取りのみ (Read-only): An unchecked checkbox.
- 参照可能 (Referenceable): A checked checkbox.
- Buttons: "適用" (Apply) and "キャンセル" (Cancel) buttons at the bottom right.

フォルダーの追加	
項目	説明
RAID ID	新しいフォルダーが存在する RAID ボリュームです。設定をする必要はありません。(初期値のままご利用ください)
フォルダー名	フォルダーの名称を入力します。
説明	フォルダーの説明を入力します。
スナップショット世代数	保存するスナップショット世代の最大数を設定します。最大は 15 です。
パブリック	このフォルダーへのパブリックアクセスを承認または拒否します。はいを選択すると、ユーザーがこのフォルダーに書き込む際はアクセス許可を持つ必要はありません。
読み取りのみ	関連情報を読み取ることができますが、書き込むことはできません。
参照可能	ユーザーによるフォルダー内容の閲覧を有効または無効にします。はいを選択すると、共有フォルダーは参照可能になります。
適用	適用を押して、フォルダーを作成します。

### 注

フォルダー名は 60 文字に制限されています。  
使用環境毎のフォルダ数の最大作成可能数は以下となります。

- ・Windows 10 → NAS SAMBA : 227~233
- ・MAC OS X → NAS SAMBA/AFP : 255
- ・NAS Web UI File Center → NAS : 60

## ユーザー ACL:

フォルダー作成画面で、**ユーザー ACL** ボタンを押します。**ユーザー ACL 設定**画面が表示されます。この画面では、ユーザーに対して、特定フォルダーへのアクセスを設定することができます。左カラムのユーザーリストから、**拒否**、**読み込み**または**書き込み**を選択し、アクセスレベルを設定します。[ **適用** ] を押下して、設定を確定します。

※ACL を設定した場合は、パソコン端末のログオフ・ログオンするか再起動により再確認をお願いします。

ユーザー名	ユーザータイプ	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> 読み込み/書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
a	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ユーザー ACL 設定	
項目	説明
読み込み	この絡むに表示されているユーザーに読み込みのみのアクセスを提供します。
読み込み/書き込み	このカラムに表示されているユーザーに読み込み書き込みアクセスを提供します。
拒否	このカラムに表示されているユーザーのアクセスを拒否します。

## グループ ACL:

フォルダー作成画面で、**グループ ACL** ボタンを押します。**グループ ACL 設定**画面が表示されます。この画面では、グループに対して、特定フォルダーへのアクセスを設定することができます。左カラムのグループリストから、**拒否**、**読み込み** または **書き込み** を選択し、アクセスレベルを設定します。[ **適用** ] を押下して、設定を確定します。

グループ名	グループタイプ	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> 読み込み/書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
users	ローカルグループ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

グループ ACL 設定	
項目	説明
読み込み	このカラムに表示されているグループに読み取りのみのアクセスを提供します。
読み込み/書き込み	このカラムに表示されているグループに書き込みアクセスを提供します。
拒否	このカラムに表示されているグループのアクセスを拒否します。

### 注

一人のユーザーが異なる権限を持つ複数のグループに属している場合、権限の優先順位は次のようになります:

拒否 > 読み取りのみ > 書き込み

ACL のアルゴリズムを以下に記載します。

	設定内容	グループ ACL			
		読み込み	読み込み /書き込み	拒否	設定なし
ユーザー ACL	読み込み	読み込み	読み込み	読み込み	読み込み
	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み	読み込み /書き込み
	拒否	拒否	拒否	拒否	拒否
	設定なし	読み込み	読み込み /書き込み	拒否	拒否

上記のアルゴリズムにあるように、アクセス権限についてはユーザー ACL の設定が優先され、その次にグループ ACL の設定が有効となります。

例)

グループ設定	
グループ AAA	ユーザ B、ユーザ C、ユーザ D
グループ BBB	ユーザ A、ユーザ B
フォルダー設定	
フォルダー CCC	グループ BBB とユーザ D を許可
フォルダー DDD	グループ BBB とグループ AAA を許可 ユーザ B をアクセス拒否
フォルダー EEE	ユーザ B を許可 グループ AAA、グループ BBB をアクセス拒否
アクセス状態	
フォルダー CCC	ユーザ A、ユーザ B、ユーザ D がアクセス可能
フォルダー DDD	ユーザ A、ユーザ C、ユーザ D がアクセス可能
フォルダー EEE	ユーザ B がアクセス可能

### 注

パーミッションの変更（拒否から許可）を行った場合、変更されたユーザーは変更前のアクセス権限でのアクセスとなり、パーミッションの変更更新がうまく行えない場合があります。この場合、一度 PC のログオフ、ログオン、または再起動をおこなってください。

## フォルダーの変更/削除

既存フォルダーリスト上で、**フォルダー**をクリックします。関連するメニュー項目が表示されます。



### 注

スナップショット項目は、次の場合にのみ表示されます:

1. システム RAID ボリュームが、btrfs ファイルシステムに選択されている場合。
2. ユーザー作成フォルダーおよび NAS\_Public フォルダー。

### 編集:

**編集** ボタンをクリックします。対応するフォルダーが ACL 定義されている場合にサブ項目に関連した 4 つのタブ【一般設定】【ユーザーACL】【グループACL】【サブフォルダーACL】が表示されます。パブリックフォルダーは【一般設定】のみが表示されます。

### 一般設定

変更できない唯一の項目は、対応する RAID ボリュームに属しているフォルダーです。その他については、必要に応じて、変更を行います。



### ユーザー ACL (ユーザーが作成したフォルダーのみ):

関連フォルダーのアクセスユーザーリストを変更することが許可されています。

ユーザー名	ユーザータイプ	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> ...	<input type="checkbox"/> 拒否
a	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
user01	ローカルユーザー	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### グループ ACL (ユーザーが作成したフォルダーのみ):

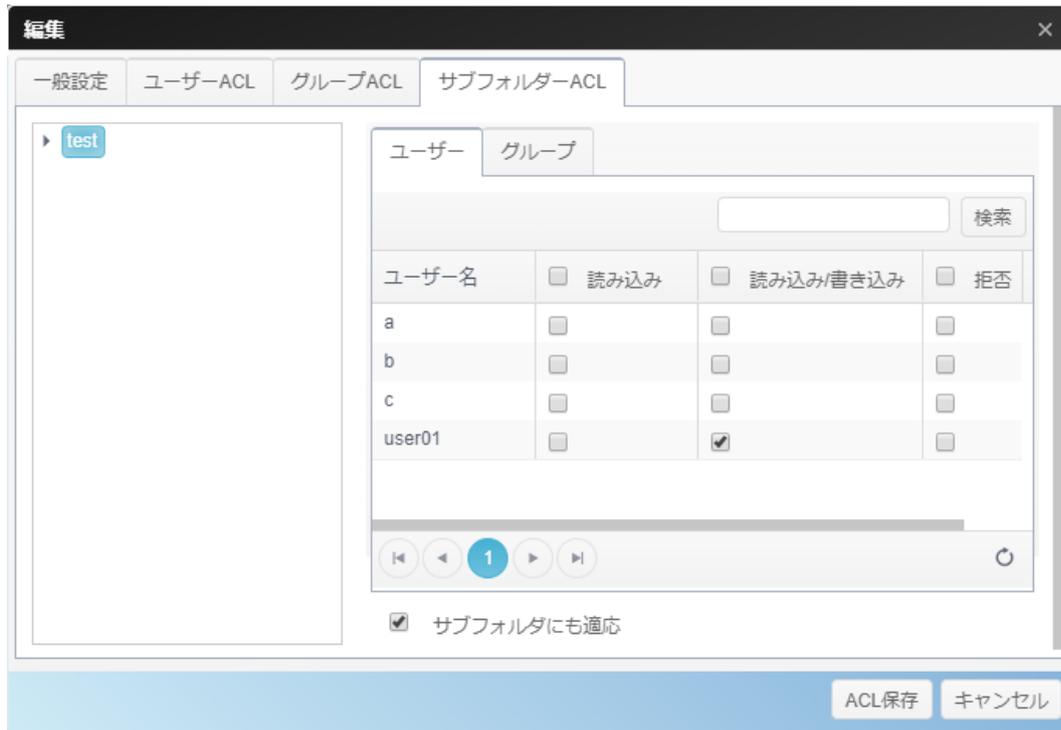
関連フォルダーのアクセスグループリストを変更することが許可されています。

グループ名	グループタイプ	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> 読み込み/書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
users	ローカルグループ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### サブフォルダー ACL:

フォルダーレベルのアクセス制御サポート以外にも、本製品は、サブフォルダー ACL の利用が可能です。サブフォルダー ACL を設定するには、**サブフォルダー ACL** タブをクリックします。下のような画面が表示されます。

左側に、関連付けられている親フォルダーに対するサブフォルダーの一覧が表示されています。サブフォルダーをクリックすると、右側の領域が表示され、システムのユーザーとグループを持つことになります。対応するサブフォルダーのユーザーまたはグループのアクセス権に対して必要な変更を行います。設定完了後は、必ず、[ **ACL 保存** ] を押下してください。



### 注

ACL はファイルに対してではなく、共有およびサブフォルダーレベルに対してのみ設定することができます。

## フォルダー削除:

フォルダー削除ボタンをクリックします。関連するフォルダーがシステムから削除されます。



### 警告

フォルダーが削除されるとフォルダー内のすべてのデータが削除されます。データは回復できません。

### 注

管理画面から削除したフォルダーが、PCのエクスプローラー等から見えたままになることがあります。OSを再起動することで以後表示されなくなります。

## スナップショット

オフィス・ステーション Pro「OS Pro」システムは、ファイルとフォルダーのスナップショットを 15 世代保存が可能です。本製品は出荷時点で BTRFS のファイルシステムにて RAID 構築済みです。

「共有フォルダー」サブメニューでは、スナップショットボタンは、ツールバーで利用可能です。



## スナップショット保存

スナップショットボタンをクリックします。管理画面が、対応フォルダーに対して以下のように表示されます。



手動でスナップショットを保存するには、**スナップショット保存**ボタンを押下します。スナップショット履歴がリスト表示されます。

手動スナップショットのほかに、スケジュール化されたバックアップが可能です。**スケジュール**をクリックします。設定画面が表示されます。「スナップショットスケジュールを有効にする」にチェックを入れ、スナップショット間隔を選択します。毎日、毎週または毎月が選択できます。

「古いスナップショットを自動的に削除」オプションを用いると、スナップショットの 15 世代制限により、自動的に最も古いバージョンが削除されます。容量不足などのシステム要因でスナップショットの取得に失敗した場合はアラートメールにより通知されますので、システム管理画面から不要なスナップショットを削除してください。



スナップショットのスケジュール 設定	
項目	説明
スケジュールを有効にする	スライダーを右にし、緑色：有効 スライダーを左にし、赤色：無効
古いスナップショットを自動的に削除	スナップショットは 15 世代まで保存できます。 しない：15 世代まで保存するとスナップショットが保存できなくなります。その場合手動でスナップショットを削除します。 はい：古いものから自動で削除します。
スケジュール規則	毎月：[1-28]日 時間[0-23]:[0-59] 毎週：[日-土曜日] 時間[0-23]:[0-59] 毎日：時間[0-23]:[0-59] 毎時：[0-59]分

## スナップショットの復元

スナップショットを復元するには、リストからバージョンを選択し、[ スナップショット復元 ] を押下します。復元確認がなされると、選択されたスナップショットが、現在の関連するファイルやフォルダーを上書きします。



## スナップショットの削除

スナップショットを削除するには、リストからバージョンを選択し、[ スナップショット削除 ] を押下します。



## ローカルアカウント

本製品には、異なるグループポリシーを使用して、管理者がユーザーアクセスを管理することを可能にするユーザーデータベースが組み込まれています。**ローカルアカウント**の**アクセス権**メニューから、ユーザーを作成、変更および削除し、それらを指定するグループに割り当てることができます。



## ユーザー

**ローカルアカウント**メニューから、**ユーザー**項目を選択します。**ローカルユーザー設定**画面が表示されます。この画面で、ローカルユーザーを**追加**、**編集**、**削除**および**バッチ処理**することができます。



ローカルユーザー設定	
項目	説明
更新	<b>更新</b> を押して、ユーザーリストを再読み込みします。
作成	<b>作成</b> ボタンを押して、ローカルユーザーのリストにユーザーを追加します。
編集	<b>編集</b> ボタンを押して、ローカルユーザーを変更します。
バッチ処理	<b>バッチ処理</b> ボタンを押します。関連画面が表示され、ローカルユーザーのバッチ入力を行うことができます。

## ユーザーの作成:

ユーザー画面で、**作成**ボタンを押します。ユーザー作成画面が表示されますので、ウィザードに従い、設定を完了します。

1. **ユーザー ID** 番号を入力するか、そのままにして、システムデフォルト値を使用します。
2. **アカウント ID** フィールドに**ユーザー名**を入力します。
3. **パスワード**ボックスに新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。
4. ユーザー説明を入力します
5. ユーザーのメールアドレスを入力します
6. **[ 次 ]** を押下して、次ページに移動します。

※ユーザー名は 1～64 文字(英字および日本語などのマルチバイト文字)、  
使用できない文字は ^/:;<=>?~&@[]\*,\$!()'"|`#%¥^{}、およびスペース。

※パスワードは 4～16 文字の英数字で以下の文字

•0～9

•a-z

•~!@#\$%^&\*()\_+=+{}[]|¥;:'",./<>?

以下は、禁足文字

•`

•- (dash)

•Space

7. ユーザーが所属するグループを選択します。グループメンバーは、このユーザーが所属するグループのリストです。
8. [ 次 ] を押下して、次ページに移動します。

<input type="checkbox"/>	グループID	グループ名
<input checked="" type="checkbox"/>	100	users

戻る      **次**      キャンセル

9. ACL フォルダーに対するアクセス件を設定します。
10. すべてのサブフォルダーに適用する場合は、[ サブフォルダーにも適用 ] にチェックを入れます。
11. [ 次 ] を押下して、次ページに移動します。

フォルダー名	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> 読み込み/書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
営業部	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

サブフォルダにも適用

戻る      **次**      キャンセル

12. ページは、チェック用にユーザー情報をリスト表示します。
13. [ **新規作成** ] を押下すると、ユーザーが作成されます。

### ユーザー設定確認

次の設定を確認してください。少しの間ウィザードで処理をします。

項目	値
アカウントID	user01
説明	
Eメール	
グループリスト	users
読み込み	
読み込み/書き込み	営業部
拒否	
特定なし	

戻る **新規作成** キャンセル

## バッチ処理:

また、本製品は、ユーザーおよびグループをバッチモードで追加することができます。これにより、Microsoft Excel (\*.csv) ファイルをインポートして、多数のユーザーおよびグループを自動的に追加することができます。

ユーザーメニューから、**バッチ処理**をクリックします。**バッチユーザー入力作成**ダイアログが表示されます。ユーザーおよびグループのリストをインポートするには、次の手順に従います:

1. **[ 選択 ]**を押下して、Excel (.csv) ファイルを検索します。
2. **確認**欄にメッセージがある場合、Excel (.csv) ファイルを修正します。
3. **バッチ処理確認**ボタンをクリックして、インポートを確認します。
4. または、左下隅で、操作のためサンプルファイルをダウンロードすることができます。

ユーザ...	パスワ...	説明	Eメール	ユーザ...	確認
--------	--------	----	------	--------	----

### 注 1

すべてのユーザーが、「ユーザー」グループに自動的に割り当てられます。

### 注 2

ユーザー名に日本語を使いたい場合、バッチ処理に使用する csv ファイルの文字コードは UTF-8 (BOM なし)である必要があります。Excel で csv ファイルを作成または編集した後は「名前を付けて保存」メニューからファイルの種類を「CSV UTF-8 (カンマ区切り) (\*.csv)」に設定して保存してください。

### 注 3

バッチ処理で設定できるのは、ユーザー名、パスワード、説明、Eメール、のみです。他の項目はバッチ処理後にユーザー単位で編集してください。

## ユーザーの編集:

1. リストから既存ユーザーを選択します。
2. **編集**ボタンをクリックします。**ユーザー設定**画面が表示されます。
3. 必要に応じて、変更を行います。

編集

情報 グループ ACL

基本情報

ユーザー名

パスワード

パスワード再入力

説明

Eメール

適用 キャンセル

## グループ

### グループの作成:

グループ画面で、**追加**ボタンを押します。**グループ作成**画面が表示されます。ウィザードに従い、設定を完了します。

+ 追加		
グループID	グループ名	グループタイプ
100	users	ローカルグループ

1. **グループ ID** 番号を入力するか、そのままにして、システムデフォルト値を使用します。
2. **グループ名**フィールドに**グループ名**を入力します。
3. **[ 次 ]**を押下して、次ページに移動します。

### グループ情報

グループの基本情報を入力してください。

グループID :

グループ名 :

次      キャンセル

4. ユーザーリストからグループメンバーを選択します。
5. **[ 次 ]** を押下して、次ページに移動します。

The screenshot shows a web interface for selecting group members. At the top, there is a header with the title 'ユーザー' and subtitle 'グループメンバー選択'. Below the header, there is a search bar with a magnifying glass icon and the text '検索'. A table below the search bar has two columns: 'UID' and 'ユーザー名'. The first row of the table has a checked checkbox, the UID '1000', and the user name 'test1'. At the bottom of the interface, there is a pagination control with a '1' in a blue circle, a dropdown menu set to '50', and the text 'ページあたりの項目'. To the right of the pagination control, it says '全1項目' and has a refresh icon. At the very bottom, there are three buttons: '戻る', '次', and 'キャンセル'.

<input type="checkbox"/>	UID	ユーザー名
<input checked="" type="checkbox"/>	1000	test1

6. ACL フォルダーに対するアクセス権を設定します。
7. すべてのサブフォルダーに適用する場合は、「サブフォルダにも適用」にチェックを入れます
8. **次へ** ボタンを押して、次ページに移動します。

## 共有フォルダーのアクセス制限 (ACL)

共有フォルダーにアクセス制限を設定します。

フォルダー名	<input type="checkbox"/> 読み込み	<input type="checkbox"/> 読み込み/書き込み	<input type="checkbox"/> 拒否
NTT	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

サブフォルダにも適用

戻る  キャンセル

9. ページは、チェック用にグループ情報をリスト表示します。
10. [ **新規作成** ] を押下すると、グループが作成されます。

## グループ設定の確認

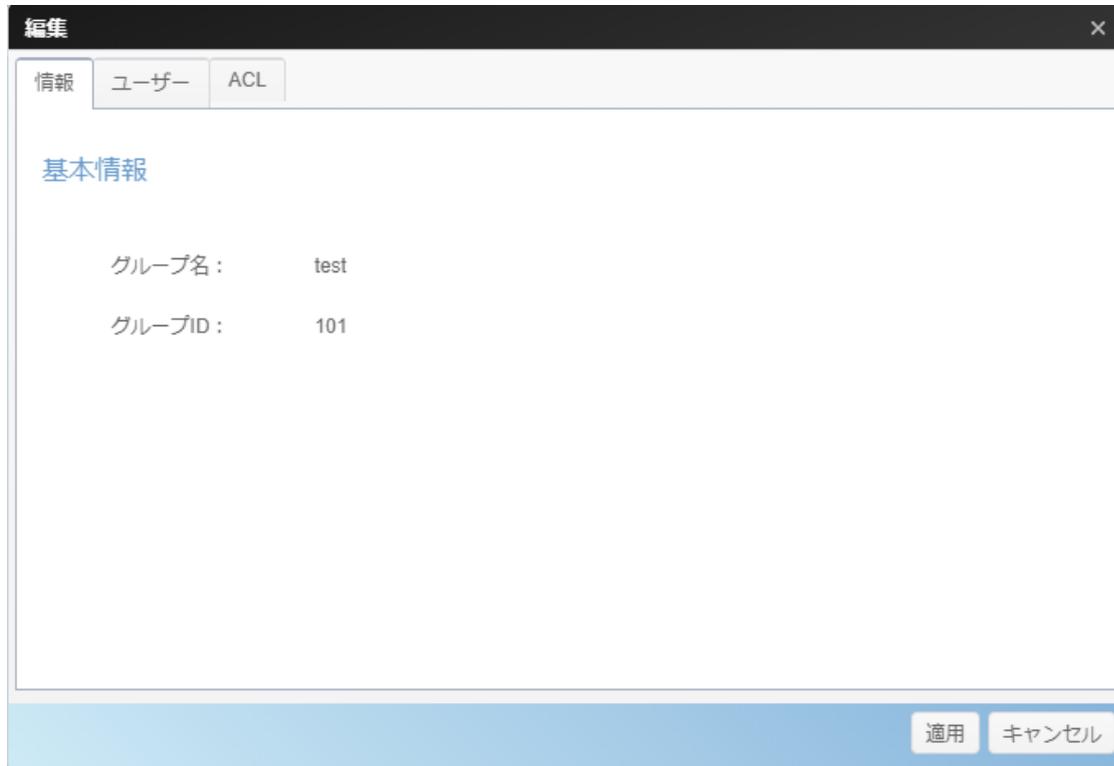
以下の設定を確認してください。ウィザードは数秒間処理します。

項目	値
グループ名	test
グループID	101
読み込み	
読み込み/書き込み	NTT
拒否	
指定なし	

戻る  キャンセル

### グループの編集:

1. リストから既存グループを選択します。
2. **編集**ボタンをクリックします。**グループ設定**画面が表示されます。
3. 必要に応じて、変更を行います。



編集

情報 ユーザー ACL

基本情報

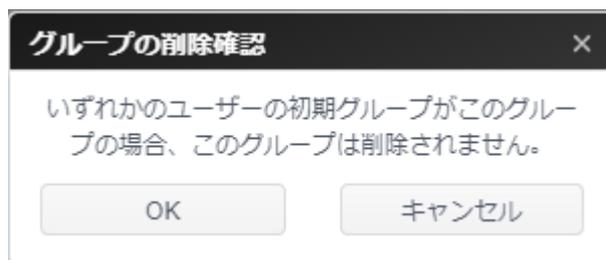
グループ名: test

グループID: 101

適用 キャンセル

### グループの削除:

1. リストから既存ユーザーを選択します。
2. **グループの削除**ボタンを押下します。削除確認が表示され OK を押下すると**ユーザー**がシステムから削除されます。



グループの削除確認

いずれかのユーザーの初期グループがこのグループの場合、このグループは削除されません。

OK キャンセル

## AD

ネットワーク内のドメインセキュリティに対処するために Windows Active Directory (AD) サーバーを設置している場合は、AD サポート機能を有効にすると、が、AD サーバーに接続し、自動的にドメインユーザーおよびグループのすべての情報を取得します。**アクセス権**メニューから、**AD** を選択します。**AD 設定**画面が表示されます。これらの項目を変更し、**適用** を押して、設定を確定することができます。

設定を反映させるために再起動が必要となります。

AD設定

### アクティブディレクトリ (AD)

ワークグループ/ドメイン (NetBios名)

ADサービスを有効にする

サーバー名

ドメイン名

ユーザー名

パスワード

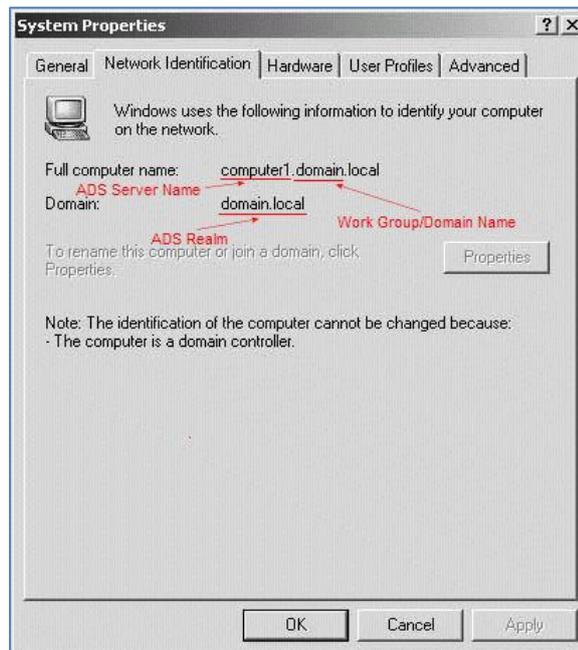
説明

- ADに参加させる前にDNSサーバの名設定値が適切であることを確認して下さい。
- ドメインコントローラとの時刻同期ができていることを確認して下さい。

各項目の説明は、次の通りです：

アクティブディレクトリ (AD)	
項目	説明
ワークグループ/ドメイン (NetBios 名)	SMB/CIFS ワークグループ/ADS ドメイン名 (例えば、MYGROUP) を指定します。通常大文字で入力しますが小文字は大文字に自動変換されます。
AD サービスを有効にする	Active Directory の有効無効を切り替えます。
サーバー名	AD サーバー名 (例えば、adservername) を指定します。
ドメイン名	AD レルム (例えば、example.com) を指定します。
ユーザー名	Windows Active Directory の管理者 ID を入力します。これは、本製品がドメインに参加するために必要です。
パスワード	ADS 管理者のパスワードを入力します。
適用	設定を保存します。

AD ドメインに参加するために、次の図を参照し、以下の例を使って、関連するフィールド入力を設定してください:



AD ドメインの例	
項目	情報
ワークグループ/ドメイン名 (NetBios 名)	domain
AD サービスを有効にする	<input checked="" type="checkbox"/> を入れる
AD サーバー名	Computer1
AD レルム	Domain.local
管理者 ID	Administrator
管理者パスワード	*****

**注**

- WAN/LAN1 設定ページで指定される DNS サーバーは、ADS サーバー名を正しく解決できる必要があります。
- BizBoxServer と ADS の間のタイムゾーン設定が同一である必要があります。
- BizBoxServer と ADS の間のシステム時刻の差が 5 分未満である必要があります。
- 管理者パスワードフィールドは、AD (アクティブディレクトリ) サーバー用のパスワードであり、BizBoxServer 用のパスワードではありません。

AD 設定が成功すると以下のようにローカルアカウントに AD ユーザーが追加されます。

AD サーバーがダウンした場合本製品にもアクセスできなくなりますので運用には注意が必要です。

ユーザーID	ユーザー名	説明	Admin	最後のログイン	ユーザクォ...	ユーザータ...
1000	a		No		--	ローカルユーザー
1001	b		No		--	ローカルユーザー
1002	c		No		--	ローカルユーザー
1003	user01		No	2020-02-14 03:19:43	--	ローカルユーザー
85739	administrator	Administrator	No	2020-02-14 14:07:36	--	ADユーザー
85740	guest	Guest	No		--	ADユーザー
85741	krbtgt	krbtgt	No		--	ADユーザー
86346	cas	AD Test1	No	2020-02-14 13:05:08	--	ADユーザー

表：アクセス権に関する動作環境

項目	OS4	OS8	OS12
ユーザアカウント数	50以下（推奨） 300以下（最大）		
ユーザ名	1～64文字(英字および日本語などのマルチバイト文字)、 使用できない文字は ^/:;<=>?~&@[]*+,\$!()"' `#%¥およびスペース。		
グループ名	1～16文字(英字および日本語などのマルチバイト文字)、 使用できない文字は ^/:;<=>?~&@[]*,\$!()"' `#%¥{ }およびスペース。		
最大保存ファイル数	250万ファイル（推奨） 1000万以下（最大）		
最大フォルダ階層	5階層（推奨）		
一階層の最大フォルダ数	50個（推奨）		
フォルダ名最大文字数	75文字（推奨）（*1）		
ファイル名最大文字数	75文字（推奨）（拡張子含む）(*1)		
フルパスの最大文字数	80文字（推奨）（¥¥ IPアドレス¥を含む）（*1）		
使用禁止文字	以下の文字は、ファイル名、フォルダ名に使用しないでください。 :[ ]! ^ " * < > ?   / # \$ % ^ & ; , ¥ また、フォルダ名の先頭に (.) は使用できません。（必須）		

※環境依存文字は、利用しないでください。

## ストレージ



### ディスクと RAID

**RAID** および関連するストレージ情報が表示されます。また、ここから関連する設定を行うことができます。

### RAID

#### RAID 暗号化が復号化できない場合について

RAID 暗号化キーが存在しない（主要因として暗号化キーを保存した USB が挿入されていない）、破損などの要因で読み取ることができず RAID 暗号化が復号できない場合にアラートメールによる通知と以下の画面が WebUI 上に表示されます。



画面の表示の指示に従います。暗号化キーが保存されている USB メモリが抜かれていないかを確認してください。暗号化キーが保存されている USB メモリが挿入されているにもかかわらず、この画面が出ている場合なんらかの要因で暗号化キーが読み取れなくなっていますので設定の復旧を行います。詳細については第 4 章：システム管理-ファームウェア設定-設定管理の項を確認してください。

## ディスク

ディスクと RAID は、不良ブロックスキャン中にハードディスクの基本情報、使用状況および進捗状況を表示します。

トレイ	モデル	容量	ファームウェア	使用状況	Support	進行
1	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
2	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
3	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
4	TOSHIBA MG04ACA4	3.6 TB	FJ5A	RAID	●ヘルスマネジメント: Green	
NVME1	TS128GMTE550T	122.1 GB	R1109C	未使用	●	

### リフレッシュ

**画面の更新を行います。**

#### **Support : ヘルスマネジメント**

HDD の健康状態を定期的に監視して故障を予知します。

本機能は一般的な故障検知機能の S.M.A.R.T よりも上位の HDD ベンダーから提供されるより詳細な情報に基づいて健康状態を判定しています。

Yellow のステータスが出て居る場合、保証期間内に限り HDD の無償交換を実施します。

サポートセンターにご連絡ください。

### スピンドウン (ディスク電源管理)

システムに取り付けたハードディスクに、しばらく読み書きが行われない場合、スピンドウン (停止) をさせることができます。初期値はオフ (無効) です。スピンドウンさせる時間を変更する場合 ドロップダウンオプションから選択して変更します。

スピンドウン (ディスク電源管理)

スピンドウン時間 :

## ディスクセキュリティ

本製品は、ディスク自体のディスクロック機能を実行することができるディスクセキュリティはサポートしません。

画面は表示されますが、設定等を行うことはできません。

RAID の暗号化とは異なります。

RAID   ディスク   スピンドアウン   **Disk Security**

リフレッシュ

<input type="checkbox"/>	トレイ	モデル	対応	暗号化	フリーズ	ロック
<input type="checkbox"/>	1	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗
<input type="checkbox"/>	2	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗
<input type="checkbox"/>	3	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗
<input type="checkbox"/>	4	TOSHIBA MG04ACA4	✓	✗	✗	✗

**説明**

- 暗号化パスワードは必ず別の場所にバックアップをしてください。パスワードをなくすと、データは読み込めません。
- ディスクがフリーズした場合、ホットプラグを行なってください。
- ディスクを消去すると、Disk Securityは無効になります。
- ディスクが使用中（RAID、ディスククローンなど）の場合、Disk Securityは有効にできません。
- ディスクの消去にはしばらく時間がかかります。お待ちください。

## SSD キャッシュ

※本設定は出荷状態で設定済みです。新規作成、編集は行えません。

状態が「良好」であれば問題ありません。良好でない場合はサポートセンターに連絡してください。

SSD キャッシュは HDD アクセスの間に入り、書き込み速度が SSD と比べると遅い HDD のリード/ライトの応答性改善に役立ちます。

SSDキャッシュ						
キャッシュ名	SSD RAIDディスク	状態	RAID ID	ポリシー	モード	ブロック...
cache_md0_md100	NVME1	良好	FileServer	lru	wb	2048

**説明**

- ひとつ以上の未使用のディスクと対象のRAIDを選択しSSDキャッシュを構築してください。対象RAIDの書き込み、読み込み速度を向上します。
- 選択されたRAIDの容量はこれらの未使用ディスクの総容量より大きくなくてはなりません。
- 交換ポリシー：このポリシーは、SSDキャッシュがいっぱいになると適用されます
  - \* RAND：Random、データはランダムに置き換えられます。
  - \* FIFO：First In First Out、先に保存されたデータから置き換えられます。
  - \* LRU：Least Recently Used、最近使われていないデータから置き換えられます。
- モード：SSD RAIDの書き込みモードです。
  - \* WB：Write Back、先にSSD RAIDにデータを書き、その後RAIDに書き込みます。
  - \* WT：Write Through、SSD RAIDとRAIDに同時に書き込みます。
  - \* RO：Read Only、RAIDにのみデータを書き込みます。

## サービス

サービスメニューを使って、ネットワークサービスサポート設定を行います。



## ファイルサービス

管理者が Samba プロトコルに関連する 本製品の操作を有効/無効にするオプションがあります。



## Samba サービス

UNIX シリーズのオペレーティングシステムおよび Microsoft Windows オペレーティングシステムの SMB (サーバーメッセージブロック/共通インターネットファイルシステム) のために使用されます。インターネットプロトコルにリンクします。

Windows、Apple、Unix ドライブマッピングに対する SMB プロトコルを有効または無効にします。

### 注

- 一部の環境では、セキュリティ上の問題のために、コンピュータウイルスに対する予防策として SMB を無効にすることもできます。ただし SMB を無効にすると本機に接続できなくなる(ファイル共有できなくなる)ため通常は無効にすることはしません。

Samba オプションに関連する更なるオプションの詳細については、**詳細**を押下してください。

## Windowsファイルサービス(Samba)

Sambaサービスを有効にする

詳細 ▶

### 一般設定

ファイルアクセスキャッシュ

匿名ログインの制限

ネイティブモード

信頼できるドメインの許可

SMB Min プロトコル

2 ▼

SMB Max プロトコル

3 ▼

SMB Encryption (SMB3)

自動 ▼

SMB暗号化を指定します

ブロックサイズ

4096 ▼

サーバーサイニング

自動 ▼

LDAPのサポートポリシー

Sign ▼

### ファイルアクセスキャッシュ

ファイルアクセスキャッシュは、デフォルトで**有効**です。このオプションは、SMB プロトコル下の書き込みにおいて、単一クライアントが共有フォルダーにアクセスする際、性能を向上させます。

## 匿名ログインの制限

このオプションを有効にするには、共有フォルダーが公開アクセスに作成されているかどうかに関係はありません。SMB プロトコル下でアクセスするには、システムからのユーザーアカウントとパスワードが必要です。一方、匿名ログインは許可されません。

## ネイティブモード

本製品は、Samba モードオプションをサポートします。「ネイティブ」モードが選択された ADS 環境では、本製品は、ローカルマスターの位置をとることが可能です。

## 信頼できるドメインの許可

これは、Samba サーバーのみが、そのメンバーであるドメイン内のユーザーにリソースを提供するようにする場合に有用です。例えば、2 つのドメイン DOMA と DOMB があると仮定します。DOMB は、Samba サーバーを含む DOMA により信頼されています。通常の状態化で、DOMB 内にアカウントを持つユーザーは、DOMA 内にアカウントを持たない場合でも、Samba サーバー上に同じアカウント名を持つ UNIX アカウントのリソースにアクセスすることができます。これは、セキュリティ境界の実装を困難にする場合があります。

## SMB Min プロトコル/ SMB Max プロトコル

利用する最小および最大のプロトコルレベルを設定します。

## SMB Encryption (SMB3)

SMB3 有効時には暗号化機能を追加できます。

- 自動：クライアントが対応している場合に自動で適用されます
- 必須：常に暗号化が適用されます
- 無効：暗号化は適用されません

## ブロックサイズ

ディスクの空き容量を報告する際のブロックサイズを設定します。1024 と 4096 の 2 段階です。

## サーバーサイニング

SMB パケットのデジタル署名をどう適用するかを設定します。

- 自動：クライアント側の SMB パケット署名が有効の場合に自動的に適用
- 必須：常に SMB パケット署名を適用
- 無効：SMB パケット署名は適用されません

## LDAP のサポートポリシー

LDAP トラフィックを設定します。

- Sign：署名されます
- Seal：署名され暗号化されます
- Plain：署名/暗号化はされません

Mac 関係のオプションの詳細については、「Mac 関係」を押下してください。



### 一時ファイルを隠す

これは表示されませんが、アクセス可能なファイルやディレクトリのリストです  
Samba のゴミ箱に関する設定については、下記を参照してください。

### ゴミ箱

ゴミ箱を有効にする

表示フォルダー

Clean Up Recycle Bin Time

00 : 00

ごみ箱を空にする時刻を設定します

自動削除

0 日

(手動で空にする場合は0を入力してください。)

ごみ箱に入る単一ファイルの最大サイズ

0 GB

(サイズ制限を設けない場合は0を入力してください。)

本製品は、SMB プロトコルを介して、ゴミ箱をサポートします。

「ゴミ箱を有効にする」にチェックをごみ箱機能が有効になります。「表示フォルダ」にチェックを入れると、「\_NAS\_Recycle\_(RAID ボリューム名)」共有フォルダー内の削除されたフォルダー/ファイルを表示します。

削除したフォルダー/ファイルに対してゴミ箱を管理する 2 つの設定があります。

1. ゴみ箱内のフォルダー/ファイルを恒久的に削除するまでの「日数」を設定します。手動でゴミ箱を空にする場合は、値を「0」にします。

削除したフォルダー/ファイルをゴミ箱内に保持する「サイズ」を設定します。値を「0」に設定すると無制限になります。

### ファイルの削除とファイルの復元について

「ゴミ箱」機能が有効であるとき（例）NAS\_Public 中のファイルを削除した場合、\_NAS\_Recycle\_ (RAID ボリューム名) の NAS\_Public にファイルが移動されます。Windows ゴミ箱とは違い「元に戻す」機能を持っていません。

元の場所に戻したい場合は手動でファイルの「切り取り」を行い、元の場所に「貼り付け」を行うことで元に戻ります。元のファイルのファイル属性は維持されます。属性の維持については、以下の表、注のようにファイルフォーマットにより状態が異なります。

「切り取り」ではなく「コピー」を行った場合は、ゴミ箱にファイルが残ります。（上記設定で自動削除無効の時）この状態で再度同じファイルの削除を行うとゴミ箱に既に存在するファイル名と同じファイル名のファイルがゴミ箱に移動されることとなり、ファイル名の重複が起きるため、コピーによりファイルを取り出し再度ゴミ箱に廃棄した場合、ファイル名の重複を回避するために Copy # 1 of （ファイル名）というリネームが行われます。Copy # (数字) of （ファイル名）の（数字）は 1 から始まり、重複が増える度に数字は増えていきます。

<各ファイルシステムにおけるファイルの削除、ゴミ箱内、取り出した後の属性の変化>

	PC から本機へ	本機 フォルダー で 削除してゴミ箱へ	ゴミ箱 から取り出し 本機フォルダーへ
Btrfs + Samba	R/S/A 属性維持	R/S/A > S に変化	S > SA に変化

（属性の意味）

R：読み出しのみ属性。書き込みが禁止されています。

S：システム属性。システムを構成する重要なファイル。

※Btrfs ファイルシステム使用時はゴミ箱から削除/取り出したファイルを削除しようとするファイルにシステム属性が付与されているため、Windows からシステムファイルの削除に対しての警告が出ます。通常元々ファイルがシステムファイルでない限り、この警告が出てても削除しても問題はありません。

A：アーカイブ属性。ファイルが更新されると付与され、バックアップソフトがバックアップする必要があるファイルにつけられる目印となっている。

**注**

- BTRFS ではゴミ箱に入るとシステム属性、取り出したファイルはシステム・アーカイブ属性と変化します。
- ファイルセンターと FTP でファイルを消去した場合はファイルシステムに関わらずゴミ箱には入らずに完全に削除されます。

**注**

- パブリックフォルダーのファイル/フォルダーは誰でも、削除/ゴミ箱から取り出しができますが、アクセス制限がされたフォルダーにおいては、管理者および所有者のみが、これらのファイル/フォルダー表示/読み書き/取り出しをすることができます。
- 削除された単一ファイルサイズがゴミ箱に入る単一ファイルの最大サイズで設定したサイズよりも大きい場合はゴミ箱には入らず、即座に恒久的に消去されます。

## FTP

BizBoxSever「OS Pro」は、FTP サーバとして機能し、お気に入りの FTP プログラムを使って、ユーザーにファイルをダウンロードおよびアップロードさせることができます。**ファイルサービスメニュー**から、**FTP** 項目を選択します。**FTP** 画面が表示されます。これらの項目を変更し、**適用**を押して、設定を確定することができます。

設定パネル

コントロール ▼ Samba FTP

アクセス権 ▼

ストレージ ▼

サービス ▲

ファイルサービス

VPNサービス

バックアップ ▼

FTPサービス

FTPサービスを有効にする

ポート: 21

詳細 ▶

適用

詳細設定を表示するには、「詳細」ボタンをクリックします。

パッシブIP

パッシブポート範囲  ~

アップロードのバンド幅  KB/s

ダウンロードのバンド幅  KB/s

FTPのエンコード

匿名FTPアクセスを許可する

Explicit TLS

オートリネーム

全ファイル保持

名前の変更禁止

各項目の説明は、次の通りです:

FTP	
項目	説明
FTP	オフィス・ステーション Pro「OS Pro」上の FTP サービスを有効にします。ビジネスホンの音声メールデータを FTP で保存する場合には、本設定の「FTP サービスを有効にする」をチェックしてください。
ポート	非標準ポートでの着信接続用ポート番号を指定します。
パッシブ IP	ExpLicit TLS を有効にして利用する場合、別途ルーターの設定とあわせて IP アドレスの入力が必要になります。
パッシブポート範囲	パッシブモードで利用する範囲を指定します。 30000~32000 です。
FTP のエンコード	FTP クライアントが Unicode をサポートしていない場合、ファイルおよびディレクトリを正しく表示するために FTP クライアントと同じエンコードを選択します。以下のエンコードをサポートします。 BIG5、HZ、GB2312、GB18030、ISO、EUC-JP、SHIFT-JIS、UTF-8
匿名 FTP アクセスを許可する	<b>アップロード/ダウンロード:</b> 匿名 FTP ユーザーがパブリックフォルダーへ/からファイルをアップロードまたはダウンロードできるようにします。 <b>ダウンロード:</b> 匿名 FTP ユーザーがパブリックフォルダーからファイルをダウンロードできるようにします。 <b>アクセスなし:</b> 匿名 FTP ユーザーのアクセスをブロックします。
アップロードのバンド幅	ファイルのアップロードのための最大帯域を設定できます。 <b>無制限の 0 または 1~524288KB/秒</b> の値が設定可能です。
ダウンロードのバンド幅	ファイルのダウンロードのための最大帯域を設定できます。 <b>無制限の 0 または 1~524288KB/秒</b> の値が設定可能です。
ExplicitTLS	セキュリティ TLS を有効または無効にします。クライアント FTP ソフトウェアが、セキュリティ TLS を有効に設定していることを確認してください。
オートリネーム	チェックを入れた場合、重複したファイル名でアップロードされたファイルの名前をシステムが自動的に変更します。名前変更方式は、[ファイル名].# です。ここで、# は整数を表します。
全ファイル保持	チェックを入れた場合、ユーザーはファイルをアップロードすることが出来ますがアップロードされたファイルを削除することは出来ません。
名前の変更禁止	チェックを入れた場合、ユーザーはファイルをアップロードすることが出来ますがアップロードされたファイルの名前を変更することは出来ません。

## VPN サービス

### OpenVPN クライアント

出荷時設定済みです。

リモートサポートの際に必要です。

接続成功と表示されていれば問題ありません。

権限がないアカウントでは閲覧のみで接続/切断の切り替え、設定はできません。

OpenVPNクライアント

#### OpenVPNクライアント

VPNクライアントを有効にする

接続状態 接続成功

証明書用ZIPファイル BS390009

リトライ回数 0

IP アドレス 172.19.5.234

最終接続日時 2020-09-07 01:27:03

i

ここにファイルをドロップ

```
tun0 Link encap:UNSPEC HWaddr 00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
inet addr:172.19.5.234 P-t-P:172.19.5.233 Mask:255.255.255.255
inet6 addr: fe80::a658:55:5505:1cf6/64 Scope:Link
UP POINTOPOINT RUNNING NOARP MULTICAST MTU:1500 Metric:1
RX packets:3866 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
TX packets:3883 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 txqueuelen:100
RX bytes:324744 (317.1 KiB) TX bytes:325560 (317.9 KiB)
```

OpenVPN クライアント	
項目	説明
VPN クライアント	接続/切断の切り替えを行います。
接続状態	接続状態を表示します。
証明書用 ZIP ファイル	ホスト名が表示されます。
リトライ回数	接続試行した回数を表示します。接続がうまくいっていない場合試行回数が増えていきます。
IP アドレス	VPN クライアントの IP アドレスを表示します。
最終接続日時	最後に接続した時間を表示します。

ここにファイルをドロップ	Certificate ZIP File をドロップして読み込ませます。切断されている状態の時のみドロップできるようになります。
--------------	--

## バックアップ



### ローカルバックアップ

### 外付け HDD バックアップ<sup>o</sup>

外付けの HDD/USB メモリを追加し、RAID ボリュームのデータのバックアップを行います。

ローカル							
+ 追加							
状態	タスク名	バックアップ元	バックアップ先	タスク	同期タ...	前回実行	現在の動作

バックアップ先を☑をつけて選択します。

⚠ 以下バックアップ先についての注意事項です。

※**暗号化キーを保存している USB メモリを選択してはいけません。**外付けデバイスでファイル名と表示されている項目で確認できます。通常 sdx が暗号化キーを保存している USB メモリですが挿抜することで変わる場合もあります。

※sd\*は本製品におけるデバイス名であり、この場所を☑すると右上に警告が出て選択することができません。

外付け HDD ではないため、チェックを行わないでください。

\*には a-z のアルファベットを本機が自動で割り振ります。接続する台数によっては sdaa など\*のアルファベットが 2 文字になる場合もあります。

※1 はパーティション番号であり、フォルダー階層としては一番上の場所（ルート、C:¥に相当する場所）となります。保存先はこのパーティション番号（数字）か、事前にフォルダーを作成してより下位の場所を選択してください。フォルダーなどがある場合、表示されます。

※System Volume Infomation というフォルダーを保存先に選択してはいけません。

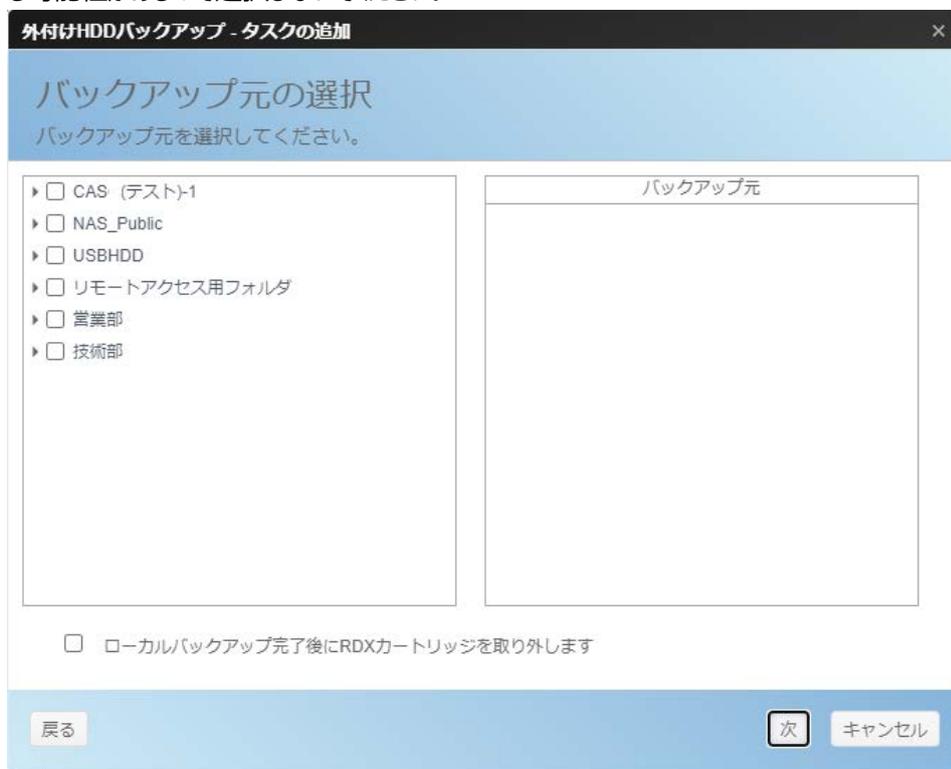
※保存先はチェックボックスに☑をつけることで選択できます。☑の横はクリックが可能ですが選択する必要はありません。



バックアップ元を☑をつけて選択します。(複数選択可能)

以下バックアップ元についての注意事項です。

※バックアップ元にバックアップ先である外付け HDD を選ぶことができますが、データが重複して HDD が容量超過になる可能性があるので選択しないでください。



詳細設定：

タスクの状態を有効にして設定を行います。



外付け HDD バックアップタスクの追加	
項目	説明
状態	スライダー右（緑色）：タスク有効 スライダー左（赤色）：タスク無効
タスク名	バックアップタスク名です。半角英数字および「-」「_」のみ使用できます。最大 30 文字までです。
同期タイプ	同期モード： バックアップ元とバックアップ先を完全に一致させます。バックアップ元で削除または追加されている通りにバックアップ先にファイルを削除および追加します。  増分モード： バックアップ元をバックアップ先に一致させ、すべての古いファイルを保持します、バックアップ元に追加されている通りにバックアップ先にファイルを追加します。しかし、バックアップ元ファイルで削除されている通りにバックアップ先でファイルを削除しません。
スケジュールタイプ	リアルタイム： 直ちにバックアップ元からバックアップ先にフォルダー/ファイルをバックアップします。一方、バックアップ元の変更は、直ちにバックアップ先にバックアップされます。  スケジュール： タスクはスケジュールに従ってのみ開始されます。
ログの場所	タスクが実行されている間、ログ詳細を保存するフォルダーを選択します。
スケジュールを有効にする	バックアップが「スケジュール」に設定されている場合、関連する頻度と時間を入力します。

## 詳細設定：

詳細設定を行い次へ進みます。

外付けHDDバックアップ - タスクの追加
×

### 詳細設定

ローカルバックアップの詳細設定です。

シンボリックリンクのバックアップ

圧縮を有効にする

直接データをアップデート

部分ファイルの再開

まばらなファイルの処理

速度制限  
 ▲▼  
 KB/秒（0にすると無制限となります。）

タイムアウト制限  
 ▲▼ 秒

フィルターを有効にする

ファイルサイズ  
 ▲▼ GB ▼ ~  ▲▼ GB ▼

includeを有効にする

ドキュメント    写真

ビデオ    音楽

その他

excludeを有効にする

戻る
次
キャンセル

外付け HDD バックアップタスクの追加	
項目	説明
シンボリックリンクのバックアップ	シンボリックリンクのバックアップを行います。
ACL 設定の維持	データおよび関連するフォルダー/ファイルの ACL 設定をバックアップします。
圧縮を有効にする	このオプションを使って、バックアップ先機器に送信する際、ファイルデータを圧縮します。これは、転送されるデータ量を削減し、低速接続において有用です。
直接データをアップデート	ファイルをコピー元からコピー先にコピーする際、一時ファイルの作成をバイパスします。これは効率的ですが、操作中に中断が発生した場合、リスクを負うことになります。
部分ファイルの再開	これを有効にし、部分ファイルを維持し、ファイルの残りの後続の転送をより高速にします。
まばらなファイルの処理	バックアップ先のスペースを削減できるように、まばらなファイルを処理します。
速度制限	データアップ操作に対する帯域幅制限を入力します。
タイムアウト制限	バックアップ元とバックアップ先システムの間接続の構築を試みる際のタイムアウトを設定します。
フィルタを有効にする	フィルタは、特定の状況においてのみ実行されるように設定することができます。それらのどれもが選択されていない場合、バックアップ元からバックアップ

	<p>先へのバックアップを行います。</p> <p>ファイルサイズ: xx ~ xxx です  xx= 1 数字 1 で、xxx がブランクの場合、ファイルサイズ &gt; 数字 1 のみが、リアルタイムバックアップされます。  xx=数字 1 および xxx=数字 2 の場合、数字 1 と 数字 2 の間のサイズのみが、リアルタイムバックアップされます。  xx がブランクで、xxx=数字 2 の場合、ファイルサイズ &lt; 数字 2 のみが、リアルタイムバックアップされます。</p> <p>※下記 include/exclude を有効にするの設定はどちらか一方のみ有効にすることができます。  include を有効にする: 関連するファイル形式のみをリアルタイムバックアップします。</p> <p>exclude を有効にする: 除外するファイル形式は、リアルタイムバックアップに含まれません。</p> <p><b>文書ファイル形式:</b> doc、xls、pdf、docx、xlsx、txt、ppt、pptx、html、htm</p> <p><b>写真ファイル形式:</b>jpg、bmp、tif、png、pbm、tga、xar、xbm</p> <p><b>ビデオファイル形式:</b> avi、mpg、mp4、mkv、fli、flv、rm、ram</p> <p><b>音楽ファイル形式:</b> mp3、wav、wma、acc、dss、msv、dvf、m4p、3gp、amr、awb</p> <p>ユーザー定義をその他ボックスに入力することができます。</p>
--	---

**設定確認 :**

行った設定 (バックアップ元、バックアップ先) を表示します。

バックアップ詳細でバックアップするファイルやファイルの数、容量などが表示されます。



### タスクの編集:

作成したタスクを編集するには、項目を選択し、**編集**を押下します。



タスク作成ウィザードに従い、必要な変更を行います。

### タスクの開始:

タスクのステータスが有効である場合、選択し、開始ボタンを押下して、直ちに実行することができます。



外付けHDDバックアップ							
<span>+ 追加</span> <span>✎ 編集</span> <span>🗑 削除</span> <span>▶ 開始</span> <span>🔄 復元</span>							
状態	タス...	バックアップ元	バックアップ先	タスク	同期...	前回実行	ステー...
	Nas_...	NAS_Public	USBHDD/sdaa/1	スケジュール	同期	-	終了

### タスクの復元:

バックアップタスクからバックアップを復元するには、タスクリストからタスクを選択し、次に、機能バーから「復元」を押下します。復元タスクは、バックアップ元に対して、復元対象フォルダーから関連するファイル/フォルダーを復元します。

### 注

- 「リアルタイム」として設定されたバックアップタイプでタスクを復元するには、最初に復元操作停止し、その後、復元操作を続行する必要があります。

## クラウドバックアップ

### ～注意事項～

クラウドバックアップサービスは、有料のサービスになります。ご利用になる場合には、販売店様へ申し込みの上設定をお願いします。

クラウドバックアップは、登録した全タスクのバックアップ元フォルダのトータル容量が契約容量の80%を超えた場合、アラートメールを送信します。バックアップは停止しません。

80%アラートメールを受信した場合には、契約容量をアップするか、バックアップ指定しているフォルダの容量を整理して100%を超えないように調整をお願いします。

バックアップ元の容量が100%を超えた場合には、バックアップを行わず100%を超えたアラートメールを送信します。アラートメールを受信した場合には、契約容量をアップするか、バックアップ元のフォルダの容量を契約容量内になるように削減をお願いします。※削減が不可の場合で上限容量を変更するには、工事依頼が必要となります。工事の依頼はサポートセンタへお問い合わせ下さい。

アラートは、タスクごとに通知しております。この通知により複数タスクを登録していて1つのタスクに容量が集中している場合にどのタスク設定したフォルダの容量が多いかがわかりやすくなっております。

**あずけ～る(Server バックアップ)にてタスク登録を削除した場合には、クラウド上のデータも削除します。**

**タスクに登録したフォルダの内容は変更・削除はできません。フォルダ削除する必要がある場合は、先にタスクを削除して下さい。**

クラウドへバックアップが可能な1ファイルあたりの最大容量は8GBまでとなっています。この制限を超えるファイルをクラウドへバックアップすることは出来ません。

追加ボタンからクラウドバックアップタスクを追加することができます。1 タスクにつき 1 フォルダの指定が可能です。ただしクラウドサービス ID は 1ID のみ登録可能としております。

クラウドバックアップ

サービス設定
リフレッシュ容量
+ タスク追加

サーバタイプ: Serverバックアップ      アカウントID: BD-app14

タスク名	RAID上に...	共有フォルダー	前回のバックアップ完了...	使用容量 (GB)	ステータス
sales	FileServer	営業	2020/09/25 10:14:39 ⓘ	<div style="width: 100%; height: 15px; background-color: #92d050;"></div> 2.17GB	完了 ⓘ

タスク合計容量 (GB): 2.17 GB  
 契約容量 (GB)  

1.40% 0.07GB / 5.00GB

クラウドバックアップ設定	
項目	説明
サービス設定	契約内容に基づき設置業者、オンサイトサポートスタッフが設定いたします。特別な場合を除き、お客様が設定をすることはありません。
リフレッシュ容量	最新のサーバデータ使用容量を確認します。サービス設定が済んでいない場合は表示されません
タスク追加	クラウドバックアップのタスクを追加します。サービス設定が済んでいない場合は表示されません。

### サービス設定:

サービス設定を押下し、クラウドバックアップのアカウントの設定を行います。

設定したいサービスのチェックボックスにチェックを入れ、設定を始めます。

クラウドバックアップ - サービス設定

### Serverバックアップ 選択メニュー

利用するサービスのラジオボタンを押下し、必要情報を入力してください

Serverバックアップ

NSSバックアップ

保存 キャンセル

クラウドバックアップ・サービス設定	
項目	説明
Server バックアップ	NTT 西日本のクラウドバックアップサービス「フレッツ・あずけ〜る」のアカウントの設定を行います。
NSS バックアップ	SecurityBoss ネットワークストレージサービス(NSS)のアカウントの設定を行います。

## Server バックアップ

契約時に発行されたアカウントのログイン ID、パスワードを入力し「テスト」ボタンを押下します。  
テストが完了すると「保存」ボタンが押下できるようになるので押下し、保存します。

設定を削除したいときは、先にログイン ID、パスワードを削除して空欄状態にしてからチェックボックスのチェックを外します。

クラウドバックアップ - サービス設定

### Serverバックアップ 選択メニュー

利用するサービスのラジオボタンを押下し、必要情報を入力してください

Serverバックアップ

ログインID

パスワード

NSSバックアップ

## NSS バックアップ

契約時に発行された NSS ID と NSS Password を入力して「バケットを取得」ボタンを押下します。バケットの取得が完了すると Bucket の下に取得したバケットが表示されるので、そのバケット（画像では securitybossnss-01）を選択して「保存」ボタンを押下し、保存します。

クラウドバックアップ - サービス設定

### Serverバックアップ 選択メニュー

利用するサービスのラジオボタンを押下し、必要情報を入力してください

Server/バックアップ

NSS/バックアップ

クラウドバックアップサービスは、有料サービスです。ご利用になる場合にはお申込みが必要です。お申込みは販売店様へ確認をお願い致します。

NSS ID

NSS Password

Bucket

**securitybossnss-01**

### タスク追加:

タスク追加を押下し、クラウドバックアップを行いたい共有フォルダを選択します。1つのタスクでバックアップが可能な共有フォルダは1つだけとなります。全ての共有フォルダをクラウドバックアップしたい場合はその共有フォルダの数だけタスクを作成する必要があります。

下画像では NAS\_Public を選択している状態です。バックアップを行いたい共有フォルダを選択し「次」を押下します。



タスクを追加するには必ずタスク名をつけなくてはなりません。任意のタスク名をつけてください。

クラウドバックアップ - タスク追加
×

## タスク設定

同期タイプとスケジュールの設定です。

タスク名:

ログファイルの場所:

Backup Mode:  Quick Backup ⓘ  Always Backup All

スケジュールを有効にする

頻度:

時間:  :

戻る
終了
キャンセル

クラウドバックアップ設定	
項目	説明
タスク名	任意のタスク名をつけてください。タスク名をつけなければ設定を完了することが出来ません。
ログファイルの場所	ログを保存する場所をプルダウンメニューから選択します。
Backup Mode	Quick Backup: 最後にバックアップを行ったときから更新のあったファイルだけをバックアップします。いわゆる差分バックアップです。  Always Backup All: 常に全てをバックアップします。
スケジュールを有効にする	スケジュールを有効にするにはチェックをいれ設定します。
頻度	[毎日]: [every 06 hours][every 12 hours][every 24 hours] 6 時間おき、12 時間おき、24 時間おきから選択。 [毎週]: [月曜日]-[日曜日] 曜日を選択。 [毎月]: [1]-[28] 日にちを選択。
時間	[00]-[23]:[00][59]から時間を選択
終了	設定が完了したら終了を押下して保存します。

タスクを選択して[編集]、[削除]、[開始]、[復元]が行えます。

クラウドバックアップ

サービス設定
リフレッシュ容量
+ タスク追加
✎ 編集
🗑️ 削除
🔄 開始
🏠 復元

サーバータイプ: Serverバックアップ
アカウントID: BD-app16

タスク名	RAID上に...	共有フォルダー	前回のバックアップ完了...	使用容量 (GB)	ステータス
Nas_Publ...	FileServer	NAS_Public	--	5.15GB	バックアップ中 ①

タスク合計容量 (GB): 5.15 GB

契約容量 (GB)

0.00% 0.00GB / 100.00GB

クラウドバックアップ	
項目	説明
編集	タスクを編集し設定を変更します。 スケジュール設定、ログファイルの場所、BackupMode の選択の編集が可能です。
削除	タスクの削除を行います。タスクの削除とともに当該タスクのクラウドのデータも削除されます。
開始	クラウドバックアップを開始します。
復元	クラウドにバックアップした内容をオフィス・ステーション Pro に書き戻します。
サーバータイプ	Server バックアップまたは NSS バックアップとなります。
アカウントID	設定済みのお客様のアカウントIDです。
タスク名	お客様が設定したタスク名です。
RAID 上に作成	FileServer となります。
共有フォルダー	タスク作成で選んだバックアップする共有フォルダーです。
前回のバックアップ完了日時	前回のバックアップ完了日時を表示します。
使用容量	このタスクで使用しているクラウド上の使用容量を表示します。
ステータス	[バックアップ中][復元中][完了][停止][失敗][削除しています][共有フォルダーが失われました]など現在のステータスが表示されます。 Iマークにマウスオーバーすると成功ファイル数、スキップファイル数、失敗ファイル数、残ファイル数、合計ファイル数の進捗状況が分かります。
契約容量	契約しているクラウドの容量と使用率を表示します。

## 注

- ・クラウドバックアップサービスは、有料サービスです。ご利用になる場合はお申込が必要です。お申込みは販売店舗への確認をお願い致します。
- ・サービス設定を変更する場合には、全てのタスク設定を削除する必要があります。

## システムフェイルオーバー

2機のオフィス・ステーション Pro「OS Pro」を運用系（以下アクティブ機）と待機系（以下スタンバイ機）に分けることで万が一アクティブ機に障害が起きた場合でもスタンバイ機への切り替えを行うことで障害に備えることができます。**同一モデル(同容量)間かつファームウェアの Ver.が一致している場合のみ**、システムフェイルオーバーが可能です。

ここでは説明の一例としてアクティブ機の IP を 192.168.168.119、スタンバイ機の IP を 192.168.168.121 として設定をおこなっています。お使いの環境に合わせて設定してください。

システムフェイルオーバーの設定を行う前に以下の設定を行います。

①アクティブ機、スタンバイ機の WAN/LAN1 もしくは LAN2（バーチャル IP を設定するインターフェイス）の IP を固定 IP で設定してください。DHCP で設定していると IP が変化したときに正常に動作しなくなります。（この説明ではアクティブ機の IP を 192.168.168.119、スタンバイ機の IP を 192.168.168.121 として固定 IP で設定します。お使いの環境に合わせて自由に設定してください。）

②アクティブ機とスタンバイ機の LAN3 同士を LAN ケーブルで直結します。

③スタンバイ機のネットワーク設定の WAN/LAN 設定で LAN 3 の IP アドレスを 10.254.253.3 に変更します。

### スタンバイ機

以下のように IP アドレスを 10.254.253.3、ゲートウェイを 10.254.253.2 と設定します。この IP アドレスで設定してください。

LAN設定の編集

設定

MAC アドレス 08:35:71:12:15:7a 現在のIP: 10.254.253.2

速度設定 ① 自動的に設定 リンクステータス 接続済み

備考: 説明等を入力してください

IPv4

モード  手動設定  DHCP

IP アドレス 10.254.253.3

ネットマスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 10.254.253.2

適用 キャンセル

上記設定が完了した後、システムフェイルオーバーの設定を行います。

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバーを有効にする ⓘ

役割  スタンバイ機  アクティブ機

相手側のIP ⓘ

ペアリングコード ⓘ

システムフェイルオーバー	
項目	説明
システムフェイルオーバーを有効にする	チェックすることでシステムフェイルオーバーを有効にします。アクティブ機が大容量である場合、最初のバックアップには時間がかかります。
役割	現在ログインしている オフィス・ステーション Pro「OS Pro」をスタンバイ機にするかアクティブ機にするかを選択します。

まずスタンバイ機側の設定を行います。

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバーを有効にする ⓘ

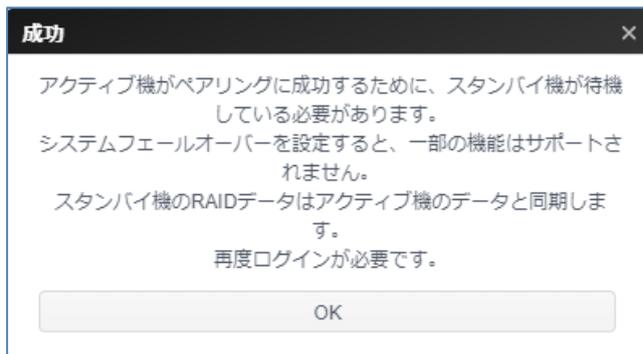
役割  スタンバイ機  アクティブ機

相手側のIP ⓘ

ペアリングコード ⓘ

スタンバイ機	
項目	説明
相手側の IP	アクティブ機の IP アドレスを設定します。
ペアリングコード	アクティブ機と共通のペアリングコードを設定します。使用可能文字は英数字で 30 文字までです。
適用	設定をシステムに反映します。

適用を押下すると以下の画面が表示され、OK を押下すると一度ログアウトします。



スタンバイ機でログインすると以下のように表示されます。

The "システムフェイルオーバー" (System Failover) configuration screen. At the top, a green message states: "スタンバイ機はアクティブ機からのペアリング要求を待っています。" (The standby machine is waiting for a pairing request from the active machine). Below this, there is a checked checkbox labeled "システムフェイルオーバーを有効にする" (Enable system failover) with an information icon. Underneath, there are two radio buttons for "役割" (Role): "スタンバイ機" (Standby machine) is selected, and "アクティブ機" (Active machine) is unselected. At the bottom, there are two input fields: "相手側のIP" (Peer IP) with the value "192.168.168.119" and "ペアリングコード" (Pairing code) with the value "test1234".

引き続きアクティブ機の設定を行います。

## システムフェイルオーバー

 システムフェイルオーバーを有効にする (i)

 役割  スタンバイ機  アクティブ機

 相手側のIP (i) 

 ペアリングコード (i) 
バーチャルIP設定 (i)
 インターフェイス (i) 

 IP アドレス 
Heartbeat設定 (i)
 インターフェイス (i) 

 アクティブIP 

 スタンバイIP 

## 正常動作確認設定

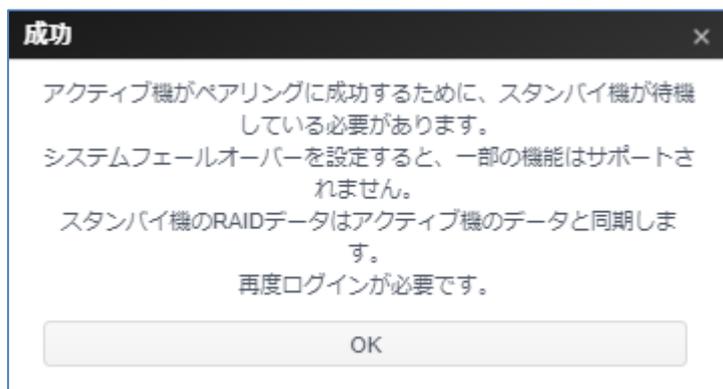
 正常動作確認の間隔 (i) 

 正常動作確認の回数 
同期スケジュール設定 (i)
 スケジュール 
 External USB Backup (i)


アクティブ機	
項目	説明
相手側の IP	スタンバイ機の IP アドレスを設定します。
ペアリングコード	スタンバイ機に設定したペアリングコードを設定します。
バーチャル IP 設定	
項目	説明
インターフェイス	バーチャル IP を割り当てるインターフェイスを設定します。
IP アドレス	バーチャル IP を設定します。この IP アドレスに対してアクセスすることで普段はアクティブ機に、アクティブ機に障害が発生した場合は自動的にスタンバイ機に接続できます。
Heartbeat 設定	
項目	説明
インターフェイス	アクティブ機とスタンバイ機がお互いの生存確認のために使用するイン

	ターフェースを設定します。バーチャル IP と同じインターフェースを設定することもできますが、その場合はデータ同期とネットワークサービスの速度が低下します。
アクティブ IP	上記インターフェースに割り当てられた IP アドレスが表示されています。ここでは変更できませんので必要であれば別途ネットワーク設定から変更してください。 ネットワーク設定の LAN3 ポートの IP アドレス設定を変更しないでください。(初期値：10.254.253.2 を使用)
スタンバイ IP	スタンバイ機の Heartbeat に使用する IP アドレスを設定します。インターフェースはアクティブ機と同じものを使用しなければなりません。 ネットワーク設定の LAN3 ポートの IP アドレス設定を変更してください。(10.254.253.3 へ変更してください)
正常動作確認設定	
項目	説明
正常動作確認の間隔	アクティブ機とスタンバイ機が正常に動作しているかを確認する間隔を 30 秒、60 秒、120 秒の 3 段階で設定できます。
正常動作確認の回数	上記で設定した時間が来た際に正常動作確認の回数を 1 回、3 回、5 回の 3 段階で設定できます。5 回変更して下さい。
同期スケジュール設定	
項目	説明
スケジュール	アクティブ機とスタンバイ機の同期を行う間隔を 5min、10min、30min、毎時、毎日、毎週の 6 段階で設定できます。 同期スケジュールは頻繁過ぎずかつ長い間隔にならない適度なものを設定することをお薦めします。(毎時～毎日 1 回程度)
外部 USB 同期設定	
項目	説明
External USB Backup	アクティブ機からバックアップ機へ外付け HDD の同期を行います。本機によってフォーマットされた外付け HDD 一台が対象でアクティブ、スタンバイ機双方に接続されていることが必要です。
適用	設定をシステムに反映します。

設定後適用を押下すると以下の画面が表示されます。OK を押下するとログアウトされるので再度ログインします。



アクティブ機で再度ログインすると以下の表示になり、システムフェイルオーバーの設定が動作中の表示がされます。

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバー

システムフェイルオーバーは正常です。アクティブ機にはバーチャルIPでアクセス出来ます。 192.168.168.100

システムフェイルオーバーを有効にする ⓘ

役割  スタンバイ機  アクティブ機

相手側のIP ⓘ

ペアリングコード ⓘ

システムフェイルオーバー中は、設定したバーチャル IP でアクセスするようにします。

これによりアクティブ機が動作している時はアクティブ機に、アクティブ機にトラブルが発生してスタンバイ機がアクティブ機に昇格した際は旧スタンバイ機に自動でアクセスできるようになります。

ストレージ

## 注

- システムフェイルオーバーを実施している際は上記画像の様にコントロールパネルのストレージ関連の設定にアクセスすることができなくなります。
- フェイルオーバーのデータ同期は、ご利用データの容量及び利用のネットワークの速度により時間を要する場合があります。
- アクティブ機故障時の切り替わりは合計約 3 分かかります。  
バーチャル IP でのアクセスの切り替えは約 1 分、スタンバイがアクティブになり、WebUI 解除後に通常の画面に戻るのに約 2 分要します。



## 第 5 章: 一般ユーザーログイン

### 概要

本製品は、**一般ユーザー**向けに Web インターフェース接続機能を提供しています。これを用いて、ネットワーク上の任意の場所にて本製品にアクセスしファイルを管理することができます。

\* ここでいう一般ユーザーとは、WebAdmin（管理者）によって作成された個人アカウントユーザーを指します。

### ログインインターフェース

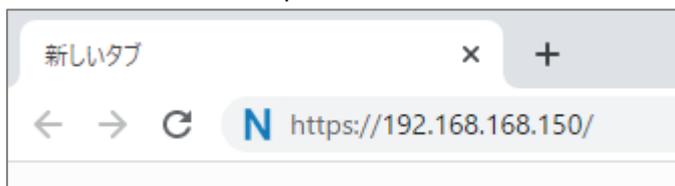
最初に、ネットワークがインターネットに接続されており、システム管理者がローカルユーザーアカウントを作成していることを確認してください。**一般ユーザー**として、本製品にログインするには次の手順をお試しください。

\* ここでいう一般ユーザーとは、WebAdmin（管理者）によって作成された個人アカウントユーザーを指します。

以下の説明は工場出荷状態の DHCP 設定で使用されている場合のものです。

（接続方法は WindowsPC/MacPC 共通です。本説明では GoogleChrome での表示画面で説明しています）

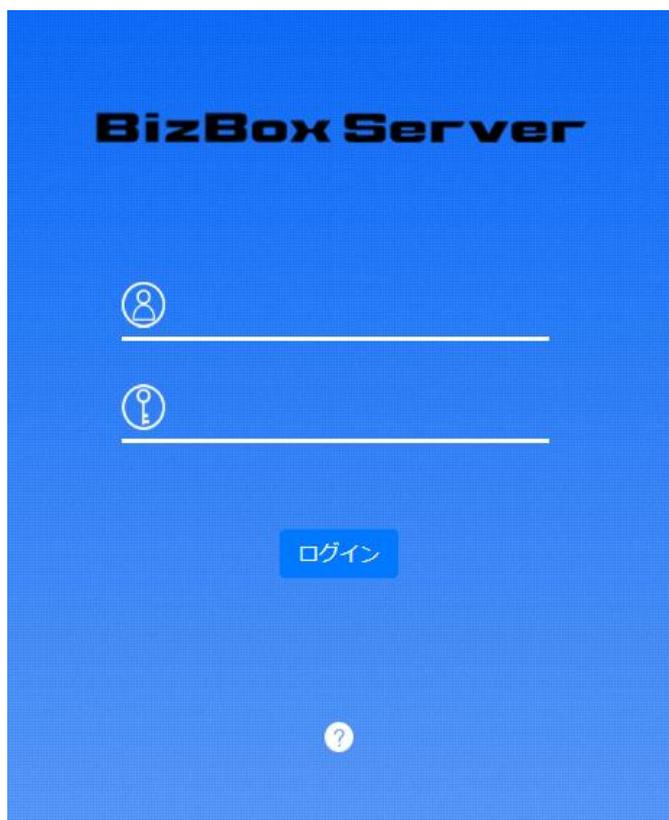
- ① WebAdmin（管理者）に、本機の IP アドレスを確認してください。または本体の LCD 画面には 3 秒ごとの更新で様々な情報が表示されます。その中の「LAN 1」という項目に本体に割り当てられた IP アドレスが表示されます。
- ② 本体と同一のネットワークに接続した PC からブラウザを起動して、<https://【本体の IP アドレス】>
  - \* この説明では「192.168.168.150」を入力し接続します。
  - \* この時必ず「https」でアクセスしてください。



- ③ 以下のような画面が表示されますので「詳細設定」を押下してください。  
その後「[\[IP アドレス\]にアクセスする \(安全ではありません\)](#)」を押下してください。  
（自己署名証明書を利用しているため、このような警告が出ていますが問題ありません。）  
※ブラウザによってこの警告画面は異なる場合があります。



- ④ ログイン画面が表示されます。WebAdmin（管理者）のアカウント、もしくは一般ユーザーの場合 WebAdmin（管理者）から発行されているアカウント情報を入力してログインします。

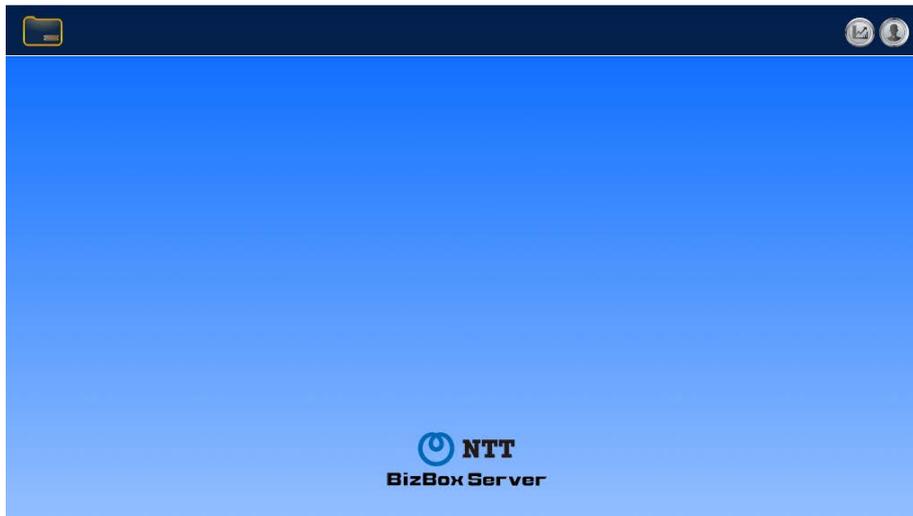


⑤ ログイン後、表示されるデスクトップ画面は次の通りです。

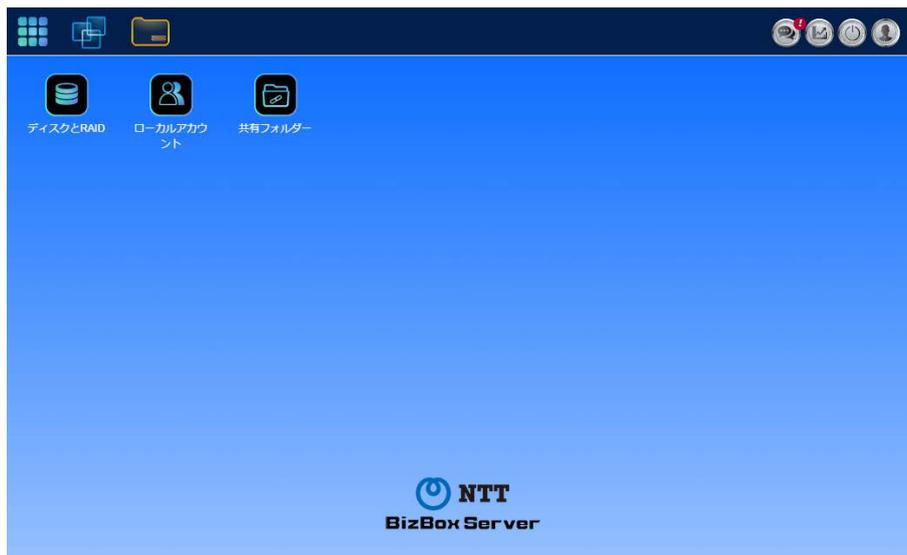
#### 【一般ユーザー】

**一般ユーザーインターフェース**は次の画像の通りです。ここから、パブリックフォルダ、アクセス権限が付与されたファイルへのアクセス、デスクトップの外見変更、パスワードの変更、表示言語の選択および リソースモニターの確認をネットワーク上の任意の場所から行うことができます。

WebAdmin（管理者）とは違い、ファイルセンターの機能のみ使用ができ、アクセスできる設定項目は外見に関するものを除き、制限されています。



#### 【WebAdmin】



## メニューツリー

メニューツリーで、一般ユーザーが本製品で操作することができる各トピックにアクセスすることができます。

【一般ユーザーの場合】



メニューバー	
項目	説明
ファイルセンター	ファイルセンターに入ります。

【WebAdmin の場合】

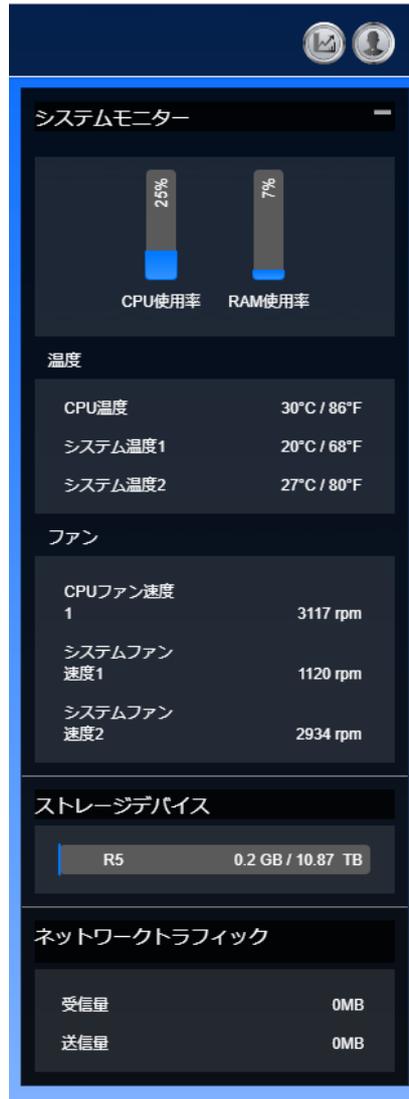


メニューバー	
項目	説明
コントロールパネル	コントロールパネルに入ります
アプリセンター	アプリセンターに入ります
ファイルセンター	ファイルセンターに入ります

これらの項目上にマウスを移動し、押下すると、各項目の対応画面が表示されます。

## システムのリソースモニターのクイック表示

メニューバーの右上隅で、 を押下します。CPU、メモリーおよびストレージ使用状況などのシステムリソース監視情報が表示されます。



## 一般的な設定

メニューバーの右上隅で、 を押下します。言語の変更（一般ユーザーのみ）、お好み設定（一般ユーザーのみ）、パスワードの変更（WebAdmin/一般ユーザー）、パスワードモジュールのパスワード変更（WebAdminのみ）、ログアウト（WebAdmin/一般ユーザー）が表示されます。

## 言語の変更

※WebAdmin ではこの項目はありません。

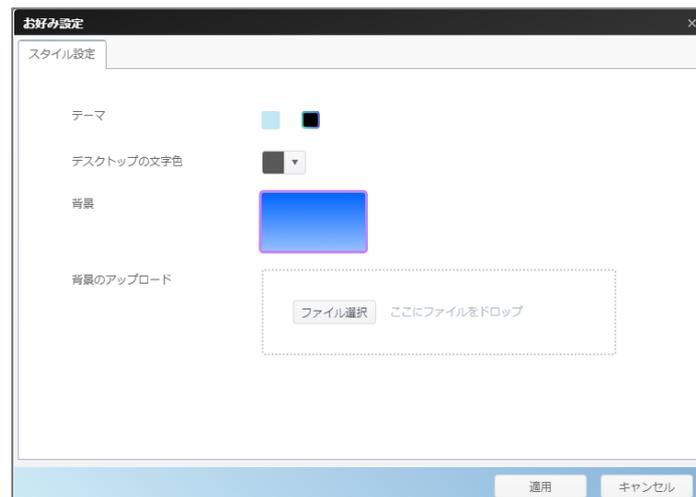
日本語と表示されている箇所を押下し、プルダウンメニューから好きな言語に変更することができます。



## お好み設定

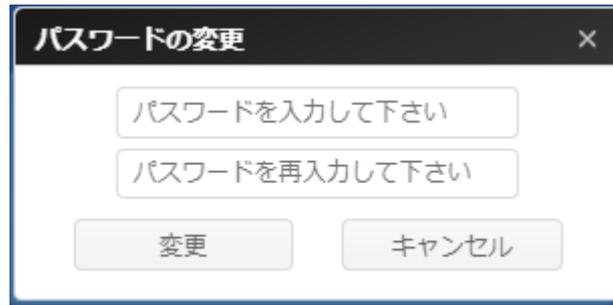
※WebAdmin にはこの項目はありません。

メニューバーの右上隅で、**お好み設定**を押下します。テーマ、デスクトップの文字、壁紙を変更することができます。



## パスワードの変更

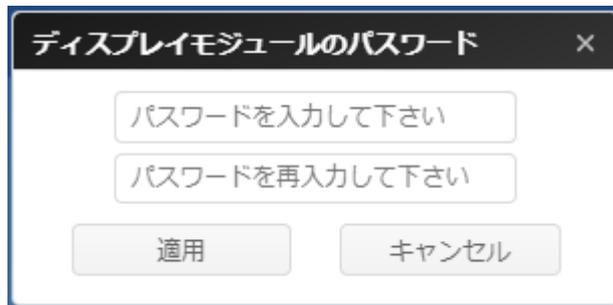
メニューバーの右上隅で、**パスワード**項目を選択します。**パスワードの変更**画面が表示されます。**新しいパスワード**ボックスに 新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。**[ 変更 ]**を押下して、パスワードを確定します。



## ディスプレイモジュール(LCM)のパスワードの変更

※この項目は一般ユーザーでは表示されません。

ディスプレイモジュールのパスワードとは本体前面の LCM(LCD ディスプレイモジュール)のパスワードを指します。メニューバーの右上隅で、**ディスプレイモジュールのパスワード変更**の項目を選択します。**パスワードの変更**画面が表示されます。**新しいパスワード**ボックスに新しいパスワードを入力し、**確認**ボックスに新しいパスワードを確認のため再入力します。**[ 変更 ]**を押下して、パスワードを確定します。



## ログアウト

「ログアウト」を押下したあと「OK」を押下し、**一般ユーザー Web インターフェイス**を終了します。



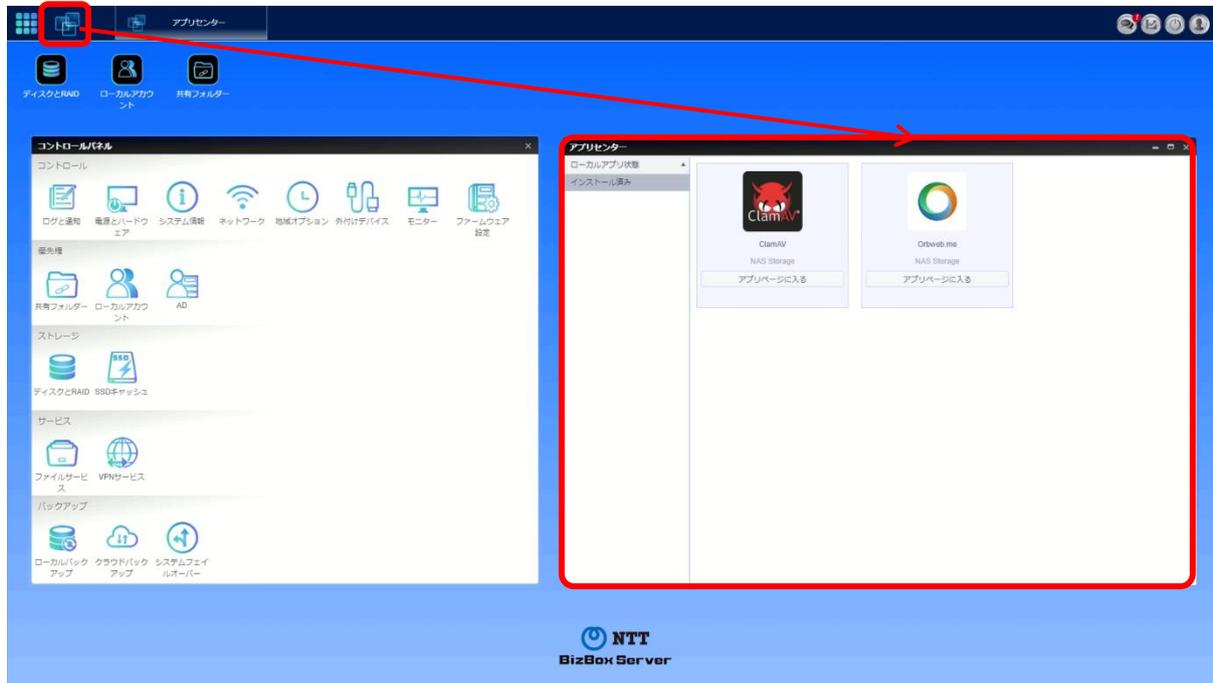


## アプリセンター

※一般ユーザーはアプリセンターは表示されません。



アプリセンターでは、本製品に対応したアプリケーションを使用する事ができます。アプリセンターアイコンを押下します。下のよう画面が表示されます。最初からインストールされた「インストール済みアプリケーション」が一覧表示されます。



メニューバー	
項目	説明
コントロールパネル	システムおよび機能設定に入ります(機能設定を行います)
アプリセンター	アプリセンターに入ります(ウイルススキャン設定(ClamAV)、リモートアクセス(OrbWeb))

関連するアプリの詳細を表示するには、アプリアイコンを押下して、ウィンドウを開きます。関連するアプリを実行するには、「Enter App Page (アプリページに入る)」を押下します。





Orbweb.me

- ユーザーにこのモジュールの使用を許可する。  
 デスクトップへのショートカットの表示

アプリページに入る

選択

現在のバージョン

5.1.6

モジュールサイズ

75MB

更新日

2020-09-08

説明:

Orbweb.meは素晴らしいユーザーエクスペリエンスを提供できるよう努めています。Orbweb.meのシンプルなアプリを使用して、スマートフォンをPCと同じくらい強力なものにしてください。ぜひモバイルデバイスをデスクトップ化しましょう！

Orbweb.meはスマートフォン、タブレット、ブラウザからアクセスしてください。

注意:

1. リモートデスクトップとリモートスリープモードの制御はサポートされていません。
2. クライアント側パソコンからはブラウザを使用してログインしてください。



## アップデートモジュールリストのスケジュール設定

スケジュールしたタイミングで標準インストールアプリ(【ClamAV】【orbweb.me】)のモジュールリストの更新を行います。標準インストールアプリは、最新に保つことを推奨します。

標準インストールアプリを常に最新にしておくためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。

アップデートのスケジュールは、下記の画面にて設定を行います。

アップデートモジュールリスト更新初期設定日時：毎週日曜日 5:35

期間	毎日	—	時	分
	毎週	月曜日～日曜日	時	分

アプリセンター

ローカルアプリ状態  
インストール済み  
手動インストール

アップロードモジュール

選択 ここにファイルをドロップ

デフォルトアプリのダウンロード

デフォルトアプリのインストール

アップデートモジュールリスト

更新

アップデートモジュールリストのスケジュール設定 **期間が毎日の場合**

期間 毎日

スケジュール 00 : 00

適用

アップデートモジュールリストのスケジュール設定 **期間が毎週の場合**

期間 毎週

スケジュール 月曜日 00 : 00

適用

## アプリの更新

アップデートモジュールリストの更新をスケジュール、手動で行った際アップデートがある場合自動的にアプリが更新されます。

## ClamAV®

ClamAV® は、トロイの木馬、ウイルス、マルウェア等の悪質な脅威を検出するためのオープンソース(GPL)のウイルス検出エンジンです。本アプリケーションをインストールすることによってコンピュータウイルスから本製品を保護することができます。

## スキャン

ウイルスをスキャンするディレクトリ(フォルダー)およびファイルの選択、スキャン設定、スキャンの実行を行うタブです。

追加ボタンを押すことでスキャン追加画面に移行し、スキャン内容を設定できます。

※スキャン対象フォルダは最大で 10 個を対象とする事が可能です。そのフォルダ下層のフォルダ・ファイルは全てスキャン対象となります。



スキャン追加画面に移行したら、左ペインからスキャン対象ディレクトリやファイルを選択します。ディレクトリの内部を参照したい場合はディレクトリ名左側の三角マークを押下します。

スキャン対象を選択したら右ペインからスキャン方法を設定します。検出したウイルスを一度態度保留して後で判断したい場合は**隔離**、自動削除したい場合は**ウイルス削除**を選択します。スキャン間隔は**すぐに**、**毎日**、**毎週**のうちから選択できます。



**毎日**を選択した場合、スキャンの開始時間を指定します。



**毎週**を選択した場合、開始時間に加えてスキャンを実施する曜日を指定します。

スキャン間隔： すぐに  毎日  毎週

開始時間： :

週： 月曜日  火曜日  水曜日  木曜日  
 金曜日  土曜日  日曜日

**OK**を押してスキャン設定を完了するとスキャンタブに反映されます。スキャン間隔を「**すぐに**」に設定した場合、スキャンが開始されます。

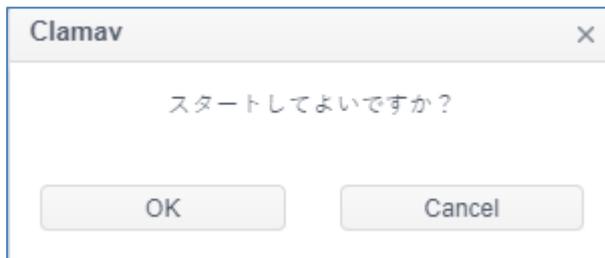
「**ログ**」ボタンを押下するとご使用の PC のダウンロードフォルダに CSV 形式のログがダウンロードされます。ログにはスキャンサマリ、検疫リスト、ウイルス削除リストが記載されています。

追加されたスキャン設定を押下すると「**編集**」、「**削除**」、「**開始**」ボタンが追加されます。

「**編集**」ボタンを押すことでスキャン編集画面が開き、スキャン設定を変更することができます。

**削除**ボタンを押すことでスキャン設定を削除できます。

**開始**ボタンを押下することで設定したスキャンを実行します。スキャン間隔を毎日もしくは毎週に設定した場合でも即座に実行されます。



スキャンが完了するとステータスが Finish になります。感染数を確認し、感染があった場合は**隔離タブ**または**削除タブ**を参照してください。画面左側でシステム全体の、スキャンタブからスキャン設定単位で最後にスキャンした日時を確認することができます。

 The interface shows the ClamAV logo on the left with scan history:
 

- 最後のスキャン: 2020-09-09 14:00:34
- 最終アップデート: 2020-09-07 11:45:52

 The main area has tabs: スキャン, 更新, 隔離, 削除. Below are buttons for 追加 and ログ. A table shows scan results:
 

ディレクトリ/ファイル	最後のスキャン	感染数	ステータス
NAS_Public	2020-09-09 14:00:34	0	Finish

## 更新

ウイルス定義をアップデートすることができます。手動アップデートの他に自動アップデートのスケジュールも設定できます。  
 ※定義ファイルの初期更新日時：毎日 04:35

**今すぐ更新**ボタンを押下することで最新ウイルス定義を入手します。インターネット接続が必要ですので、特に隔離環境で本製品を運用している場合はネットワーク管理者に設定を確認してください。

**スケジュール有効**にチェックを入れることで最新ウイルス定義入手を自動化できます。**毎日**を選択した場合はアップデートを実施する時間を、**毎週**を選択した場合はさらにアップデートを実施する曜日を選択します。選択し終わったら**スケジュール設定の保存**ボタンを押して設定を保存します。

 The interface shows the ClamAV logo on the left with scan history:
 

- 最後のスキャン: 2021-01-20 05:21:06
- 最終アップデート: 2021-01-22 04:36:01

 The main area has tabs: スキャン, 更新, 隔離, 削除. Below are buttons for 今すぐ更新 and a note: "オンラインアップデートには、インターネットの接続が必要です。アップデートには数分かかります。"
 

**スケジュールアップデート**

スケジュール有効

タイプ:  毎日  毎週

開始時間: 04 : 35

スケジュール設定の保存

**毎日**を選択した場合、アップデートの開始時間を指定します。

スケジュールアップデート

スケジュール有効

タイプ:  毎日  毎週

開始時間: 00 : 00

スケジュール設定の保存

毎週を選択した場合、開始時間に加えてアップデートを実施する曜日を指定します。

スケジュールアップデート

スケジュール有効

タイプ:  毎日  毎週

開始時間: 00 : 00

週:

- 月曜日
- 火曜日
- 水曜日
- 木曜日
- 金曜日
- 土曜日
- 日曜日

スケジュール設定の保存

OKを押してスケジュール設定を完了すると設定した日時にアップデートが行われます。**今すぐ更新**を押下した場合、すぐにアップデートが開始されます。

## 隔離

スキャンによって隔離されたファイルの一覧を確認できます。

検出したファイルを選択すると**リストア**、**削除**、**全削除**のボタンが追加されます。**リストア**ボタンを押下することで検出されたファイルを元の場所へ戻します。ウイルスとして誤検出された無害のファイルを戻すために使用します。**削除**ボタンを押下することで選択したファイルを個別に削除できます。**全削除**ボタンを押下することで一覧のファイルをすべて削除できます。

※隔離されたファイルはユーザーがアクセスできない RAID 内の特別な領域に隔離、保存されています。リストアでのみ元の場所に戻すことができます。

スキャン 更新 隔離 削除	
リストア 削除 全削除	
ファイル名	パス
eicar.com	/raid/data/eicar_test/eicar.com

## 削除

スキャンによって削除されたファイルの一覧を確認できます。**全削除**ボタンを押下することで一覧を空に戻すことができます。

スキャン	更新	隔離	削除
<input type="button" value="全削除"/>			
ファイル名		パス	

## Orbweb.me®

Orbweb.me はスマートフォンやタブレット、またはブラウザから簡単に本機に接続することができるアプリです。スマートフォン、タブレット、PC にアプリをインストールして設定することにより本製品に簡単にアクセスしてファイルのアップロードやダウンロードをすることができます。

### 注意事項

この設定については不正アクセス防止の観点から本機を設置/管理する管理者（WebAdmin）が管理する PC で管理者自身が行うことが望ましい。アカウントの作成が必要になるため、有効な E メールアドレス、パスワードが必要になります。このアカウント情報のみで orbweb.me で設定したアクセス可能なパブリックなフォルダーにリモートでアクセスが可能になります。（フォルダーACL によるアクセス制御は有効です。）

また同時に登録できるアカウントは機器に対して 1 つのため、このアカウントを別のユーザーに付与する場合はこの設定でできる内容は付与された全員ができることとなります。

本機能は、BizBoxServer「OS Pro」の負荷が高い場合アクセスできなくなることがあります。管理者に確認して、負荷が下がった後、再度アクセスしてください。

### 対応端末と OS(2020.8 末時点)

端末	Windows PC	Mac	iPhone/iPad	Android 端末
OS	Windows10/8.1	macOS 10.15 Catalina	iOS8.1 以上 /iPadOS13 以上	AndroidOS8 以上

※UTM 配下に BBS OS Pro を設置しリモートアクセスを利用する場合には、リモートアクセスが不安定になる可能性があります。特に IPS 設定等、通信遅延に影響がある機能を有効にしているとなる可能性があります。

※ファイルの表示アップロードは、回線の状態及び利用端末の性能により時間を要する場合があります。

読み込みに失敗した場合、再読み込みを実施することで読み込むことが可能になる場合があります。

※弊社で確認した本機への接続の最大接続数は、12 台です。（12 台を保証するものではありません。設置環境での利用状態や回線の状況により変わります）

※1 クライアント端末が安定して Orbweb を利用するにはおおよそ 5Mbps の帯域を必要とします。

## Orbweb 設定

①管理者でログインします。下記フローに従いサインアップ画面を表示させます。

The screenshot shows the Orbweb.me app page on an app store. A yellow box highlights the 'アプリページに入る' (Go to app page) button. Another yellow box highlights the 'アプリページに入る' button in the 'アプリセンター' (App Center) section. A red text box says 'アプリセンターより orbweb.me に入り アプリページに入ります。' (From the App Center, go to orbweb.me and enter the app page).

説明  
Orbweb.meは素晴らしいユーザーエクスペリエンスを提供できるよう努めています。Orbweb.meのシンプルで使いやすいアプリを使用して、スマートフォンを安心・楽しく使いこなすのにお役立ちください。ぜひモバイルデバイスをデスクトップ化しましょう！  
Orbweb.meはスマートフォン、タブレット、ブラウザからアクセスしてください。  
注意：  
1 リモートデスクトップとリモートスリープモードの制御はサポートされていません。  
2 クライアント制/シンクからブラウザを使用してログインしてください。

アプリセンターより orbweb.me に入り  
アプリページに入ります。

この接続ではプライバシーが保護されません  
192.168.168.137 では、悪意のあるユーザーによって、パスワード、メッセージ、クレジットカードなどの情報が盗まれる可能性があります。詳細  
NET-ERR\_CERT\_AUTHORITY\_INVALID  
 アクセスしたページの URL、システム情報、およびページのコンテンツの一部を Google に送信して、Chrome セキュリティの改善にご協力ください。プライバシーポリシー  
詳細情報を表示しない セキュリティで保護されたページに戻る  
このサーバーが 192.168.168.137 であることを確認できませんでした。このサーバーのセキュリティ証明書は、ご使用のパソコンのオペレーティングシステムによって信頼されているものではありません。原因としては、不適切な設定や、悪意のあるユーザーによる接続妨害が考えられます。  
192.168.168.137 にアクセスする。(安全ではありません)

ブラウザの警告が出ますが画像の手順でアクセスします。

ブラウザの別のタブで上記の画面が開きます。矢印のようにクリックしていきます。

The screenshot shows the 'サインアップ' (Sign Up) page of the Orbweb.me service agent. A yellow box highlights the 'サインアップ' button. Another yellow box highlights the 'サインアップ' button in the 'サインイン' (Sign In) section. A red text box says 'まずサインアップを行います。' (First, we will sign up).

orbweb.me service agent 製品ツアー | 日本語 | バージョン

サインアップ

名 姓  
Eメール  
パスワード  
サインアップ  
FACEBOOK  
サインイン

サインアップをクリックすることで、ORBWEB.MEの【利用規約】と個人情報保護方針に同意したと見なされます  
Orbweb Inc.

サインイン

Eメール  
パスワード  
サインイン  
FACEBOOK でサインイン  
サインアップ

まずサインアップを行います。

サインインの画面が開きますが、まずユーザー登録（サインアップ）が必要ですのでサインアップを行います。

②[名][姓][Eメール][パスワード（orbweb用に任意のものを入力）]してサインアップを押下します。

orbweb.me service agent

製品ツアー | 日本語

バージョン

### サインアップ

名 姓

Eメール

パスワード

**サインアップ**

OR

FACEBOOK サインイン

サインアップをクリックすることで、ORBWEB.MEの【利用規約】と個人情報保護方針に同意したと見なされます

Orbweb.me

Orbweb

Hi [Name],

Thanks for creating the account with Orbweb.me. Please verify your email address, [Email]@gmail.com, and complete the activation by clicking the link below.

**Verify My Account**

If this is not your requested action or receiving this email in error, click the link below to reclaim your email.

Reclaim My Email

### アカウントの確認

ありがとうございます! 確認メールを送信しました。電子メールアドレスを確認して、Orbweb.meの登録を完了してください。

[電子メールの再送信](#)

**サインイン**

※サインアップを行うと登録したメールアドレスに上記のようなメールが送られていますのでユーザー管理者に[Verify My Account]を押下してもらい登録を必ず完了させてください。設定が進めなくなります。Orbwebのページが表示されますが、こちらの画面で設定を進めないでください。画面を閉じてください。

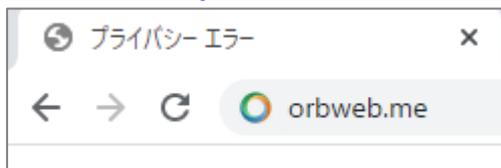
必ず左のこの画面から設定を進めてください。



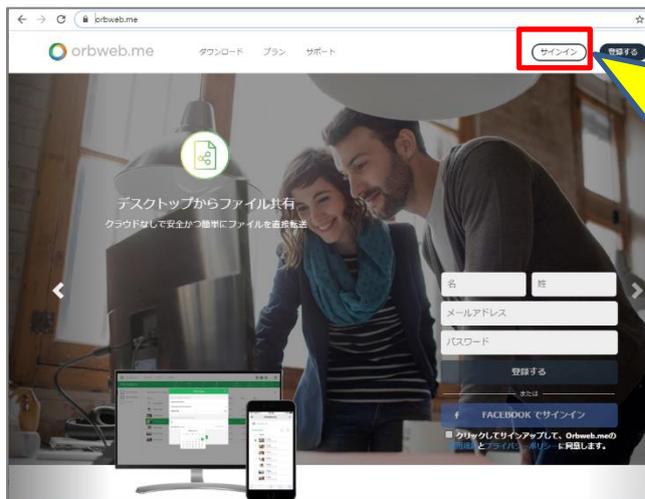
右上の「インターネットブラウザやモバイルアプリを介して PC ヘリモートアクセスしてください」が表示されたら設定は完了です。

## 「WindowsPC」でのリモートアクセス

①ブラウザで「<https://orbweb.me>」にアクセスします。



②サインインと設定



Orbweb.me(<https://orbweb.me>)にアクセスします。サインインをクリックします。



・ユーザー名  
登録したメールアドレス  
・パスワード  
登録したパスワード  
・記憶させる  
ユーザー名とパスワードを記憶させる場合はチェックします。

上記情報を入力しサインインします。



File Xplorer をクリックします。  
Remote Desktop と Webcam Monitoring は使用できません。

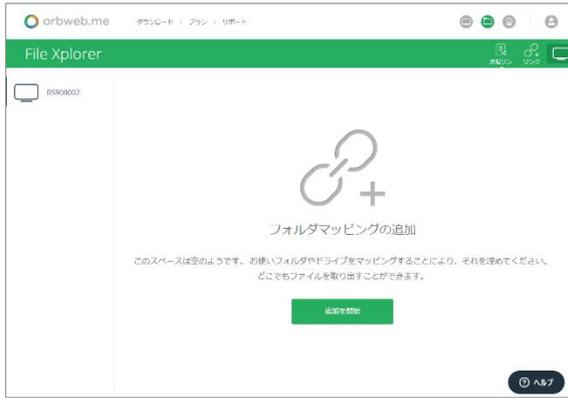


File Xplorer が起動しました。  
左上のホスト名をクリックしてホストに接続します。  
(画面は BS900002)

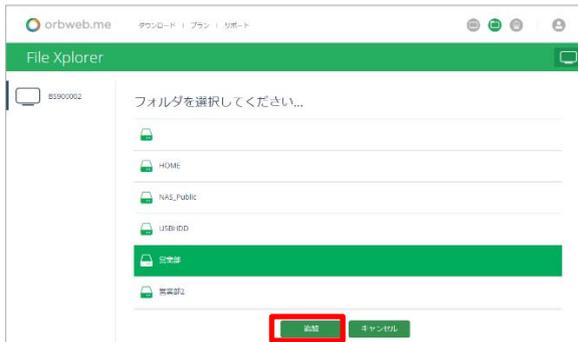


この画面が表示されるので「ダウンロード」をクリックして web-connect.exe をダウンロードし、インストールします。  
Windows Defender による抑止が出たら無効化してください。「Connect」をクリックして接続します。  
**タスクトレイ内に orbweb.me のアイコンがあることを確認してください。このアイコンがないと接続ができません。**





接続するとまだ orbweb.me でアクセスができるフォルダーを選択していないのでフォルダマッピングの追加の画面が開きます。  
「追加を開始」をクリックします。



共有フォルダーの一覧が表示されます。  
Orbweb.me でアクセスしたい共有フォルダーを選択して「選択」をクリックします。（画像は営業部を選択）



Orbweb.me でアクセスしたい共有フォルダーの設定ができました。もっとアクセスしたい共有フォルダーを追加する場合は右上の「リンク」で追加登録します。

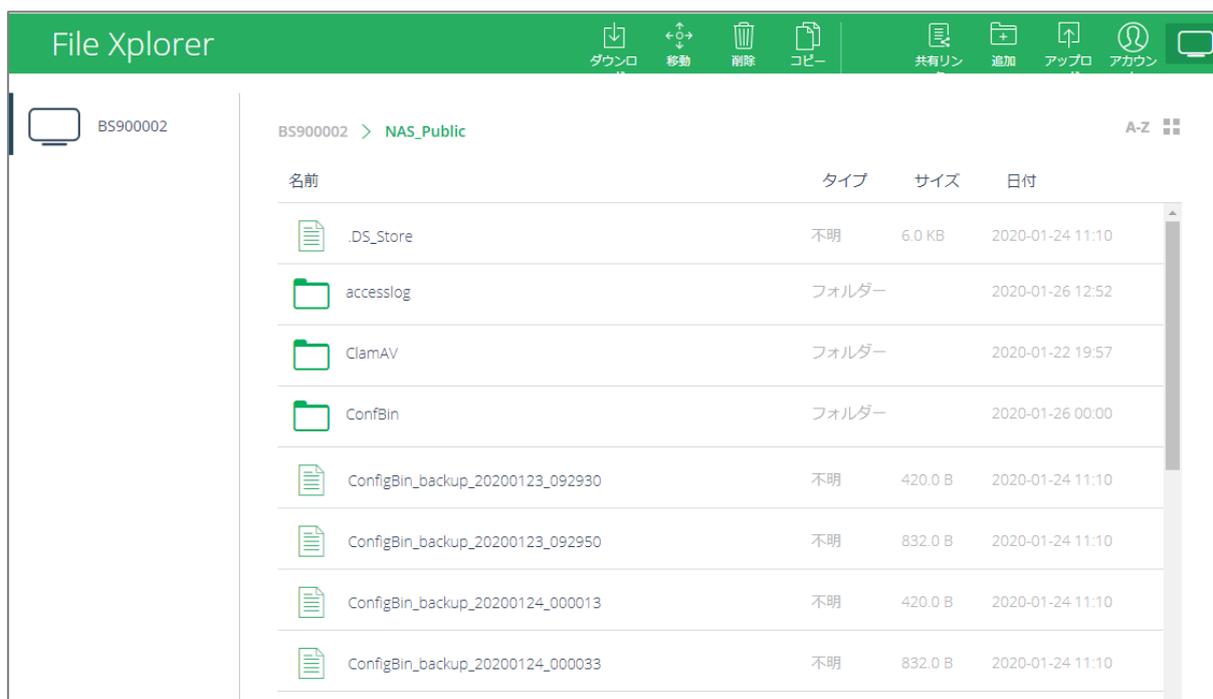
## フォルダーへのアクセス



フォルダーにアクセスします。「営業部」フォルダーにアクセスします。アクセスしたいフォルダー上でダブルクリックします。



パブリックでない共有フォルダーはアクセス制限が有効なため、[アカウント名][パスワード]の入力が求められます。パブリックである NAS\_Public フォルダーなどはこのサインインの表示なくダイレクトに共有フォルダーの内容を表示します。



サインインできるとこのように共有フォルダーの内容が表示されます。(画像は NAS\_Public)

Office ファイル、画像/動画、テキストファイルなどはダブルクリックするだけで WindowsPC でそのファイルに関連づけられたアプリが起動し表示します。

File Explorer	
項目	説明
ダウンロード	選択したフォルダー/ファイルを PC へダウンロードします。
移動	選択したフォルダー/ファイルを本機内で移動します。移動先選択画面が表示されます。
削除	選択したフォルダー/ファイルを削除します。
切り取り	選択したフォルダー/ファイルを切り取ります
コピー	選択したフォルダー/ファイルを本機内でコピーします。コピー先選択画面が表示されます。
追加	新しいフォルダーを追加します。
アップロード	表示されているフォルダーに PC からファイルをアップロードします。
アカウント	サインインするアカウントを変更する場合使用します。

※リモートアクセスにて、ファイルをアップロードする際は、NAS 上のファイルを保護する観点で別名で保存します。(ファイル名の後ろに (1) 等の番号を付与します)

### トラブルシューティング

- ・本機の登録がうまくできない

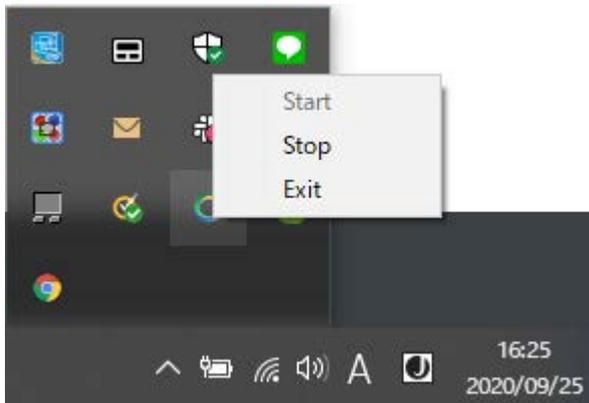
第 5 章の Orbweb.me→Orbweb 設定を参照：本機のアプリページ内で登録が完了した表示がされているか確認する。登録完了になっていない場合には、再度登録を実施してください。

- ・リモートアクセスができない。

第 5 章の Orbweb.me→「WindowsPC」でのリモートアクセス参照：タスクトレイに orbweb.me(web-connect.exe)が常駐しているか確認する。**以前ダウンロード保存した場所にあるので任意の場所に移して手動起動するかスタートアップに登録してください。**

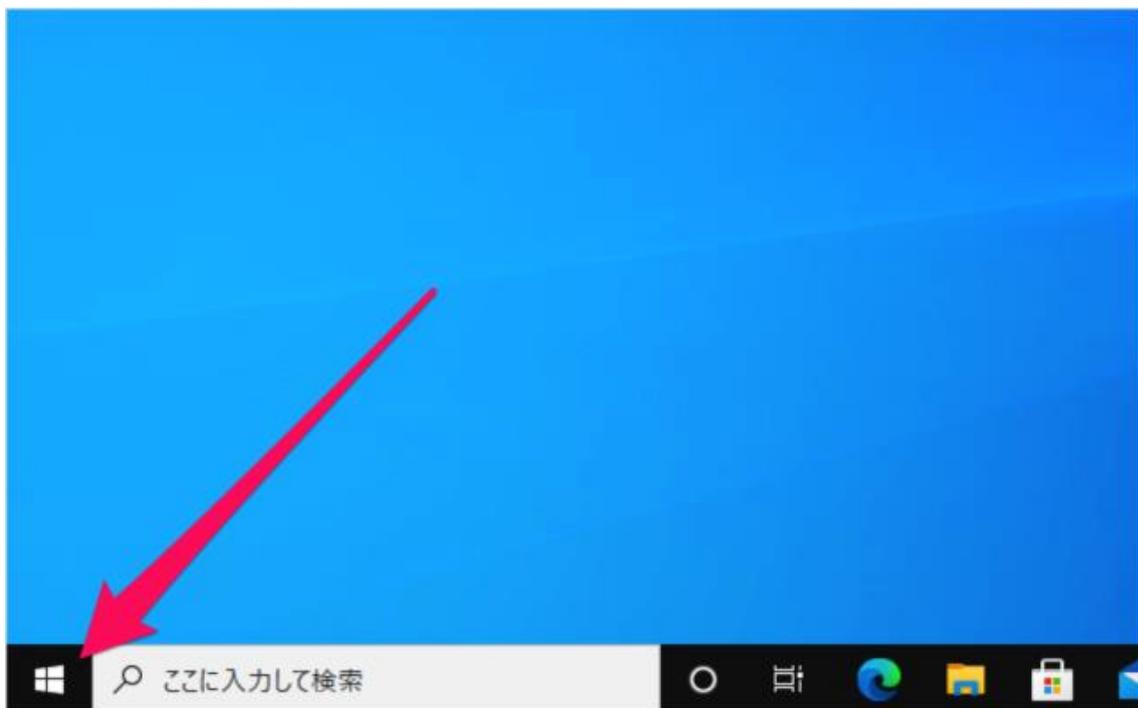
毎回手動で web-connect.exe を起動するのが煩わしい、起動を忘れてしまう方向け

Windows10 のスタートアップに登録し、Windows が起動したら自動的に起動させる方法



タスクトレイにアイコンが常駐し、右クリックした時に Start がグレイアウトしている状態が web-connect.exe が正常に動作している状態です。

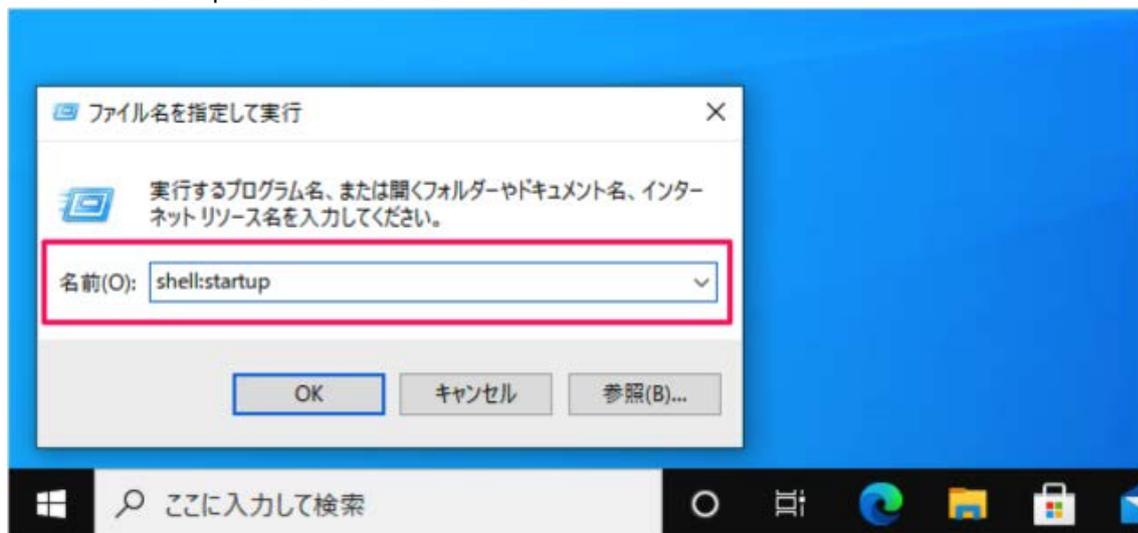
1、スタートボタンを押下します



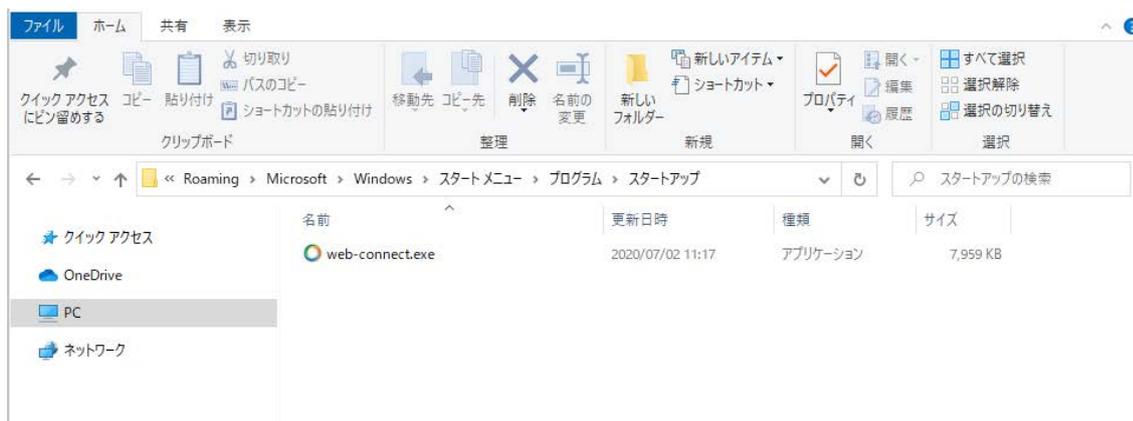
2、ファイル名を指定して実行を押下



3、「shell:startup」を入力して「OK」を押下します。



4、スタートアップフォルダーが開きました。このフォルダーに web-connect.exe を保存するだけで今後 Windows が起動した時点で自動で起動されタスクトレイに常駐するようになります。



### 注意事項

事前に WindowsPC で設定を行ってください。

ここでは Mac からのアクセスについて説明します。

**macOS Catalina(10.15)でのみ対応します。**

**macOS Mojave 以前の OS ではアプリのインストールが許可されていません。ご了承ください。**

## 「Mac」でのリモートアクセス

### Mac にアプリをインストールする



App Store で「orbweb」で検索し、Orbweb Me Web Connect が表示されたら「入手」を押下してダウンロード、インストールを行ってください。

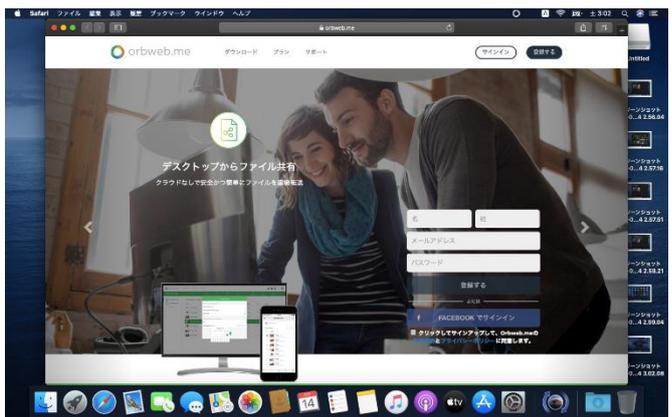
## Orbweb Me Web Connect を起動する



Lunchpad を起動し、Orbweb Me Web Connect を押下して起動します。



メニューバー上に Orbweb Me Web Connect のアイコンが表示されているので押下し、プルダウンメニューから「Orbweb.Meを開きます」を押下しブラウザを起動します。

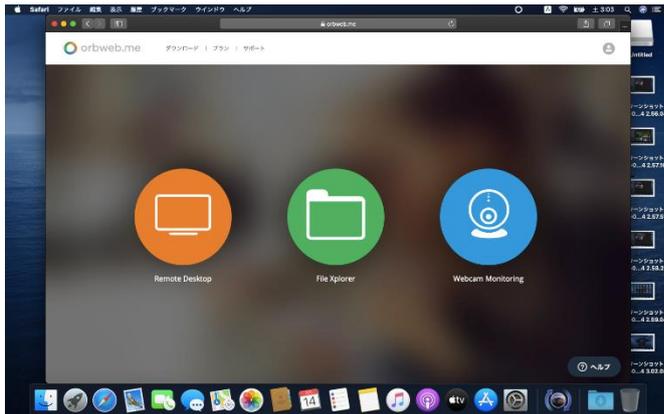


通常使用するブラウザで Orbweb のホームページが表示されます。  
(画面は Safari による表示です)

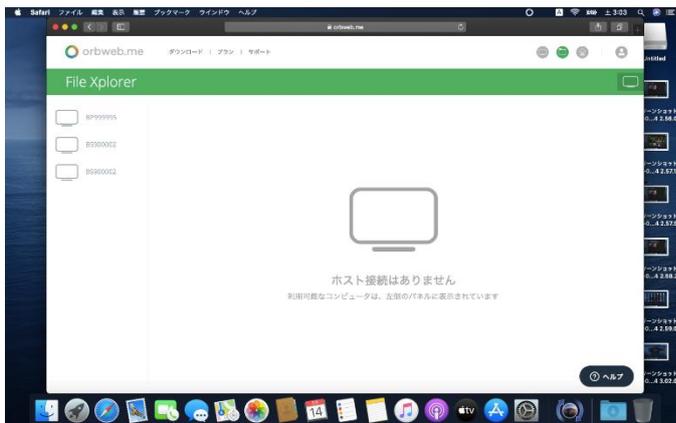
## サインイン



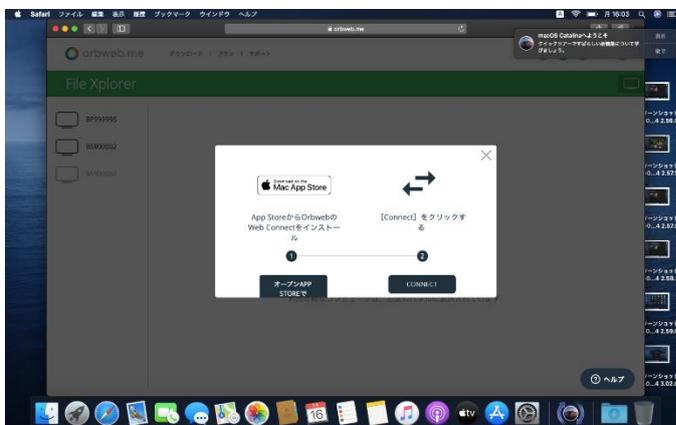
サインインボタンを押下し、「ユーザー名」、「パスワード」を入力後、サインインを押下します。



サインインに成功するとこのページが表示されるので「File Xplorer」のアイコンを押下します。



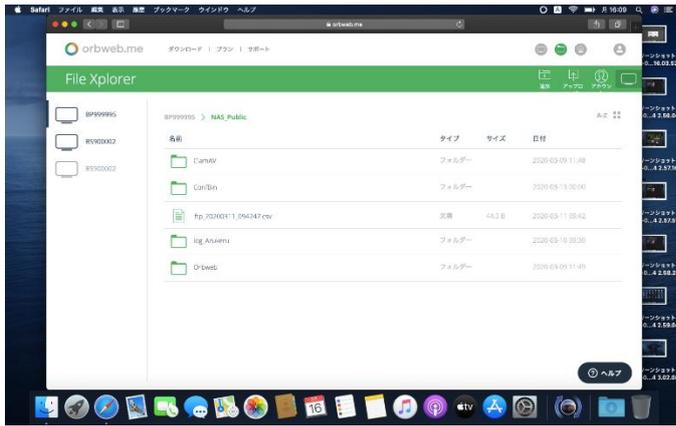
File Xplorer が表示されます。  
アクセス可能な機器をクリックします。



アクセス可能な機器を選択するとこの画面がポップアップ表示されることがあります。初回接続時、または Orbweb Me Web Connect が起動していない場合に表示されます。



アプリのインストールはこの手順通りに実施している場合には一番最初に行っていますので不要です。  
メニューバーに Orbweb が起動していることを確認して「Connect」を押下します。



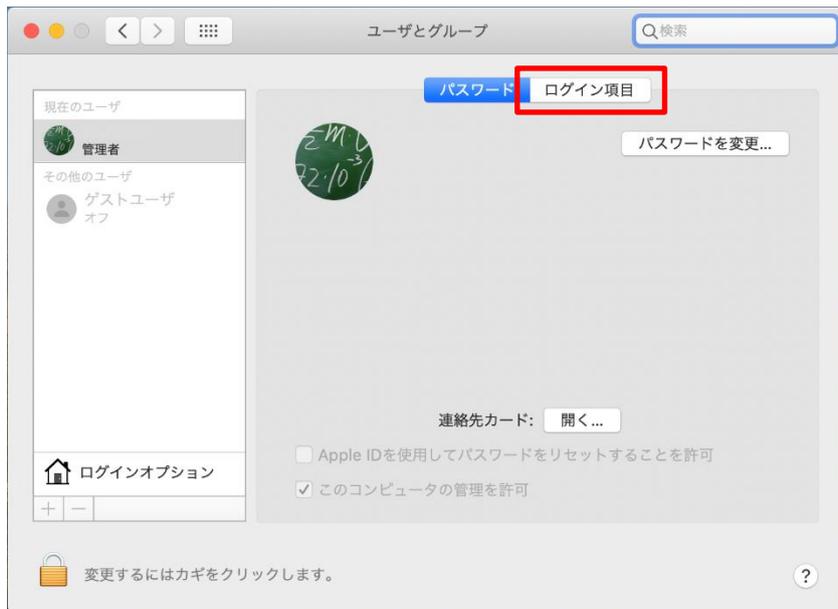
機器にアクセスができました。  
 使用方法につきましては Windows 版と共  
 通になりますので、そちらを参照ください。

## Mac の起動と同時に自動で Web-Connect を起動させる方法

### 1、システム環境設定を開きます。ユーザとグループを押下し、開きます。



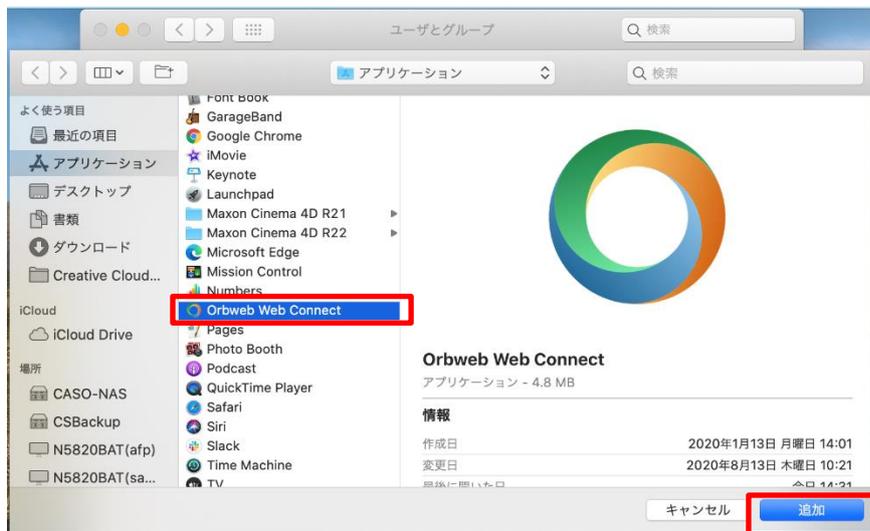
### 2、ログイン項目を押下します



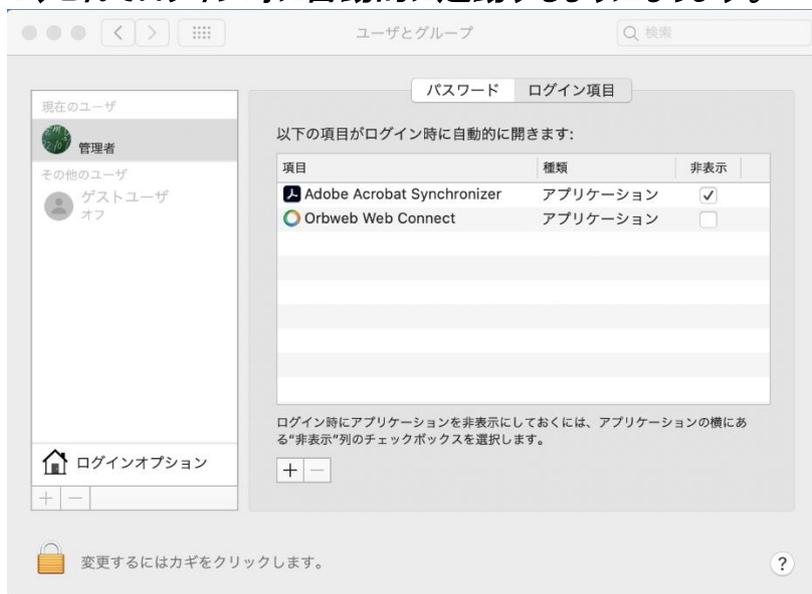
### 3、+を押下します。



### 4、Orbweb Web Connect を選択し「追加」を押下します。



5、これでログイン時に自動的に起動するようになります。



## 「スマートフォン」でのリモートアクセス

### 注意事項

事前に WindowsPC で設定を行ってください。  
ここではスマートフォンからのアクセスについて説明します。

## スマートフォンにアプリをダウンロードする

### ・iOS(iPhone/iPad)

AppStore で「orbweb」で検索して orbweb.me Personal Cloud をダウンロードします。

### ・Android

GooglePlay で「orbweb」で検索して orbweb.me Personal Cloud をダウンロードします。

サポートデバイスについては、AppStore(iOS/iPadOS)/GooglePlay(Android)もしくは、OrbWeb.me のサイトでご確認ください。

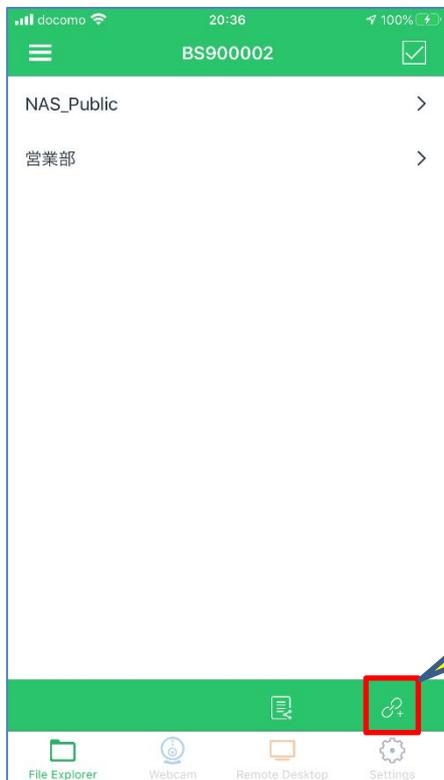
## アプリの操作（画面は iOS のものです）



【メールアドレス】【パスワード】を入力してログインします。



ホスト名（画像は BS900002）をタップします。タップがうまくいかない時は文字をタップする様子をしてみてください。



登録した共有フォルダーが表示されます。

登録するフォルダーを追加する時は赤枠のリンクをタップします。



## 注

### Orbweb.me の制限事項

リモートデスクトップ、リモートスリープコントロールモードには対応しておりません。

USB 接続のドライブについては、ACL の設定に関わらず Orbweb.me のフォルダーマッピングの設定で表示され、登録することができますが、エラーメッセージが表示されアクセスすることはできません。(仕様になります)



注

BizBoxServer では、orbweb 標準機能であるスマートデバイスからの「再起動、スリープ、シャットダウン」を受け付けない仕様です。（企業内の本機をリモートから「再起動、スリープ、シャットダウン」された場合に本機が突然利用できなくなることを避けるためです。）

- 同時接続上限は 5 端末となります。
- 1 アカウントにおけるスマートホン・タブレット端末の接続上限はありませんが、同時接続上限は上記の 5 端末以内の接続が推奨となります。
- 1 アカウントにおける BBS の管理上限は理論上の制限値はありません。
- ファイルの拡張子ごとの可能な内容は後述の表をご参照お願いします。

プレビュー可能

		Android	iOS	Windows/Mac
Office	word	○	○	ファイルタイプ問わずブラウザ経由でPCにダウンロードすることになります。  その後、プレビュー出来るかどうかはOfficeがインストールされている、動画再生ソフトがインストールされている、解凍ソフトがインストールされている、また適切なファイル関連付けが行われているかによります。
	csv	○	○	
	excel	○	○	
	ppt	○	○	
	pdf	○	○	
TXT	UTF-8	○	○	
	Unicode	○	○	
	ANSI	○	△(※1)	
Video	mp3	○	○	
	mp4	○	○	
	m4a	○	○	
Image	tiff	×	○	
	png	○	○	
	jpg	○	○	
	gif	○(※2)	○(※2)	
ZIP/GZ	zip	○	○	
	gz	○	○	

※1 一部のSHIFT-JISまたはBIG5文字では、iOSサポートが不十分です。「純正ASCII」であれば可能です。

※2 GIF動画の一部は動かないものがあります

保存・編集・NASへのアップロード

		Android			iOS			Windows/Mac
		保存	編集	アップロード	保存	編集	アップロード	
Office	word	○	○	○	○	○	×	直接NAS上のファイルを開き、編集を行い、保存することは出来ません。 PCにダウンロードして、編集して、保存、アップロードという形になります。各ファイルとそれに対応するソフトウェアがあればファイルタイプに制限はありません。
	csv	○	○	○	○	×	×	
	excel	○	○	○	○	○	×	
	ppt	○	○	○	○	○	×	
	pdf	○	○	○	○	○	×	
TXT	UTF-8	×	×	○	○	○	×	
	Unicode	×	×	○	○	○	×	
	ANSI	×	×	○	○	○	×	
VIDEO	mp3	×	×	○	×	×	×	
	mp4	×	×	○	×	×	×(movのみ可)	
	m4a	×	×	○	×	×	×	
Image	tiff	×	×	○	○	○	○	
	png	×	×	○	○	○	○	
	jpg	×	×	○	○	○	○	
	gif	×	×	○	○	○	○	
ZIP/GZ	zip	×	×	○	×	×	×	
	gz	×	×	○	×	×	×	

※Androidは本体内部にあるファイルはアップロード可能です。

※インストールされているアプリの状況によって挙動が変わる場合があります。

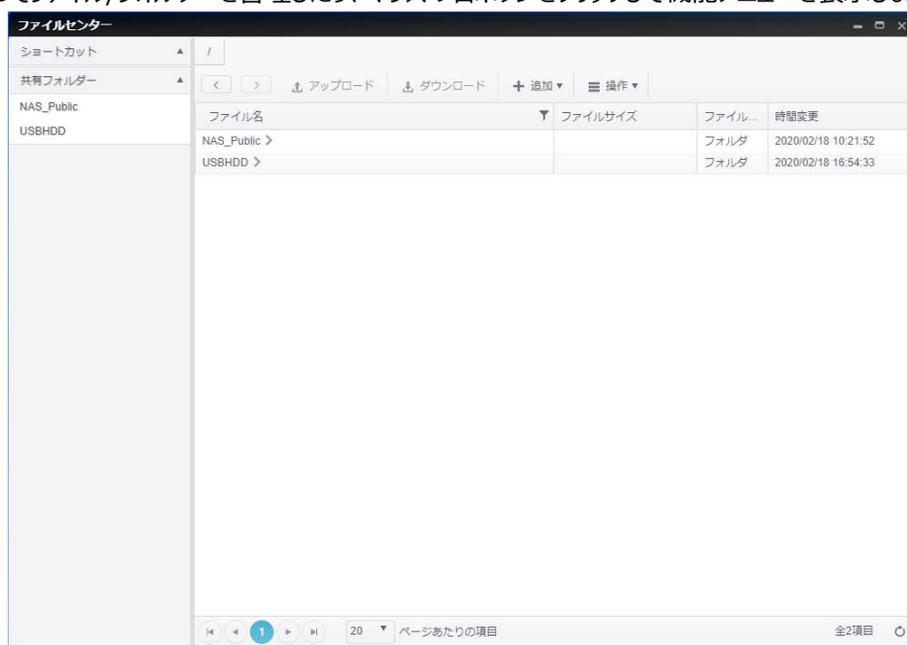


## ファイルセンター

ファイルセンターにより、WebAdmin(管理者)、一般ユーザーは、Web インターフェースを介して、ファイルのアップロード、ダウンロードおよびファイル/フォルダー操作ができます。ファイルセンターアイコンを押下します。システムは、公開システムフォルダー、ACL が許可された関連フォルダーおよびログインユーザーのホームフォルダーを表示します。

左側には、対象のログインユーザーが利用可能なすべてのフォルダーが一覧表示されます。右側には、選択したフォルダーに対する詳細なファイル/フォルダーのリストが表示されます。

機能タブを使ってファイル/フォルダーを管理したり、マウスの右ボタンをクリックして機能メニューを表示します。



いずれかの共有フォルダーにアクセスしなければ操作を行うことはできません。

### アップロード

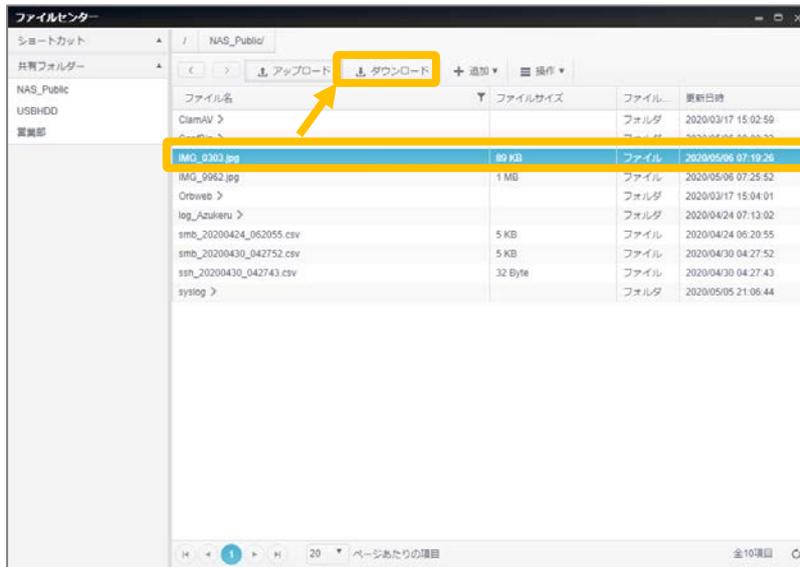
①ファイルを選択するかアップロードしたいファイルをドロップします。同名のファイルがあるのにアップロードしようとするとう失敗します。上書きしてもいい場合は[ファイルが存在する場合、上書きする]にチェックを入れます。

②100%になればアップロードは完了です。右上の X で画面を閉じてください。



## ダウンロード

ファイルを選択し、ダブルクリックをするか、[ダウンロード]押下するとファイルのダウンロードが行えます。



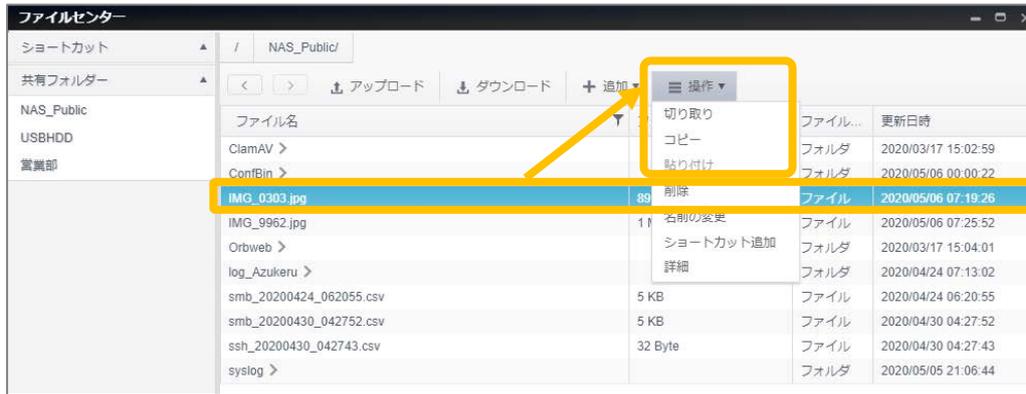
## 追加（フォルダー作成）

- ①追加にマウスを合わせるとフォルダー作成が表示されるので押下します。
- ②フォルダー名を入力し、OK を押下します。



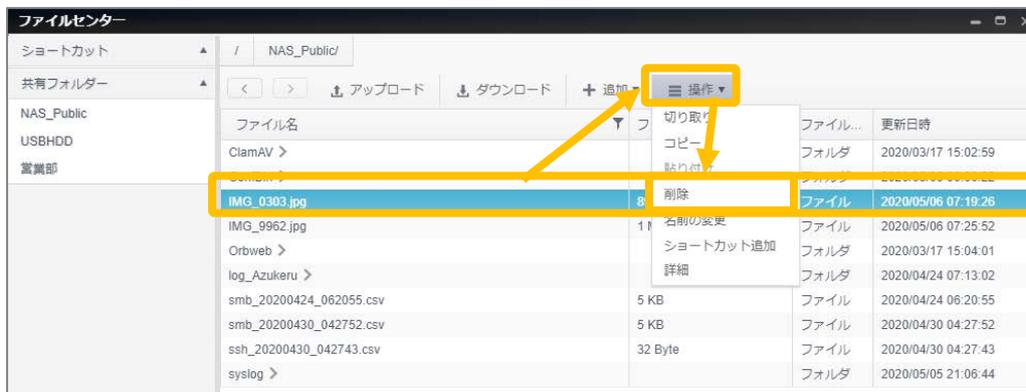
## 切り取り/コピー/貼り付け

- ①操作を行いたいファイル/フォルダーを選択します。SHIFT や CTRL を使い複数のファイル/フォルダー選択も可能です。
- ②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので切り取り/コピーを選択します。
- ③貼り付けを行いたい場所で貼り付けを選択します。



## 削除

- ①削除を行いたいファイル/フォルダーを選択します。SHIFT や CTRL を使い複数のファイル/フォルダー選択も可能です。
- ②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので削除を選択します。



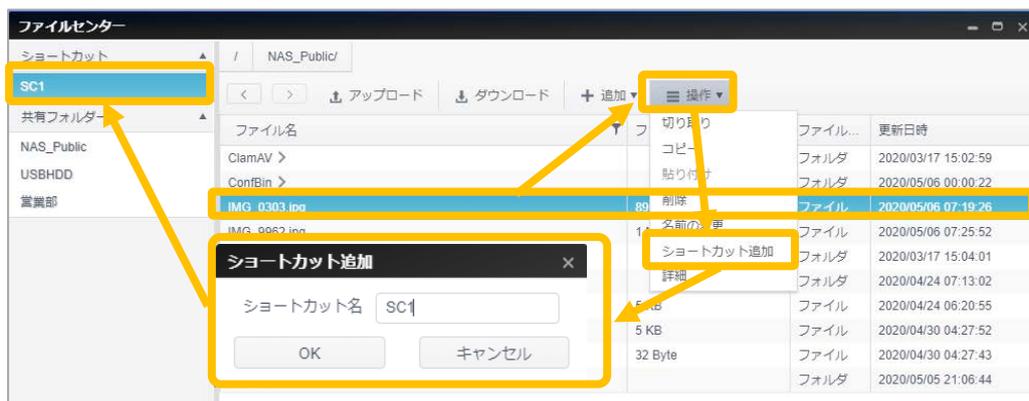
## 名前の変更

- ①名前の変更を行いたいファイル/フォルダーを選択します。。
- ②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので名前の変更を選択し新しい名前を入力し OK を押下します。



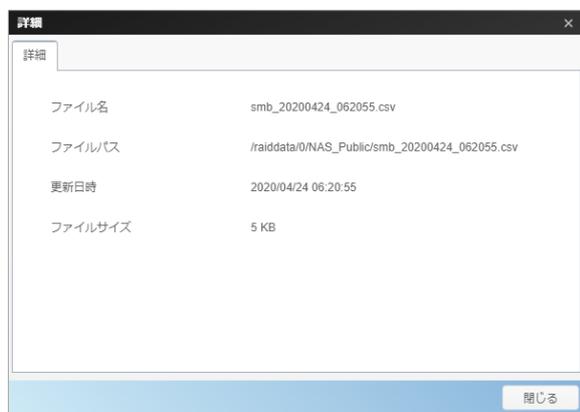
## ショートカット追加

- ①ショートカットを追加したいファイル/フォルダーを選択します。
- ②操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるのでショートカット追加を選択しショートカット名を入力し OK を押下します。
- ③左上のショートカットに入力したショートカット名が登録されます。これにより素早くアクセスすることができるようになります。



## 詳細

- ① 詳細を表示させたいファイル/フォルダーを選択します。
- ② 操作にマウスを合わせるとメニューが表示されるので詳細を選択すると詳細が表示されます。



ファイルセンターの機能に関する説明は以下の通りです。

ファイルセンターの機能	
項目	説明
アップロード	対応する 本機フォルダーにファイルをアップロードします
ダウンロード	本機からファイルをローカルシステム内の対応する本機フォルダーにダウンロードします

追加	フォルダーの作成を行います
操作	
切り取り	選択したフォルダー/ファイルを切り取ります
コピー	選択したフォルダー/ファイルをコピーします。シフトキーを押しながら、次のファイル/フォルダーを複数選択します
貼り付け	切り取り/コピーしたファイル/フォルダーを貼り付けます
削除	選択したフォルダー/ファイルを削除します
名称変更	選択したフォルダー/ファイルの名称を変更します
ショートカットに追加	選択したファイル/フォルダーをショートカットリストに追加します
詳細	選択したファイル/フォルダーの詳細を表示します

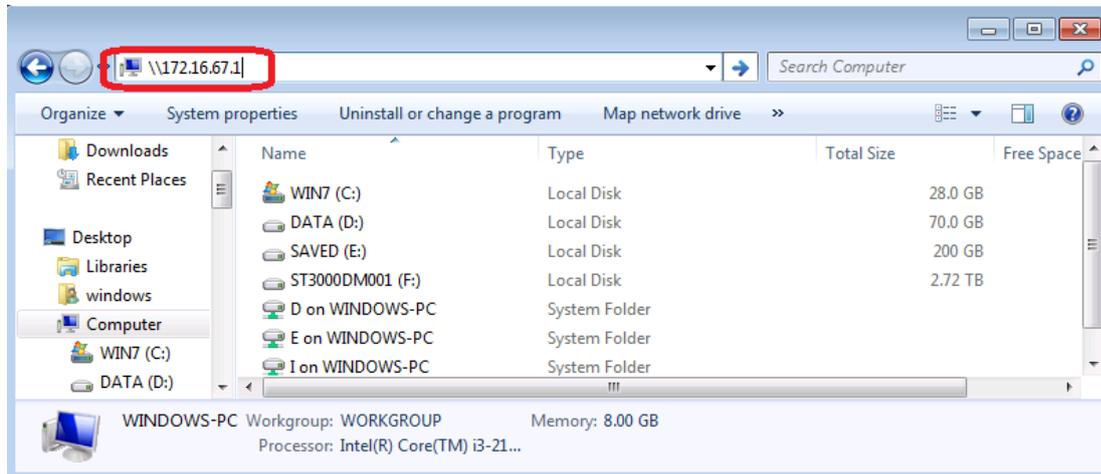
## 注

- ファイルセンターのアップロードを使って本機にファイルを転送するとファイルの属性が SA 属性に変更されます。  
Samba ファイル属性に記載の「ファイル属性とファイルの復元について」に記載している内容を参照ください。
- 一般ユーザーは WebUI にアクセスしたときこのファイルセンターの機能のみ使用できます。

## 第 6 章: お困りの時は

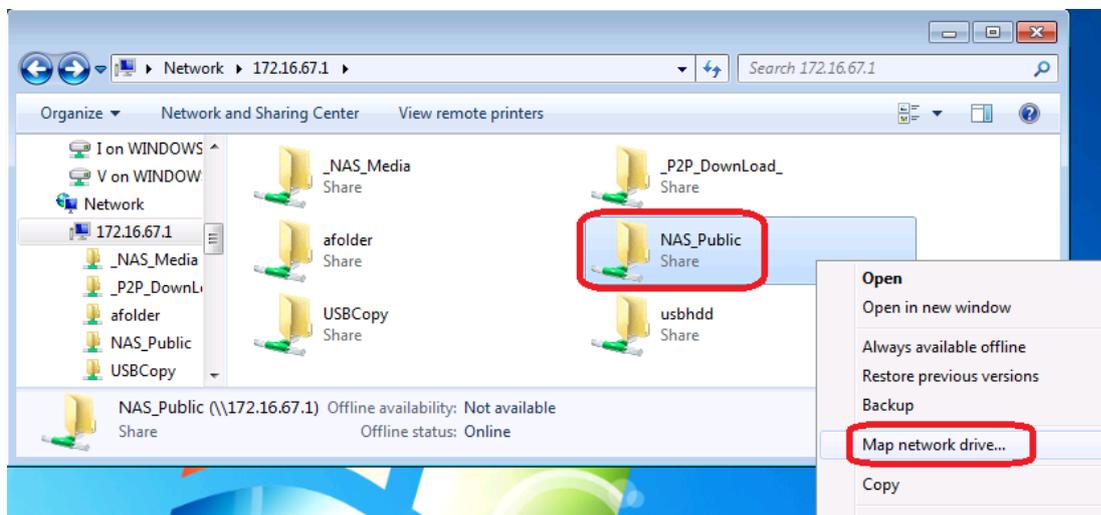
### Windows から 本機 にアクセスしたい

Windows から 本製品にアクセスする迅速な方法は、本機 の IP が 172.16.67.1 である場合、本機の共有フォルダーにアクセスするために、ファイルエクスプローラに [\\172.16.67.1](#) を入力することです。



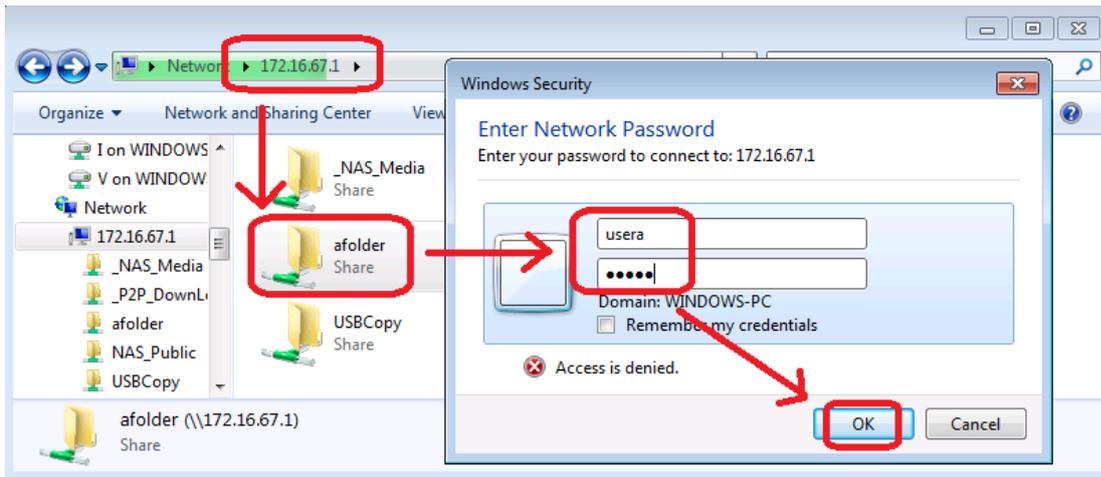
### 関連するログインユーザーアカウントを用いる共有フォルダーへアクセスしたい

オープン許可共有フォルダー (PUBLIC =YES) である場合は、マウスの右ボタンを押下して、ネットワークドライブをマッピングします。



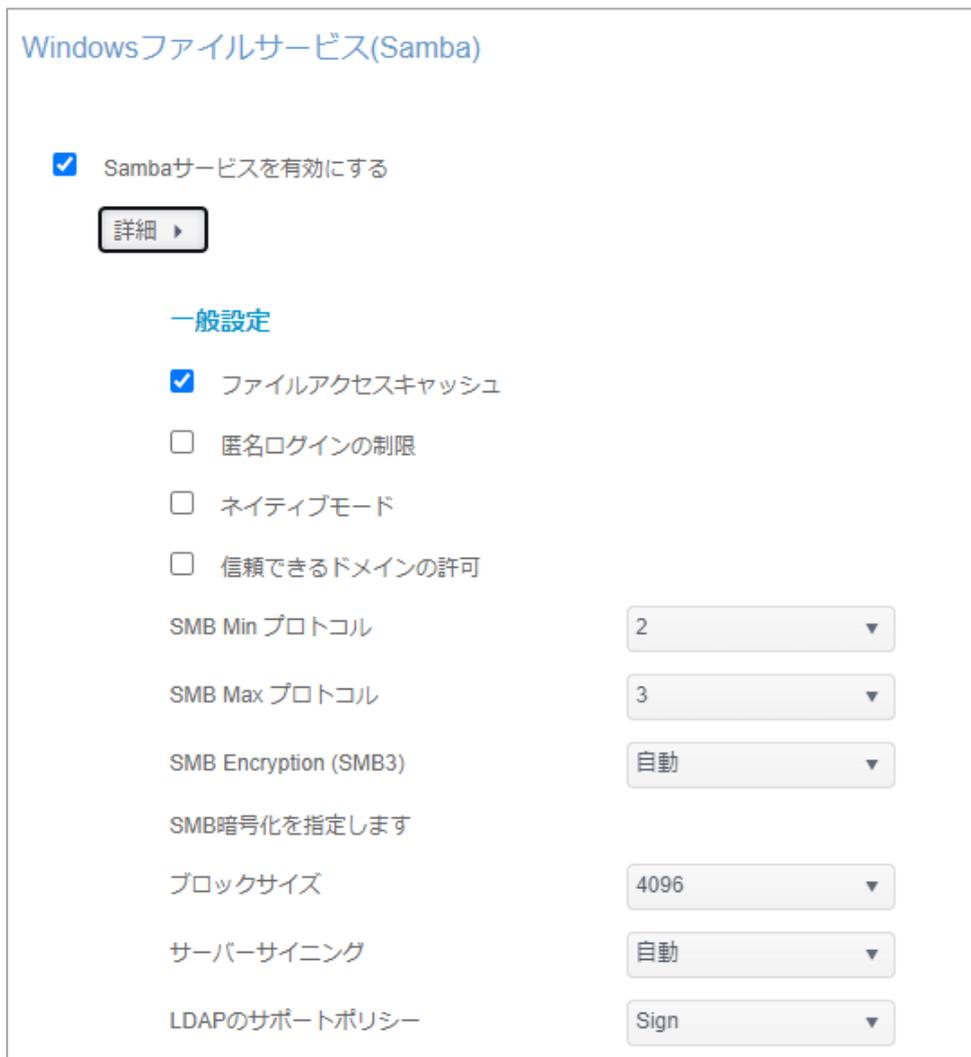
非公開 ACL 共有フォルダー (PUBLIC =NO) である場合は、本製品のユーザーデータベース上で作成され、権限が付与されたユーザーアカウントおよびパスワードを入力する必要があります。

警告: また、Windows は、自動的に接続アカウントおよびパスワードを保存します。



## アクセスできない場合には

ファイルサービスの Samba サービスが無効になっていないか確認してください。本機の初期設定は Samba ファイルサービス有効、SMB min2 max3 となっています。Windows10 の標準設定は SMB 1 無効、SMB2、SMB3 が有効となっています。



ソフトウェアファイアウォール（例：ノートンインターネットセキュリティ）を使用しており、本製品の接続に問題がある場合は、次の手順を試すことができます：

1. システムトレイ上の **NIS** アイコンをダブルクリックし、**パーソナルファイアウォール**を構成します。
2. **本製品正面の LCM** で、本製品の IP アドレスを確認します。



3. ネットワークページで、手動で本製品の IP アドレス（つまり、192.168.1.110）を信頼できるリストに追加します。

## ファイル編集できない場合は

システムの利用容量 100%となっている場合には、オフィス・ステーション Pro 上での操作が読み取り専用になっています。その場合はファイルセンターにてファイル等の削除により容量を減らしてください。

## 損傷したハードディスクドライブを交換したい

RAID 1 または 5 を使用している場合は、システムの自動データ復旧機能を利用して安全にデータを維持しながら、本製品の損傷したハードディスクドライブを簡単に交換することができます。

### ハードディスクドライブの損傷

1 台のハードディスクドライブが損傷し、RAID ボリューム内のデータが破損している場合、システムは状態を通知するビープ音を鳴らします。

### ハードディスクドライブの交換

本製品のハードディスクドライブを交換するには:

1. 損傷したハードディスクドライブがあるトレイを取り出します。
2. 損傷したハードディスクドライブのネジを外してトレイから取り外します。
3. トレイに新しいハードディスクドライブをスライドさせ、ネジを締めます。
4. 所定の位置にカチッと収まるまで、本製品にハードディスクトレイを挿入します。必要があれば鍵でロックします。
5. HDD にアクセスしているとき、LED が緑色に点滅します。

### RAID の自動リビルド

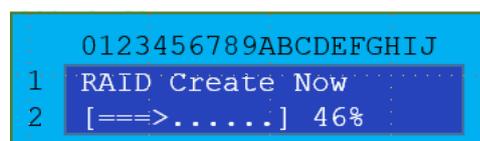
本製品は RAID 1 または RAID 5 で構築されています。エラーが検出されたときは、自動リビルド機能が動作します。

1. ハードディスクドライブに障害が発生したとき、システムは、ビープ音を鳴らし、および/または、メール通知を指定した受信機に送信します。
2. 故障したハードディスクドライブを交換するために、上記の手順に従ってください。
3. システムは自動的に新しいハードディスクドライブを認識し、ハードディスクドライブがクラッシュする前の状態に戻すために、自動リビルドシーケンスを開始します。

### LCM RAID ビルド/リビルド進捗状況表示

本機は LCM ディスプレイにおいて RAID ボリュームの作製、ビルド/リビルドの表示機能があります。

この機能により本体でも RAID ボリュームのビルド/リビルドの状況が分かる為、誤って電源を切ってしまうなど HDD のトラブルの原因となる不正なシャットダウンを防ぐことができます。



- ・RAID Create ・RAID Rebuild
- ・進捗状況矢印表示 進捗状況に合わせて矢印の長さで表示。
- ・パーセント表示 0%から始まり 100%まで表示します。





・Finish 終了すると Finish と表示されます。

・何か LCM ボタンを押すと画面表示が終了、通常のローテーション表示に戻ります。

## 時間と日付の設定がずれている

管理者は、本製品の時間を同期するために NTP サーバーを選択することができます。しかし、本製品が、インターネットにアクセスすることができない場合、時間とタイムゾーンを設定する際に問題が発生することがあります。その場合、以下の手順を踏みます。

1. Web 管理インターフェースにログインします。
2. **地域オプション > 日付/時間**に移動します。
3. **システム時刻設定**で、手動設定にチェックします。
4. **日付、時間およびタイムゾーン**を手動で**日付/時間**から設定します。
5. **適用** を押下します。

また、本製品がインターネットにアクセスすることができ、デフォルトの NTP サーバー ntp.nict.jp を維持する場合は、DNS サーバーが正しく入力され、NTP サーバー名が正常に解決されていることを確認してください。(ネットワーク > ホスト設定 > DNS 設定 を参照してください)

## Web 管理インターフェースの WebAdmin パスワードを忘れてしまった

本体から Web 管理インターフェースへの admin パスワードをリセットすることができます。

1. ↵ ボタンを押して LCM パスワードを入力する(初期値:0000)
2. ▲▼を押して Reset Admin Passwd を選択し↵ ボタンを押す
3. ▲▼を押して Yes を選択し↵ ボタンを押す

## LCM から IP アドレスの設定を変更したい

本体から本製品の IP アドレスを設定することができます。

1. ↵ ボタンを押して LCM パスワードを入力します
2. ▲▼を押して WAN Settings または LAN Settings を選択し↵ ボタンを押します
3. 最初に IP アドレスを入力する。▲▼を押して数字またはピリオドを選択し↵ で一字入力、< を選択した状態で↵ で一字削除となる。入力し終わったら IP アドレスの末尾で空白を選択し↵ を長押しすると確定します。
4. 同様にサブネットマスクを入力します
5. ESC ボタンを押すと入力を破棄して設定画面から抜けることができます

## 第 7 章：トラブルシューティング

### ネットワーク IP アドレスを忘れた場合

ネットワーク IP アドレスを忘れてシステムに物理的なアクセスができない場合、本製品の LCD パネルをみて LAN 1 で表示される IP アドレスに <https://XXX.XXX.XXX.XXX> でアクセスします。

### アクセス権限設定後もアクセスできない

ファイル共有プロトコルの仕様(SAMBA)として、ファイルサーバー側のアクセス権限を変更した場合、クライアント PC のログオフし、再度ログインしていただく必要があります。

### 本製品にアクセスできない

【WebAdmin】お客様管理者向け  
まず以下の内容を確認します。

#### 1. 本体故障の可能性

電源コード、LAN ケーブルなどが正しく接続されていることを確認します。

電源が入り、WebUI 管理画面に入ることができるか確認します。

電源が入らない⇒本体故障の可能性がありま。電源コードが原因の場合もあります。サポートセンターに連絡をし、本体交換をします。

電源が入るが WebUI にアクセスできない⇒

(1)他のネットワーク機器に問題がないか確認します⇒ネットワーク自体にトラブルがないか、本機だけの問題なのかどうかを確認します。

(2)本機の IP アドレスを確認します⇒アクセスする IP アドレスが変更されていないか確認します。

本体前面の LCD パネルを確認して LAN1 で表示される本機の IP アドレスを確認し、LAN1 に表示される IP アドレスにアクセスします。

LAN1 になにも表示されない⇒(最初から DHCP で使用していた場合) DHCP による IP アドレスの割り当てがうまくできていないか、本体故障の可能性がありま。

(最初から固定 IP で使用していた場合) ソフトウェア (OS 自体、設定) の破損、本体の故障の可能性がありま。

本体故障の可能性、ソフトウェアの破損のいずれの場合もサポートセンターに連絡してください。

#### 2. HDD の故障の可能性

コントロールパネル> ディスクと RAID> ディスクで HDD の状況を確認します。

Support の項目でヘルスマネジメントが黄色になっていないか確認します。

①全て Green : HDD に問題はないようです。

②Yellow が 1 つある : 1 台の HDD 障害まではアクセスは問題なくできます。これ自体がアクセスできない理由ではありません。しかしながら、HDD の故障の恐れがあるため、サポートセンターに連絡し、交換の措置をとります。

③**Yellow が複数ある** : RAID ボリュームが対応可能な HDD 障害は 1 台までです。複数台に及んでいる場合これが原因の可能性がありま。HDD 障害が複数の場合、RAID によるデータリカバリーができず RAID ボリュームのデータは失われます。サポートセンターに連絡し、HDD の交換を行い、外付け HDD バックアップ、クラウド、またはシステムフェイルオーバーからのデータ復旧を行います。

#### 3. RAID 暗号化が復号できない可能性

暗号化キー保存の USB メモリが正しく接続されているか確認してください。通常本体前面の USB ポートに接続されています。この USB メモリが接続されていない、または接続されていても暗号化キーが破損、存在しない場合に再起動がされた場合、RAID の暗号化が復号できず RAID ボリュームにアクセスできなくなります。

① USB メモリがない⇒紛失した際にはご購入が必要です。

② USB メモリがある⇒一度、挿し直しを行って本体の再起動を行ってください。

再起動を行っても RAID ボリュームにアクセスできない場合次の手順を確認します。

③ USB メモリを PC に接続し、アクセスができるか、また XXXXXXXX\_XXXXXX.key という暗号化キーファイルが

あるか確認します。

- ④ アクセスができ、暗号化キーファイルを確認できる⇒USB メモリ自体には問題がありません。しかし暗号化キーは破損した可能性があります。
- ⑤ アクセスできない⇒USB メモリ自体が破損した可能性があります。
- 上記①～⑤いずれの場合もサポートセンターに連絡してください。

## 以上でも解決しない場合

カスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

## 補足 A: ブザー・リスト

項目	ブザーの鳴り方	詳細
AC電源供給停止、UPSからの電源供給開始時	5 秒	AC電源からUPS電源に移行
AC電源再開/復旧時	3 秒	AC電源再開/復旧時
シャットダウン開始時	3 秒	
リポート開始時	2 秒	
NAS OS 7 起動完了時	1 秒 + 3x上昇音	
WebUIによるブザー有効時	1 秒	WebUIを使用してブザーを有効にすると、ブザーが1秒間オンになり、ブザーがオンになります
CPU/システムファンスピードエラー時	問題が解決するまで鳴り続けます	
RAID デグレード/損傷時	問題が解決するまで鳴り続けます	
RAIDタスク実行時にリポート/シャットダウンを実施時	3 秒	RAIDがRAIDタスクの作成 (フォーマット) /再構築/再同期を実行していて、ユーザーが電源をオフにするか再起動したい場合、このブザーがトリガーされます。
LANケーブルを抜いた時	0.1 秒	
LANケーブルを接続した時	0.1 秒	
ネットワークサービス開始時	0.1 秒	
電源オン (BIOS起動)	0.1 秒 x1	

## 補足 B: RAID の基本

### 概略

独立ディスク冗長アレイ (RAID) はデータ・セキュリティと高性能を提供する、複数のハードディスクからなるアレイです。RAID システムは複数のハード・ディスクを同時に利用し、単体性能を超えた高い I/O 性能を実現します。データ・セキュリティは RAID により強化されます。ハード・ディスクの不具合によるデータの損失は、RAID の他のハードディスクから冗長データが再生されることで最小限に抑えられるからです。

### 利点

RAID は、フォルト・トレランスと冗長データ・ストレージにより、I/O 性能を高めデータ・セキュリティを強化します。

### 性能の向上

RAID は複数のハードディスクを同時に利用することで、I/O 性能を飛躍的に高めます。

### データ・セキュリティ

ハード・ディスク・ドライブの不具合は残念ながら、よくあるでき事です。RAID により、ハードディスクの不具合によるデータの損失は防げます。RAID は別のハードディスクドライブが用意することで、ハード・ディスク・ドライブの不具合によるデータ損失を回避することができるからです。ハードディスクドライブの一台が故障した場合、RAID ボリュームは他のハード・ディスク・ドライブに保存されたデータとパリティからデータを再生することができます。

## RAID レベル

本製品は標準 RAID レベル 1、5 をサポートしています。

### RAID 1 (オフィス・ステーション Pro 「OS Pro」[4])

RAID 1 は、すべてのデータを一方のハード・ディスク・ドライブからもう一方のハード・ディスク・ドライブにミラーリングすることで、完全なデータ・リダンダンシを提供します。

RAID 1 は完全なデータ・セキュリティという点では優れています。

### RAID 5 (オフィス・ステーション Pro 「OS Pro」[8]/[12])

RAID 5 の提供するデータ・セキュリティは、同時に多くの小さな I/O トランザクションを実行するネットワーク、またオフ

イス・オートメーションやオンライン・カスタマ・サービスのような、データ・セキュリティを必要とするアプリケーションに最も適しています。読取り要求が高く、書込み要求の低いアプリケーションにも使用します。

RAID 5 にはバイト・レベルのディスク・ストライピングがあり、パリティ情報は複数のハード・ディスク・ドライブに書き込まれます。ハード・ディスクが故障した場合、システムは他の各ハード・ディスクに保存されたパリティを使用してすべての失われた情報を再生します。

## 補足 C: システムフェイルオーバーQ&A

Q1. オフィス・ステーション Pro「OS Pro」のシステムフェイルオーバーとはどういうものですか？

A1. 同じオフィス・ステーション Pro(同じモデル、HDD 同容量、同一ファームウェアバージョン)を 2 台用意し、1 台をアクティブ機、もう一台をスタンバイ機とします。オフィス・ステーション Pro 同士は LAN3 ポートでダイレクトに LAN ケーブルで結ばれお互いに信号を常時だしハートビート(死活管理)により監視しています。

2 台のオフィス・ステーション Pro に共通なバーチャル IP を設定して普段はそこにアクセスしてファイルを保存したり設定したりします。

バーチャル IP への操作は全てアクティブ機に転送されます。

通常夜間などのオフィス・ステーション Pro を使用していない時間帯にアクティブ機からスタンバイ機にデータが送られ同期します。

スタンバイ機はアクティブ機のクローンというわけです。

もし何かトラブルが起きアクティブ機がダウンしてしまった場合、スタンバイ機はアクティブ機を常時監視しています。

正常動作確認の時間と 1 回～5 回の確認(最短 30 秒-最長 10 分)をもってもアクティブ機が復旧しない場合、スタンバイ機がアクティブ機の代理として即座に入れ替わります。バーチャル IP でアクセスしているため、ユーザーは N オフィス・ステーション Pro 本体が入れ替わっていても変わらずバーチャル IP でのアクセスを継続できます。システムフェイルオーバーの最大の特徴はこの即応性にあります。外付け HDD バックアップやクラウドバックアップなど本製品には複数のデータ復旧手段がありますが、どれも一定の復旧時間がかかるため数分程度の時間で代替機を提供できることが特徴となります。(※最後の同期後に、アクティブ機に保存されたデータについてはどの手段でも復旧できません。)

ダウンしたアクティブ機はサポートセンターへ連絡し、本体交換、HDD 交換など必要な復旧措置を行い、現アクティブ機(旧スタンバイ機)をアクティブ機に、復旧した旧アクティブ機をスタンバイ機と役割りを入れ替えて再設定を行い、再びシステムフェイルオーバーを再構築しなおします。(旧スタンバイ機がアクティブ機の代理中にデータの書き込みが行われオフィス・ステーション Pro のデータは旧スタンバイ機の方が最新のデータを保有しているため)

そして夜間同期によりスタンバイ機(クローン)として動作します。

この 2 台体制で本製品はお客様のデータを強力に保護、バックアップいたします。

※再起動、シャットダウン、停電など不測の電源喪失による不正なシャットダウン、ファームウェアのアップデートに伴う再起動など本体自体のトラブルとは言えないフェイル(故障ではないため、故障と認識せずにフェイルオーバーするべきではない事象)により、不必要なシステムフェイルオーバーが起こってしまわないように、再起動などに関係するタイミングでは設定した正常動作確認の時間、間隔とは異なる動作確認間隔(180 秒)によって監視、制御されています。

Q2. アクティブ機がダウンした場合はスタンバイ機が代理を務めます。ではスタンバイ機がダウンした場合は？

A2. メインとなるオフィス・ステーション Pro はアクティブ機であり、アクティブ機がスタンバイになることはありません。

スタンバイ機を復旧させ、再度設定し、システムフェイルオーバーを再構築します。

Q3. アクティブ機とスタンバイ機のデータの同期とデータが失われる可能性は？

A3. アクティブ機とスタンバイ機のデータの同期は設定間隔(5 分～毎週で設定)で実施されます。

システムフェイルオーバーが発生したタイミングによっては、スタンバイ機への同期ができていないデータは失われます。

また、クラウドバックアップや外付け HDD へのバックアップ対象のデータについても、失われる可能性があります。

## 補足 D: システム LED 表示リスト

項目	ステータスLED状況	説明
システム起動1	LED 消灯	BIOSが起動し、カーネルを読み込み中
システム起動2	白色LED 点滅	カーネルモジュールを読み込み中、SDKを開始
システム起動完了	LED 消灯	システムは起動完了
システムシャットダウン/リブート	白色LED 点滅	システムシャットダウン中またはリブート中
RAIDヘルス	LED 消灯	RAIDヘルスは問題ありません
RAID縮退/損傷	赤色LED 点灯	RAIDは縮退状態または損傷を受けています
RAID再構築	LED 消灯	RAIDは再構築中
RAID容量警告	白色LED 点滅	RAID容量の90%以上を使用しています
ファームウェアアップデート中	白色LED 点滅	ファームウェアをアップデート中